

川柳塔

令和五年八月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一一五五号



日川協加盟

No.1155

八月号

第29回 川柳塔まつり

と き 2023年(令和5年)10月7日(土)

開場:午前11時 出句締切:正午 開会:午後1時

と ころ ホテル・アウリーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12(近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《同人総会・議事》午前10時より

2022年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2023年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《各賞表彰式・記念句会》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし フレイル予防のための「食」と「社会参加」

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部教授 井 尻 吉 信 氏

兼 題 「刻 む」 川 柳 塔 社 藤 井 智 史 選

「まっすぐ」 川 柳 塔 社 藤 田 武 人 選

「揺れる」 川 柳 塔 社 大久保 眞 澄 選

「未 来」 川 柳 塔 社 榎 原 道 夫 選

「 笛 」 番傘川柳本社 片 岡 加 代 選

事前投句 「自由吟」(8月31日必着) 川 柳 塔 社 小 島 蘭 幸 選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます

出句締切 正 午(午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会 費 2,000円(当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎ 呈 記念品

《懇 親 宴》

と き 令和5年10月7日(土) 午後5時～7時

と ころ ホテルアウリーナ大阪 3階 葛城の間

☆会 費 7,000円 先着申込み 130名様

*事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて8月31日(木)までに本社事務所宛、お送りください。

*会費は当日受付をお願いします。

*新型コロナの状況により中止せざるを得ないときはご容赦願います。

主 催 川 柳 塔 社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201

〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490

やっさ川柳会

小島 蘭 幸

やっさ川柳会50周年記念句会が、7月9日に三原市の商工会議所で開催されました。祝宴があるので私は呉線で出席する予定でしたが、大雨警報が発令されていて始発電車から運休でしたので車で出席しました。

午前11時、吉永団風やっさ川柳会会長の挨拶ならびに来賓紹介で記念句会は始まりました。来賓として出席される予定だった岡田三原市長は、大雨、災害に備えて市役所で待機することでした。

来賓祝辞の中で私は、懐かしい話をお願いしますと言われていたので次のように話をさせていただきました。：やっさ川柳会50周年おめでとうござい

す。

むかしから母と呼ばれる女強し

篤

昌 明

母ちゃんと呼び名も変る二人きり

昭和48年10月6日、山内静水竹原川柳会会長宅で竹原川柳会10月句会が開催されました。三原青年会議所の皆さん7名が出席されました。冒頭の2句は、席題「母」三宅不朽選の入選句です。昭和48年9月1日、「おはようラジオ」で山内静水会長が5分間、川柳のお話をされました。たまたまこの放送を当時20代だった三原青年会議所の下門某子さんが聞いておられたのです。平成2年3月、合同句集「千鳥足」発刊記念の会が開催されました。入院中だった静水会長は仮退院をされて、私と一緒に出席しました：続いて平野笑迷やっさ川柳会前会長の乾杯の音頭で祝宴は始まりました。二段重の豪華な料理と酒、話は弾みます。祝宴が落ち着いてからいよいよ選句発表です。私は「自由吟」の選をしました。

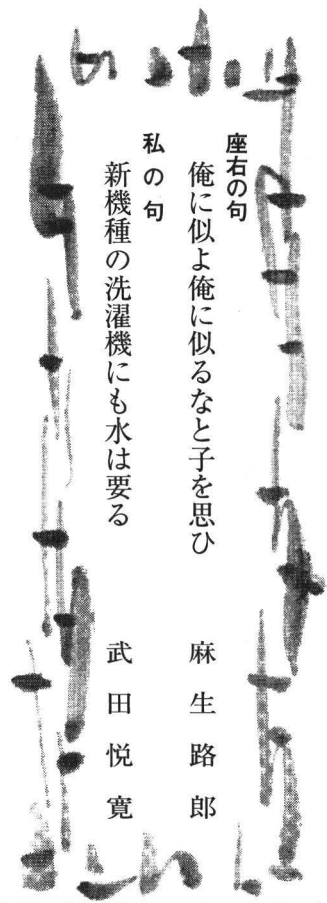
奇跡から生まれ半世紀を祝う

蘭 幸

大東東大三原商工会議所副会頭の閉会の挨拶で楽しかった記念句会は終了しました。

この度の集中豪雨により甚大な被害に遭われました皆様にお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

川 柳 塔 社



座右の句

俺に似よ俺に似るなと子を思ひ

麻生路郎

私の句

新機種洗濯機にも水は要る

武田悦寛

川柳塔 八月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「内子座・愛媛」

■巻頭言 やつさ川柳会

画狂を貰いた父と支え続けた三女お栄

小島 蘭 幸 ……(1)

川柳塔(同人吟)

三上 大 輪 ……(2)

菠蘿草の花 ⑧

小島 蘭 幸 選 ……(4)

俳風柳多留二三篇研究 36

野 沢 省 悟 ……(37)

自選集

句集の森

永 宗 宗 義 ……(43)

温故知新

木 本 朱 夏 選 ……(44)

水煙抄

吉 村 侑 久 代 ……(61)

英語 de Senryu ⑩

新 家 完 司 選 ……(62)

愛染帖

江島谷勝弘・永見心咲共選 ……(66)

檸檬抄「順」

画狂を貰いた父と

支え続けた三女お栄

川 上 大 輪

何気なくTVを見ていると、英雄たちの選択「森羅万象に挑んだ絵師、画狂・葛飾北斎」が目飛び込んで来た。絵師葛飾北斎は世界的にも有名だが、柳人としての北斎はあまり知られていない。しかし俳風柳多留85編の撰者と「序」を記し、三百五十有余の句を残している。

川柳に関しては昭和54年に渋温泉旅館組合から宿六心配氏が『正北斎川柳』を出版されているので、是非一読を。

北斎が人気絵師となったのは40歳を過ぎたから。名前を確固たるものにしたのが55歳の時に刊行した『北斎漫画』だ。

70歳を過ぎた頃、ペロ藍という絵の具が輸入された。そのペロ藍から生まれた『富岳三十六景』は北斎の新境地を開き、90歳までひたすらに絵を描き続けた。そこにはもう一人の人物がいた。それが北斎の三女お栄だ。号は葛飾応為。北斎が娘を呼ぶと

一路集 (「コンビニ」)

〔脱ぐ〕

初歩教室「乗り物」

川柳塔鑑賞

水煙抄鑑賞

橘高薫風句集「肉眼」

路郎賞・川柳塔賞

選考規定

インスピレーション・ナビ 印象吟

『麻生路郎読本』余滴 (7)

せんりゅう飛行船 (8)

七月本社句会

各地柳壇 (佳句地十選／安福和夫・米澤俣子)

柳界展望

八月各地句会案内

■編集後記 (ひとこと／三谷松太郎)

道夫・憲彦・国和

(106)

丹下凱夫選 (70)

大内せつ子選 (71)

平井美智子 (72)

安土理恵 (74)

松岡 篤 (76)

(77)

(78)

大西泰世 (80)

栗原道夫 (82)

新家完司 (84)

(85)

(90)

(103)

(104)

座右の句

ぬぎすててうちが一番よいという

岸本水府

私の句

正直な家に舞込む福の神

北野クニオ

きにいつもおーいおーいと呼んでいたの
その名が付いたようだ。お栄は父北斎も、
美人画では敵わないと唸るほどだったと言
う。

75歳を機に北斎は雅号を画狂老人と改
め、「一点一画にして生けるがごとく描き
たい」と、版画ではなく肉筆画へと傾倒し
て行く。

信州小布施には北斎入魂の肉筆画が多く
残されている。北斎の絶筆と言われる富士
越龍。(嘉永2年、北斎90歳)

この絵を描いたのは北斎が亡くなった
年、龍は死期を悟った北斎の姿とも。この
絵が描かれた3ヶ月後、お栄は父北斎を看
取る。

いまわの際、北斎は「あと10年、いやあ
と5年の命があれば真の絵描きとなれたも
のを」の言葉を残したが、5年10年寿命が
延びたとしても同じことを言っただろう。
目の前にある満足感の一手手前が一番幸せ
だったのかも知れない。

北斎辞世の句

悲と魂でゆく気散じや夏原



小島蘭幸選

堺市内藤憲彦

梅雨の色多情多恨の花しようぶ

ありがとうごめんなさいで無事老いる

AIが名人になる日が近い

公私混同世襲の弱さ出た総理

どしゃ降りに僕の車を洗わせる

川柳に焼き餅やいている妻よ

松江市石橋芳山

一円と五円が行き場なく溜まる

氣に入らぬ人は洪柿でいなさい

白桃の産毛にため息が漏れる

トゲトゲの空氣で満ちている小部屋

どこにでもチョイと顔出す鰯フライ

濡れていくほどに淋しい夜の雨

岡山市工藤千代子

黄薔薇は言いたい事を迷わない

カレー鍋小さくなった匙ふたつ

布団干す命の匂いするように

雨続く何も無い日のハーブティー

今日ひと日時計を捨てて中島潔

良妻の仮面捨てたり拾ったり

三原市笹重耕三

子に渡すバトンが横たわる荒地地

夢を追う風は一年中まつり

母の日は暮れても父の日は明けぬ

景色も頬張る自粛明けの車窓

まだ悩みあつて平和な脳回路

家計簿へいまだ続いている余震

桜井市安土理恵

八月は暑い焼かれた空は尚熱い

思い出す顔は無邪気に笑ってる

世界のトップに媚びたりしないヒロシマは

涙まで染める八月の赤い花

大丈夫とにかく生きてますわたし

生きてる限り責任もって愛さねば

堺市 栞原道夫

少年よ千匹の蝶を飛ばせ
半過去でばんばんになるランドセル
体内で光り始めてきた蛍
亡き人を問い詰めている夢の中
踏切を待っている間の旅ごころ
自転車をもめています帰り道

大阪市 高杉力

情けには情けで返すほかにない
いざという時にみつからない輪ゴム
ニユートラルな私に色を付けたがる
笑ってはいるが油断はしていない
面倒なことはバスタオルで包む
遮断機が上がると新しいゲーム

倉吉市 牧野芳光

雑草は伸びる挿し木は芽を出さぬ
梅檀の花ぼんやりと午睡する
はびこるまでは歓迎される月見草
血液はさらさら脳はべとべとに
じつくりと煮つめて僕の味にする
エンディングノートにも書けない秘密

枚方市 栃尾奏子

王冠も輝きもうキミのモノ
ライバルの頭上に月があるのだな
才能という神さまの依怙蟲眞

内緒だと魔女と契ってからの鬱
夜が来る一度のズルが重たいな
太陽がボクを裸にしよう

大阪市 小野雅美

越えましよう神が与えた壁ならば
吹き消してはならぬ心にある炎
しがらみは切れない百均のハサミ
いつだって出せる白旗持ち歩く
着信の鳴らぬスマホへ猫パンチ
父の食器軽く割れない物にする

鳥取県 斉尾くにこ

どうしたと訊くからどうかしないとね
テレビへと耳を傾け鮭を焼く
雨あびる傘太陽をあびる傘
ぽんと咲くアガパンサスの青花火
終章のなかなか書けぬ顛末記
毎日が小さな幸の採集日

大阪市 平井美智子

愛してくれたのに気付かずにゴメン
猫にならちゃんとゴメンと言えるのに
約束の小指の先の夕時雨
伝わらぬ想い背負ってカタツムリ
淋しさを重ねて闇を舞う蛍
もう少し待ってよきつと笑うから

河内長野市 森 田 旅 人
残り半年愛車手放す日を数え

家中のカーテン縫って陽の優し

巡礼の道完歩の友に受く刺激

サンティアゴ・デ・コンポステーラ 往きたい

九十五歳歌人の全てチャーミング

赤白青紫陽花屋敷蝸牛

横浜市 川 島 良 子

孫に逢う夏 北海道での夏

失格の涙歓喜の涙へと繋ぐ

地盤看板カバン 世襲政治にみる驕り

何か違う違う違うと今日も暮れ

本当の理由は他にありそうだ

ひと言が重たい空気変えました

富田林市 中 村 恵

師のことば襟を正して聞いている

わたしにもあるデリケートな感性

腹が立つ自分の中の嫉妬心

真夜中の時計むかしを語りだす

未来図に父母もわたしももういない

その時は笑顔のまま立ち枯れる

東かがわ市 川 崎 ひかり

今日開ける扉に貼ろうニコマーク

洗っても欲を盛る手が生臭い

割烹着似合う昭和のお母さん

目に見える物だけ信じ生き辛い
ポケットにスマホ入っている安堵
倅せを入れるポケット深く縫う

寝屋川市 伊 達 郁 夫

青い星少し汚して秋刀魚焼く

大声で泣いても海はまだ広い

筍を茹でると夏が笑いだす

苦笑い君も淋しい人なんだ

酒飲んで身体の調子確かめる

冷たい手温い手どれも私の手

鳥取市 吉 田 弘 子

敬老会参加してまた歳をとる

手も足も腰も真つすぐ曾孫の絵

寒暖差太刀打ちできぬ歳自覚

もののいい決め手付度ないビデオ

Vサインのポーズ殆んど笑顔です

コーヒー党の夫へコーヒーの香の線香

三田市 上 田 ひとみ

雨の中別れた人の声がして

ひたすらにキャベツ刻んでいるラジオ

ポケットの中に残っていた涙

コーヒーはブラックなんて笑わせる

強がってごめんそれでも好きでした

あなたからさよなら言って欲しかった

鳥取市 岸 本 宏 章
竹の花咲いたニュースが氣を揉ます

朝昼晩きつちり食べるのも日課
スーパ一の撤退続く過疎の町
自信ある人は弾きたい駅ピアノ
免許証返納させたのは家族
冗談じゃないよ年金上げてくれ

箕面市 中 山 春 代

荷を解く前にありがたうの電話
目に汗が入る剪定ボランティア
残り物の他は一品冷奴

大根が行ってブリ大根が来た

甘酒は猛暑の薬冷蔵庫

ウォッカはもう飲まないぞブーチンめ

貝塚市 石 田 ひろ子

健やかに生きた証しの背の丸み
趣味のお蔭心に齡は取らせない
ヤングケアラー昔は当り前の事
ネイルアート米寿をちよつと弾ませる
父の日の何事も無く夕御飯
ひと時の心遊ばす時代劇

三田市 中 山 昭 美

大袈裟な封書で届くコロナ便
紫陽花は雨待ち私咲くを待つ
姑も嫁のご機嫌とる時代

にっこりは誰でも出来るボランティア
遺産分け他人行儀な口になり
簡単に転び日常遠ざかる

越谷市 久保田 千 代

立ち位置を知って静かに風受ける
踏み出した一步が変える空の色
積んで来た歴史を崩す地異続く
生きるのも死ぬのも定めおぼろ月
運不運ただまっすぐにまっすぐに
寂しくないかケータイだけが友達で

西予市 黒 田 茂 代

一輪挿しの出番が増えた春の章
山里の花は自分のために咲く
同じものの美味しい時と不味い時
脆弱なところ壊れぬよう生きる
わたくしの欲が絡んで曲がった木
受け継いで自分の番を生きている

大阪市 宮 崎 シマ子

誕生日いちごもらって嬉しいな
家出た子の靴もハンガーもそのまんま
家も親も友達もいない古里よ
十年たってもヨガの動きを忘れない
川柳に出席したい皆の顔みたい
一人になると泣き虫の私

松江市 藤井寿代

華のある人生だった泣いたけど

六月の雨私には似合わない

生きてて良かった指折り数え孫の挙式^{しき}

勝負よりコートに立てる有難さ

雨音をショパンに変えて昼寝中

松江市 松本知恵子

ネコの水忘れぬように梅雨に入る

原爆の恐怖見る知るG7

資料館視察首脳の顔変わる

被爆地でサミット緑溢れてる

手話があるメールも伝えたい言葉

出雲市 伊藤玲峰

穏やかな五月出雲大社の大祭禮

運転免許返上したら寂寂と

老いすすみ送る役かな残されて

友の絵の展覧会に誘い合う

久しぶり元気な友と語り合う

岡山市 大石洋子

ありったけヘルスグッズを買いあさる

古希すぎて迷路のなかで立ち往生

死に神と綱引きをして腰痛い

私は小さくなって木々育つ

生きている証しルージュは「まっ赤」

岡山市 丹下凱夫

けったいな神様もいる善光寺

御利益はないが手だけは合わせている

一日中雨をながめて一行詩

二、三匹オタマジャクシの金魚鉢

あおいろのあじさいが好き雨が好き

岡山市 前田恵美子

呆け防止子猫の声で起こされる

猫のミルク小さい缶がバカ高値

梅取りも大木のため命綱

梅取りの夜は足癒れ呻く夫

ジャガ芋と梅と子猫で日が暮れる

笠岡市 藤井智史

314の……愛

湿り気が多いと愛のセミダブル

四季という書齋代わりの電車旅

生温いビールじゃ酔えぬ夜勤明け

揺るぎない愛を遺す句碑公園

岡山県 高岡茂子

四年振りの友は大雨つれて来た

白鷺が自己主張する田植水

パリ祭近づくシャンソン聴けるかも

新緑に囲まれていた田中館

マスク外しバックミラーでつける紅

岡山県 藤澤 照代

断捨離の最後に残るのはわたし

魅せる雨喜ばす雨泣かす雨

老いの耳ある時遠くまた近く

平凡な暮らしへ夫婦手を繋ぐ

天国へ電話が欲しい寂しい夜

広島市 岸 本 清

10歳は若く見られるこの帽子

このツユであそこの麺が食べたいな

忘れたら楽になるのに思い出す

寒暖差疲労に悩む老夫婦

想像だにせぬことを夢見る不思議

尾道市 小 川 道 子

辛抱しんばう齢八十六

水溜まり幾つも跳んで今此処に

涙ひたひた一日が長かった

いにしえの憧れひとつ抱く命

長らえて共に歩いた影法師

尾道市 小 畑 宣 之

青春時代負けるものかと失つてた

絶対は無い太陽も燃え尽きる

人生の節目節目に恩人が

蟻の列輪送隊いや軍隊か

八十路坂縦列駐車苦手です

山口市 兼 崎 徳 子

それぞれに思い出のある帯の数

新婚を社交ダンスで思い出す

すれ違う心はいつも雨模様

セルライト消すぞ筋トレ2年生

飛び込まぬZ世代の冷静さ

岩国市 上 村 夢 香

こども等のよさこい踊り晴れの空

ひとり旅どんなドラマが待つものやら

主人公になってひとりのシネマ館

夢は夢と開き直って言いきかせ

会うたびに同じはなしで盛り上がる

防府市 坂 本 加 代

初体験コロナ禍の世をくぐり抜け

サムライの兜世界に知れ渡る

クールだね外国人の誉め言葉

雨の日はしみり深い句が出来る

動かねば景色変わらぬ常ならず

鳥取市 池 澤 大 鯨

漠然と山の形が見えてきた

暴走を許す市民へ不安がり

ばくぜんと不安感じる軍拡に

漠然と不安はあるが認知症初期

緊張のとけるとときあり息抜きす

鳥取市 奥田由美

お婆さんからシニアシートを譲られる

気が早いハエが二歳に叩かれる

耳鳴りと不協和音のセミしぐれ

縁談があふれるポチは適齢期

ブランドの傘なら買えるパート給

鳥取市 岸本孝子

気休めに肉と魚は日替りで

生真面目に打つも打ったと六回目

句会でもマスク自由と告げられた

何となく落ち着いてきた夏布団

新聞に脳トレせよと急かされる

鳥取市 田賀八千代

生きている証かバラの棘痛い

婆ちゃんの財布孫の便利屋さん

太陽にメダルあげます美味しいナス

青春を呼び戻されたラブソング

親心息子家族の苗も植え

鳥取市 棚田大

時計にも生かされているありがたや

講演に時計気になり見入っちゃう

心こめ無事を祈るも実らない

えっ旅行その言葉聞き元氣湧く

春もまた俺を育てる大感謝

鳥取市 谷口回春子

やつと人並み苦楽を俱に五十年

ヒーローになった途端に目が覚めた

愛妻が雅号で呼んだやる気湧く

襖越しいないと思った人がいた

愛妻とラブのサイズはびつたりだ

鳥取市 永原昌鼓

イケメンも歳には勝てぬ背が丸い

食べる物おいしいうちはまだ元気

一見の価値あり砂の美術館

一人住みバスもトイレも一人じめ

若い一人ちよつとの音にギョツとする

鳥取市 中村金祥

王冠の重みは民の重い声

線状帯鬼のホースが凄まじい

タイガース寅年去つてよく跳ねる

素人の剪定嚙うカラス達

梅雨寒へやつぱり熱いお茶が良い

鳥取市 福西茶子

ボケ防止の講話補聴器付けていく

威勢よく鳴るはずだったクラッカー

プレゼント贈る母居ぬ淋しい日

オットット踏ん張れたのはその昔

余生舞うあなたの居ないステージで

鳥取市 前田 楓花

おーいスズメ田舎はいいぞ餌がある
大の字でれんげ畑の草いきれ
お疲れさん湿布貼り合う風呂上がり
開発の裏で地球は傷だらけ
来る人は両手広げてウエルカム

鳥取市 山下 凱柳

いかげんにしてくれ総理茶番劇
昭和の風吹く懐メロに聞きほれる
漠然とした不安に生きる高齢者
無職でも食べることだけ日に三度
投打走一喜一憂ショータイム

倉吉市 大羽 雄大

集音器外してほっとしてる耳
吹く風に逆らわないで脇にいる
ご丁寧に不要品買うとの電話
その上を狙いエンピツ替えてみる
マスクとり丹念に髭剃っている

境港市 藤原 久直

丈夫な菌季節の味を噛みしめる
六回目ワクチン打ってまだ怖い
カレンダーハートマークは通院日
ゴミ出しはジャンケンポンで五連敗
五十九年ヨイショしながら老い二人

米子市 池田 美穂

式終えた二人新芽は出たばかり
すぐ怒る息子よボケになりますよ
脳ドック行くのが怖いもの忘れ
脳内の柳句工場フル稼動
コーヒーの伴に奈良漬けマイブーム

米子市 伊塚 美枝子

旅支度三年前にできてます
コロナ明け自粛し過ぎて出不精に
出不精にフェイスブックの花便り
重い腰上げて誘われ旅に出る
紫陽花の笑顔が見える今朝の雨

米子市 後藤 宏之

美人ではないがよく来た角の店
めでたくもないがたまには豆ごはん
表情がかたい鏡を見て笑顔
変らないねと見えすいたお世辞言う
仲のいい友でも少し距離をおく

米子市 後藤 美恵子

特殊詐欺欺に銘じる佻しい世
移住者が過疎に希望の種を播く
味のあるレトロな店がたたまれる
数粒の葉が潜む炬燵あげ
連休明け体調くずす遊びすぎ

米子市 妹 能 令位子

やつぱりね亡夫の仲間は飲み仲間

難病の一つになった認知症

すつきりと草取り終えた夏の庭

シワ消える詐欺かと思うコマージュ

笑い声だけは忘れず老いの坂

米子市 竹 村 紀の治

伸び代はもう無いけれどゴムはゴム

腰痛は祈るだけでは治らない

分らない寿命に明日を賭けてみる

入院で家事一切を放棄する

奢ってもらおうといつまでもうるさい

米子市 中 原 章 子

心地よい目覚め一日動きだす

きゅうり支柱やりとげほつと二重丸

前屈み年寄りじみて嫌になる

気にしない人はそれほど見ていない

その時に備え身辺整理する

米子市 成 田 雨 奇

見栄を張るくらいの自信あるといい

鈍いのであまりむかむかしいです

八十路越え守るものなど何もない

老いの芽を少しでも摘むスクワット

何気なく書いていた字がわからない

米子市 野 川 宣 子

バラ色の人生なんて絵空事

父と子が逆転したよめし茶碗

イライラもごはん囲むと和やかに

熟女でも時間かければ発芽する

後姿見るとやつぱり年寄りだ

鳥取県 門 村 幸 子

柿若葉思わぬファイト雨上がる

カラスふわり自転車籠の肉狙う

懐くのが苦手で損な生まれ付き

十葉の観賞用に薬用に

紫陽花に恋する季節梅雨に入る

鳥取県 竹 信 照 彦

睡蓮と菖蒲満開あやめ池

蒜山ドライブ娘の親孝行

敷地内事故で運転禁止され

句会行くもつばら妻の送迎で

句会済み迎え買い物済んだ頃

鳥取県 細 田 裕 花

幸せの欠片が溜まるスマートフォン

昔話多くなつたと思う居間

昔話に真心というしつけ糸

青葉さらさら若さつて素晴らしい

減塩のレシピへ舌が文句言う

鳥取県 本庄 ひろし

氣遣いにホッコリしたネ泣きました

今日休みテレビドラマの見放題

福耳と呼ばれて来たがまだ来ない

三回目計画倒れプチ旅行

祈っても叶わないけどまた祈る

鳥取県 山下 節子

コンビニが出来て一息つく過疎地

母さんの代理は出来ぬお父さん

白湯を呑み健康管理しています

小遣いはバイトで稼ぐ大学生

地震かな少しの揺れも気にかかる

松山市 大内 せつ子

じんわりと距離をちぢめてゆく影絵

未知数へ黒い句点を打ちますか

トレモロばかり飲みこんでいるソーダ水

あきらめ上手きつとあなたは生き上手

ガクアジサイの雨はシヨパンを受けとめる

松山市 栗田 忠士

胃肝心腎肺検査異常なし

不満一つ言わぬハートよありがとう

月曜日の鬱とは無縁今日も晴れ

生命線短いけれどまだ生きている

少子高齢過疎化日本の未来

松山市 古手川 光

陸前高田一本松のど根性

日本が好きと台風急カーブ

雨雨降れ降れ 唄うなと被災地

廃校で子供の声も消えた郷

このままじゃ四季という語もさようなら

松山市 宮尾 みのり

伝統芸能言わずもがなの深い闇

きれいな事言うのは止めて除草剤

ふるさとを捨てた私を嘲えるか

あの時の決断批難浴びたけど

忘却という人生にあるクスリ

松山市 柳田 かおる

気を抜けばどんどん老いは容赦ない

諦めてはいない余力があるうちは

ドーナツの穴が小さくなっている

歳月の長さ老舗が消えている

珈琲一杯おしゃべり3時間

今治市 永井 松柏

輪廻だろう一人来てまた一人去る

初めからボタンの掛け違いだった

遠くの町で幸せに暮らすがいいさ

天国に召される順を待つベンチ

生きるとはたった一度の綱渡り

今治市 安野 かか志

澄みきった空が黄砂のプレゼント

原因は鉛一つの掛違い

寝不足を補うような始発客

ナナハンのマナーが走るツーリング

些細なことを朝から妻が怒鳴ってる

西予市 西田 美恵子

アドレスは君の名前に変えました

匿名の投書よはしゃぎ過ぎないか

正論で開かず異論で開く扉

恋人の海に私の舟が浮く

笑い声が洩れる二人の窓が好き

高知市 三谷 松太郎

わくら葉よはらはらと散る義理堅さ

百害も一利も無縁ただ悔し

遠くなる企業戦士の足音も

老い自覚六十八点そんなところ

八十路来てなんだかんだとクスリ攻め

土佐清水市 辻内 次根

ほうれん草の花を思い出している

来客があるかも知れぬ身繕い

結跏趺坐一輪花が咲いている

日本語が怪しくなつて辞書を繰る

菜園の鋏は我が家の自給率

阿南市 小畑 定弘

愛の文字ひさかた振りにルビを打つ

日に一句生きた証しの日記帳

あの世へは大手を振ってゆくつもり

權持たず余生の舟に乗っている

たまらなく喜寿の私がいとおしい

熊本市 杉野 羅天

薔薇一輪挿して机上を和らげる

ご先祖に感謝皆勤四十年

ブーム去り真価問われる陶芸家

過疎化して猪鹿猿の取る天下

美味すぎる温泉玉子塩要らぬ

宮崎県 黒木 栄子

甘藷掘る好んだ母を偲びつつ

避けたのにまたも苦手と鉢合わせ

とれたてのキューリ一本丸かじり

もう古稀とまだまだ古稀と山登り

立ち位置を思案しながら書く便り

北九州市 小松 紀子

歩道橋見上げただけで無理ですわ

ぶらんこで遠い昔を見ています

とめどないぐちをきく今日のさくら餅

句を作る楽しみありて旬な今

亡母ならばどうするだろう着地点

福岡県 本田 さくら

変わったねでも変わらないぬくもりよ

その昔の仲間と会えたよろこびよ

洗濯干すかたわら蝶があいさつす

運動会二人の孫もがんばった

うちの裏学校生徒が元気です

唐津市 坂本 蜂朗

講読料払い男が燃え上がる

立ち止まること多くなる八十路坂

年寄りの自転車に吹く向い風

妻と医師のやりとりを聞く診察日

若作り期するものあり診察日

札幌市 小澤 淳

風呂屋には週2裸の友がいる

戦なく川柳詠める国であれ

山菜は畑に植えて売る時代

子の世話になるまいと言う意地も見せ

肩の荷は下りた名刺のないくらし

男鹿市 伊藤 のぶよし

嗚呼ドラマまだまだ続くアドリブだ

反抗をしたくなるのも老いの質

そつの無い人だ笑顔を隠さない

雨天決行通じたか雨上がる

そよ風だろか洪水だろか 麦畑

黒石市 石澤 はる子

錆びついたネジ巻き直す誕生日

スーパ―へ廻り道する五月晴れ

ショパンが好き民謡もつと好きになる

結び目を緩めるコツがまだ未熟

花活けて今日一日を整える

黒石市 北山 まみどり

想い出を一つ増やして鎌倉路

大仏の首を垂れた慈しみ

息子とはこうあるべきか人力車

満腹で散策なさい中華街

決心を鈍らせる甘栗の誘い

弘前市 稲見 則彦

十聞いて一つがやっと現在地

処理水は基準以下だとだとしても

家計簿の赤字を埋める交際費

歩数計三桁で終わる日が続く

だからって除草剤には頼らない

塩竈市 木田 比呂朗

三年振り花火笑いを庭に蒔き

追われても追われても夏カブト虫

ハンガーの背広のような日を送る

戦争のように値上げはまだつづき

徴兵へマイナカードは布石かも

横浜市 菊地政勝

顔色も変えず病名聴いてくる

有り金が足りそうもない余命表

家計簿に妻の魔術があるらしい

疑問符がつぎつぎと湧く成長期

安心な年金が泣く物価高

上尾市 中村伸子

五十年たつて女歌だと気づく

痺れます連夜の一点差ゲーム

発想の似た句で負けたのは私

激痛に耐える人あり柳誌読む

誰も見てない所でスクワットを百回

朝霞市 前田洋子

台風の中へミサイルのアラーム

気晴らしのつもりの曲に泣かされる

ギブアップ続くはずない強がり

メンタルが弱くなつたなトホホホ

猫のシルエット隣の窓に希望の灯

東京都 川本真理子

目の奥に尻餅ついた仔の涙

思い出は徐々に優しい色になる

もういない父に相談もちかける

ここからは一人で行くと子を帰す

必要とする人はもういない星

八王子市 川名洋子

空元氣出し今日から明日へバトン

とんとんの人生でいい八十路坂

お見舞いに明るい嘘を包み込む

女らしく男らしくのプレッシャー

青梅の香に包まれて梅漬ける

石川県 堀本のりひろ

砂浜に埋めた誓いは波に消え

母さんの小言のシャワー僕子猫

艱難辛苦ただ耐え耐えて大空へ

野放図にやったあげくの枯れススキ

独り芝居見渡す限り枯れ野原

可児市 板山まみ子

この先に夢は持てない八十四

現実に追われ夢見る時がない

食べる寝るできてるうちは遊べそう

財産はおしゃべり好きな仲間達

押し入れは要らない物の宝庫なり

岐阜県 喜多村正儀

明日への力残してする早寝

大好きに手抜きなどせぬ横恋慕

いち押しの笑顔はじけるコロナ明け

悲しみはゆっくり落とす砂時計

雨だれもシヨパンめく夜のコンサート

名古屋山本三樹夫

今日も晴れ家の隅隅爽やかに
里山を崩し宅地に自然泣く
飲みすぎて電車の座席ゆりかごに
森の小径木洩れ陽浴びて明日の顔
目が覚めて感謝と御礼合掌

犬山市金子美千代

梅らつきよう待つてる人がいて漬ける
値上げしてもまだ優等生の卵
命日に帰ってくれる子に感謝
痛がつてみせる庇つて欲しくつて
雨しとど今日の私をどう描く

犬山市関本かつ子

マスク無しの方がきれいな人でした
救急車他人事でない年になり
日本の山紫水明守らねば
七冠も取つて謙虚な話し方
地元でも藤井君とはもう言えぬ

豊橋市西郷紀美代

ロボットの運ぶ肉には愛想ない
失敗に孫の大受け暖かい
アサギマダラ飛来を待つてフジバカマ
薬まで飲み忘れてる休刊日
口出しはよそう子どもの人生だ

神戸市上田和宏

いい酒だ明日見る夢が見えて来る
健康ですと言つてくれます腹時計
百均グッズ老生活の愛用品
知らず知らず明日を紡いで行く時計
妻に感謝今日も一日生き延びる

神戸市奥澤洋次郎

着々と預金が消えてゆく長寿
弱い者苛め国会がやつてるよ
世襲政治不安な世相生んでいる
人間は嫌だ嫌だと揺れている
いいんですこれが私なんだから

神戸市城戸誓子

私でも市長になれる無投票
疲れたらひねもすのたり抱き枕
歳重ね優しさ沁みることが増え
初孫よ世界はサイズフリーだよ
ただ前へハイハイの子は探険家

神戸市奥水弘

妻には分かるろれつの程度飲みすぎよ
全没も二次会ビール5本抜く
一杯やるかいいいねで目覚め黄泉の友
叱る顔より笑い優しい母残る
見栄と欲少しは残しおしやれして

神戸市 近藤 勝正

水無月に浮かぶ母の背梅仕事
老いてまだ少欲知足難しい
肝心な時に出て来ぬ我が記録
弱くても笑い暮らせる国がいい
聞く力磨き聞きたい良い話

神戸市 斎藤 隆浩

コロナ後も妻とは程好いデイスタンス
食べ放題より旨いものちよっとだけ
ローン完済次は建て替え待ってます
歩くから駆け歩かないからボケる
生き甲斐の一つになった句会場

神戸市 敏森 廣光

人も運も追うと必ず逃げてゆく
いつの間にか父の命を越えていた
本当に強い人って臆病だ
石ころを蹴って世間を確かめる
庶民の声マスク取っても届かない

神戸市 富永 恭子

いい日だった町の優しい歯医者さん
時時は逢おうよ君を見失う
この道を辿れば君が住む都
葬儀社の広告だけでもう涙
行き届く手入れの丘に句碑嬉し

神戸市 能勢 利子

手帖には先ずは家族の誕生日
次の日に答出てくること数多
帰宅日はポテトサラダとすきやきネ
長生きの母はじつとするのが苦手
ケアハウスのタオルをたたむ百三歳

神戸市 松倉 正美

白い制服目にも涼しげ衣更え
緑雨いま裏庭に咲くハナシヨウブ
毎年の事阪神春に強いのは
また一人竹馬の友が千の風
岩清水両手で掬う散歩道

神戸市 山口 美穂

ドクダミ茶ひと手間魔法味かえて
反省をしつつも自分には甘い
後戻り出来ない夢をまだ見てる
降られても晴れでも紫陽花笑みくれる
愚痴言うていらいらわたし慰める

明石市 糀谷 和郎

誰も見ぬところで肩の荷を降ろす
ルーティンを変えよか何か起きるかも
ワクワクと未知なる旅はまだ続く
素の僕にしれっと戻す国訛り
かすかなる記憶たどれば母の膝

芦屋市 荒牧孝子

終戦まで歌いたくないひまわりを

独裁者思い出してよ母さんを

まだいけるカルチャーはしご夢をみる

探してる父さんの影本屋にて

相槌を打たれて心落ち着いた

芦屋市 竹山千賀子

同じ星きつとあなたも見てますね

三日三晩泣いて病を受けとめる

打てば響くそんな時代もありました

ニュースには事欠きません友の耳

黙秘権僕にはないと九官鳥

芦屋市 新阜義明

批判され持ち続けたい俯瞰の眼

やり切った油まみれの父ゴム手

何かあるきつい炭酸飲む家内

フエイントの計算ずくで人を読み

単純に人は動かぬアメとムチ

尼崎市 永田紀恵

あきらめが早くて悩む暇がない

悩んだらいつもお酒に聞いている

悩まずに抜け道捜す生き上手

終電車少しおまけの発車ベル

ちよっと待てその内値下げニールック

尼崎市 羽奈和子

田んぼに水大喜びで鳴くカエル

怪力で大きな蠅を運ぶ蟻

目をこらし赤ちゃんメダカ数を読む

考える人座ってるのはトイレです

助手席で寝るか食べるかすみません

尼崎市 藤井宏造

我が家ではズルズル箸でスパゲッティ

箸袋で箸置きつくる粋な人

履きなれた靴をよるこんでいる足

冷蔵庫にボクを待つてる缶ビール

美少女のおもかげ探すクラス会

尼崎市 藤田雪菜

割引券美容院から来る祝い

レシートがわが家の好み映し出す

気に入りの箸が好物知りつくし

パソコンに手を貸す孫のありがたさ

せんべいを音たて食べるおいしいな

尼崎市 森 菊江

この世は舞台コラムニストに囁かれ

売れ残りのペゴニアうちで咲き誇る

古里の子供らみんな標準語

焼けあとにアルバムらしき物黒く

悪運の去るまで伏して時を待つ

尼崎市 山田 厚江

ペランダのハンガー鳥持つて行く
陸・海・空ドローン技術の聞き合
砂丘のラクダお疲れなのか歩かない
歯と腕を折った次男がいじらしい
足立美術館庭石の白目を見る

尼崎市 山田 耕治

捨てられぬ母とお嫁に來た筆筒
顔が見たいと施設の姉の電話
おやすみなさい月が笑っている絵文字
八十の朝の湯呑みに茶柱よ
こんな娘に育ってくれた披露宴

加西市 山端 なつみ

米作り傘寿と喜寿がまだしてる
五軒の田預り耕作大農家
農繁休暇昔はあった学校も
田植機も旧く雨の日使えない
新しい農機は買えぬ歳と金

川西市 山口 不動

妻の留守解放感と孤独感
連続でくしゃみ何故出る衣更え
今日田植え一番に來て蛙鳴く
雑草という名の草なし草を抜く
時を経て広島にあり敵味方

三田市 足立 つな子

綾取りを教えた孫も今スマホ
長寿国今後の憂い受け止める
咲く花の往き交う人のニュータウン
おさんどん三食ついたアルバイト
お見舞の心なごます嘘がある

三田市 稲角 優子

乗り継いでのび太のような孫が来る
子供の日折った兜の武者揃い
水鏡父に似たよな雲すくう
永遠がないから今が美しい
添いとげてあなたに貰う金メダル

三田市 大西 重男

ケチでなく無駄を省いてエコライフ
エンディングノートにそつと書く預金
怖かった上司が夕べ夢枕
ポケットのマスクここではするしない
初給料もらった孫がくれた酒

三田市 九村 義徳

これからの妻のタクトになる余生
ここだけの話はいつも知れ渡る
真つ直ぐに生きて言われたへそ曲がり
年金日そろそろ孫がやって来る
何時の世も一番怖い思い込み

G7被爆地会議で何思う

三田市 住 吉 美和子

ウクライナ天突くひまわり待ち望む

親友の初夏の便りと荷が届く

初物は身体にいいよ破竹煮る

五月晴れみかんの花の香りする

三田市 多 田 雅 尚

杖を持つだけで安心出来る足

買いました脳の老化を防ぐ本

自粛から人込み避ける癖がつき

ゴールドで返す免許証何も無し

義務でないマイナカードは拒否します

三田市 野 口 真桜子

戦後派の僕だ平和の使者になる

復興を見すえキリッとウクライナ

同期の昇進祝賀の拍手そろわない

合い言葉は平和仲介役にされ

びた羽衣五人の母になる天女

三田市 堀 正 和

朝一にオータニさんに会うテレビ

ネクタイがやつと身につき五月病

とりあえず聞こえないけど笑つとこ

付度をする人も居ずマイペース

追い風を待つております八十路です

のつぺらばうに玉虫色を塗りました

三田市 村 田 博

ワンテンボずれる返事もカラオケも

翔平に感謝している兜蟹

ミサイルはロールケーキの芯の中

代行を頼んだ友も酔っている

高砂市 松 尾 柳右子

おもしろに浸るアルバム五能線

それなりに交わる世間デイの友

コンベアーに乗って感謝をする老後

気晴らしのつもり満足せぬぬり絵

平凡に暮らせる幸へ家族の輪

宝塚市 丸 山 孔 一

薬効は「人によります」と言われても

「紙ゴミ」の日に雨が降るでしょう

いつまでも現役時代の夢を見る

予診表「はい」と言えない数が増え

何でやる医者の前では空元気

丹波篠山市 北 澤 稠 民

もの作りふくらむ日々には遊ばされ

音沙汰の無いのは無事と娘を思う

人はみな各自芸あり生きている

生涯を番犬なりし家守る

深呼吸わたしを少し入れ替える

丹波篠山市 酒井健二

西宮市 福島弘子

十歳で木の天辺に居たことも
竹原の豪商たいそな家に住む

生ビールつきバイキング宿の朝

美味そうなものは真ん中から食べる

アホなことやつても皺は増えている

丹波篠山市 藤井美智子

ウクライナロシアが和解夢の中

五七五脳に奉仕へ老い励む

箸が立つ程に味噌汁具たくさん

これだけは聞いてほしいが言えません

八十路来て夢小さいが恙なく

西宮市 緒方美津子

デザートは老いの脳さえ活性化

謝罪会見善処しますはもう飽きた

待たされてもスマホあるから苦にならぬ

振られた人に会ってみるクラス会

父の日を知らん顔して待っている

西宮市 亀岡哲子

梅雨晴れ間野菜料理の腕弾む

美容院の鏡の中へ良い笑顔

老いてなお甘え上手な犬と住む

紀伊國屋で百まで生きる策を買う

里山で見えた星座を今探す

御利益を信じ階段山の寺
種からの初生りきゅうり格別だ

朝はメジャーナイトービールご機嫌だ

道なりを友と談笑花の寺

順番に見送り次は私だろう

西宮市 福田正彦

G7この笑顔こそ隅隅に

LEDこんなに長生き出来るとは

振り上げた拳は一度開けて見る

感謝する泣かせる人の誉め言葉

作戦か虫の居所隠す妻

南あわじ市 萩原狸月

この奥にまだ家がある丸木橋

雑踏の一人となって戎橋

忠告の言葉に味をつけた愛

現金を知らず育つかキャッシュレス

収入はアニメに負ける映画界

奈良市 東定生

サブリ代高くつきそうフィットネス

飲み過ぎて制御不能のプーチン氏

議員バッジ付けたいだけの人がいる

謝罪には不織布マスク欠かせない

素顔では反応鈍い顔認証

奈良市 大久保 眞澄

繁華街の夜明けはネコの社交場
五月病通学してもしなくても
無農薬の虫付き野菜いだいた
安全だと言えば言うほど神話めく
UFOキャッチャーは金食い虫である

奈良市 加藤 江里子

心を許したつもりの人の別の顔
雑草に語りかけ朝ドラのよう
腕骨折の夫辛抱強い人
風を切っていた貴方の肩が懐かしい
衣食住足りて愚痴など言いません

奈良市 高橋 敬子

詰めてつめてに温い吊り草持たされる
少子化の波が攫った鯉職
仰げば尊し全部歌えた恩ぶ会
六回目ワクチン漬けに慣らされる
回転寿司外人さんが窮屈気

奈良市 辻内 げんえい

ソフトクリーム舐める子を見て欲しい喜寿
幼なじみ「ちゃん」で呼び合う傘寿越え
太腹は孫連れていく百均で
ノンアル乾杯みんな車のランチ会
下戸兄弟の義兄二人は酒が好き

奈良市 山本 昌代

つつい手かばいたくなるおばあちゃん
深い息苦手意識を葬ろう
笑顔にも几帳面さがこぼれ出る
図書館へ行こか知識を仕入れとこ
ありがとうエールをくれる春の風

奈良市 米田 恭昌

堅固で真面目安全牌と言われている
その先は治外法権子供部屋
終活の捨てられそうな物ばかり
職退いて留守まかされてばかりいる
AIに穿ちのこころ解るまい

生駒市 飛永 ふりこ

紫陽花の彩に煌めく夢の粒
お隣の菜園今が伸び盛り
処分など母の手作り仕舞い込む
一回も袖を通さずでも吊るす
濃淡の緑が論す無理しなや

香芝市 大内 朝子

緑風に心洗われ若返る
幸せの種蒔きしています笑顔
ブラボーと思わず叫ぶでかい虹
世の移り昭和ますます懐かしい
振り向けば遥かな道の泣き笑い

香芝市 山下 じゅん子

玉子不足シュークリームが消えた店

ブランドの傘のお披露目梅雨嬉し

インバウンドあふれ戸惑う奈良のシカ

声だけは美魔女に負けぬ自信ある

おしゃべりで情にもろいは母譲り

奈良県 安福 和夫

三世代同居の幸に恵まれて

出戻った娘親子と恙なく

ギャンブルで破滅の男今いずこ

麻薬にも似た賭け事に人は酔う

金銭の感覚を消す世界ある

奈良県 谷川 憲

緩和後もマスクが消えぬ散歩道

年経ても郷里のニユース気にかかる

ふわふわの布団で母の夢を見る

世界地図どこをあけてもきな臭い

緑なす山河に海が育てられ

奈良県 中原 比呂志

八月は閃光の日を忘れない

リーダーの本心ヒロシマに刻む

軍服に飾る勲章血の匂い

八月の献血待ってる人がある

献血ですこし責任果たした気

欠伸出るような話はもういらぬ

人生の最終章とする座礁

嫌だった彼と和むも年の所為

詳しくはお前の胸に聞けという

老いの道力ギを握っているは妻

奈良県 長谷川 崇明

文殊会となんじゃもんじゃの興福寺

霞かかる彼方へ大江逝った春

七人の敵の中へと更衣

四年振り缶よりうまい瓶ビール

いち早く戦後をつくれウクライナ

奈良県 渡辺 富子

コロナ明け友と約束花めぐり

メイクなしの肌生き生きと深呼吸

待ち合い室古い百態を見ています

出してはしまう身辺整理またあした

流れる雲友の笑顔を思い出す

和歌山市 上田 紀子

青空へ深呼吸する朝の幸

言い過ぎた言葉を戻す術もない

QRコード使えぬアナログ派

テレビ観るアナウンサーの好き嫌い

強がりも本音淋しい雨の午後

和歌山市 柏原夕胡

ここが好きほかに住みたい場所はない
どこにでも偏屈者は居るものだ
昔々クーラーなんてなかったな
猫に気を遣って生きてますかしこ
ふと思うお亡姉ちゃんに逢いたいと

和歌山市 松原寿子

新緑の清々しさへ目を洗う
負けたとは言いたくなくて背を向ける
爪に火をともし生活覚悟する
まるで貝になってしまった病み上がり
いつときの夢であらうと乗り越える

橋本市 石田隆彦

おはようと今朝も明るい通学路
晴れ願ひ雨を所望し畑仕事
裏山を魔物に変えたゲリラ雨
ちよつと待て戦する気か防衛費
この地球みんな仲間だああヒト科

京都市 清水英旺

お見舞のTELに元気な電話口
裸婦像にじつと嫉妬の目を向ける
あれよあれよついてゆけずに生きている
今年もまた約束どおり花は咲く
老いは脚から実感してるきょうこの頃

京都市 藤井文代

あの川を渡るまで持つマイナンバー
百歳なればどう変わるのか生命線
世渡りの助けをしてる遠い耳
角があると言われたからか背を丸く
眼精疲労イケメン見たら完治でき

京田辺市 北野クニオ

老人か慣れぬ自転車ヘルメット
大相撲大関増えて活気出る
AIとチャットで廻る新時代
病持ち健康宝思ひ知る
オペ前に何枚も書く承諾書

長岡京市 山田葉子

満月をとくに仰いだ日は遠く
半夏生忘れていいよ済んだこと
花も犬も日日正直に暮らしてる
犬とわたし昨日も明日も考えぬ
ドクターとヘルパーさんが好きになる

八幡市 武田悦寛

出番きた納屋のかかしも服選び
青空に雲ひとつだけ忘れもの
バス停に急ぐ母親傘2本
くつひもを思い切りしめ歩数計
伝票持ちじゃんけんしてる縄のれん

大阪市 東 敏 郎

躑かぬようジャンプするうざぎ年
もち喉に詰らぬように咀嚼する
低金利記帳するたび出る吐息
送りがな小四孫に確かめる
息だけが届く力士のインタビュー

大阪市 石 田 孝 純

やんわりと絡み付く6月の雨
雑音消す雨音神からのギフト
雨の日は肘も素直になっている
晴れ間から青い音符が降ってくる
また2本ビニール傘が増えている

大阪市 井 丸 昌 紀

ラムネ抜く昭和の音と香りする
呑み込んだ秘密暴れて不眠症
群がって余計膨らむ孤独感
線一本引いて国境作り上げ
軽く飛ぶつもりだったが水たまり

大阪市 岩 崎 公 誠

人通りないところまでカメラの日
手紙着く生きているのは確かなり
ランドセル夢詰め込んで闊歩する
開会に顔が揃わずやり直し
たった五円足りぬことからこじれ

大阪市 岩 崎 玲 子

五十年波長があつていたらしい
病み上がり陽のまぶしさが嬉しくて
好きなものの最後に食べるこれが幸
月初めいつも決意はするけれど
朝の家事順にこなして茶がうまい

大阪市 内 田 志 津 子

遠回りしたけど晴れて君の宴
三度目に合格通知受けて春
譲りグセ孫は争い好まない
読みさしの司馬遼ひぎに寝てしまふ
この歳で若輩者という世界

大阪市 宇 都 満 知 子

気遣いが過ぎればキシキシと鳴った
ほけつとひとり嬉しくて寂しくて
気付いて欲しいし構われたくないし
見えなくても聞こえなくても手をつなぐ
鳥が鳴き出した洗濯物外へ

大阪市 江 島 谷 勝 弘

デモ一つない我が国の高物価
張りこんで三回食べた豆ごはん
一度は言いたかったここは私に
八十路前悩むヒマなどありません
恐い方へ恐い方へ行く政治

大阪市 榎本舞夢

複雑骨折マル一年ただ歩く
病氣知らず人生觀を組み直す
患って周囲氣くばり解り出し
卒寿過ぎ二人三脚四苦八苦
張り切って転ばぬ様に努めます

大阪市 大川桃花

目聡い人に手抜きしつかり見つけれ
美容院の予約が一番カレンダー
職人さんの知恵が詰まっている道具
レジの機械化客の仕事が増えている
八十過ぎてもありそう二の幕三の幕

大阪市 大沢のり子

血圧の数値に夫の目が泳ぐ
塩分の計算だけをしてる妻
たつぷりの時間 断捨離続行へ
玄關の防災食は期限切れ
天袋に紅白リボン眠ってた

大阪市 奥村五月

好き好きと言つて手伝いせぬ夫
美しい桜も散ればゴミになる
あの世へはすぐに行けるが帰れない
値上りのグラフ下向く時は何時
人の穴さぐる文春よく売れる

大阪市 川端一步

絵もいいが魁夷画伯の文も好き
師が書いた般若心経宝もの
長生きの秘訣を喋る歳になり
生臭い夢も見ている米寿です
九十に老女と言うな花ざかり

大阪市 古今堂蕉子

尾道の坂に根性試される
若い人に譲る尾道碑の巡り
あふれるほど子供居たのにあれば夢
また明日会えると信じ手を握る
運転もテニスも忘れおばあさん

大阪市 近藤正

国防のためと島民見捨てられ
戦する国に引きずり込む安保
ヒト科のエゴ島インフルは皆殺し
異次元は軍備拡張だけだった
藤井聡太全タイトルを視野にいれ

大阪市 坂裕之

お互いにお疲れさまと言える仲
嫌がらせ有るがきちつと遣り通す
もうちょつと頑張らなくちゃまだできる
好きな事出来るんだから良しとする
企画した事がすつきりやり切れた

大阪市 高杉千歩

大阪市 寺井弘子

味噌汁が匂う施設に朝が来る
朝のコーヒー頑張りますとブラックで
三猿で暮らす施設の恙なく
寄り添うて下さる方に囲まれて
消えるもんか私らしく私らしく

大阪市 田中廣子

身辺の整理に余力残してる
盛り場へ出たがっている足の指
点滴の生きよ生きよに励まされ
気負わずにありのまま生き貝になる
健やかに惚けずに老いる難しい

大阪市 寺本実

阪神はいつまで一位キープする
父の日はみんな揃ってレストラン
年重ね計画通り片付かず
手をつなぎ二人よちよち出かけます
虹が見えハルカス遠くかすんでる

大阪市 田中ゆみ子

軽食と言うが酒までついている
独り身は軽くなりますゴミ袋
ウソ一つ混せて余力を残しとく
なごり雪雪国でない人が言う
本気ではないと妻には目で合図

大阪市 中井萌

天才が深いところをする努力
胸の内さらけ水母になるもよし
如何にせん記憶の誤差が埋まらない
子は育つ泰山木の白い花
食べてるか笑っているか左遷地で

大阪市 谷口義

大輪のバラより畔に咲く小花
ひもじさを知らぬ世代のダイエット
こけぬ様転ばぬ様につい猫背
和筆筒に着る者も居ぬ五つ紋
世間見る視野がだんだん欠けてきた

大阪市 原田すみ子

これからの人生だって笑えます
勉強にならないことが好きなんです
身の丈にあった暮らしのパピプペポ
ハンバーグとかビザはOKおばあさん
通夜の席奥さんの酒豪が分かり

団塊世代まだまだ旗を振り続け
独り居を確かに語るゴミの量
冷凍品助けてもらう日々の皿
皇族百歳優雅な佇まい
孫成長予定なかなか交わらず

大阪市 平賀 国和

首都探訪まず漱石と猫の墓

近くにはジョン万次郎眠りおり

漱石の言葉は今も生きている

五七五の価値を教える草枕

私にも牛の歩みで行けと言う

大阪市 降幡 弘美

家事をしているのにネタにされる妻

一個から半分こするゆで卵

イビキかきちよつと気まずいマッサージ

頑張つていても言われるガンバって

コワモテがかわいい文字を書くギャップ

大阪市 山本 加お里

一日をドラマのように過ごしてる

ご先祖に今日の出来ごと話しかけ

宿題を先に延ばすと胃が痛む

胸に住む夫の笑顔ともに生き

家族葬毎日チラシ何処にしよ

大阪市 横山 里子

自肅三年亡くしたものに力瘤

紅筆も紅もどこかへ行っちゃった

蟬啜え野性の顔の猫の性

角取れてつまらなくなる老いた鬼

何食べて百キ口超えた問いたいが

堺市 今井 万紗子

敵味方みんな家族があるのです

赤ちゃんは何時も本気で泣いている

イヤリング揺らし傘寿の合唱祭

母の日にちよつと甘えていいですか

孫三歳嫁に行くまで生きねばと

堺市 柿花 和夫

和洋中お好み次第チン料理

難民も戦車も河を越えて行く

あの世との隔たりずつとこのままで

うっかりとテレビに返事妻の留守

キラキラネーム広辞苑さえ役立たぬ

堺市 源田 八千代

玄関に向日葵生けてるるんに

世界平和と今日の無事祈り合掌

使い痛み後で出て来る年の所為

大雨の中空きを確かめ受診する

余生僅か二度と戦争真つ平だ

堺市 齋藤 さくら

プライドを忘れ診察台の上

物価高軽い財布が泣いている

政治家の威厳がちよつと頼りない

楽しそう妻の小言を聞いている

婆ちゃんに甘える知恵も付いている

堺市坂上淳司

豪雨禍が癒えぬ間にまた豪雨

トランプ氏を推すアメリカが判らない

北中口にトランプ入るのが怖い

ダム爆破する戦争の恐ろしさ

汚染水を海へ放出する無謀

堺市澤井敏治

マスク取る空気こんなに旨いとは

死ぬのは一回恐がることはない

ノーマイク慣れてマスクを外せない

反省会する者みんな寄つといで

一人酒よりもワイワイ飲むお酒

池田市太田省三

クルーズは底に大和の海を行く

ハンドルを四度も返す駐車場

沖縄はキャンプ地だけのプロ野球

五人では居眠りできぬ村議会

初孫の誕生義父は餅を搗く

柏原市津村志華子

産み立てを王子ごはんにしてグルメ

採り立ての野菜みそ汁具沢山

玉葱サラダ魔女の血液サーラサラ

上げ膳据え膳カロリも良しケアハウス

あじさいが微笑む亡父母よ亡弟よ

河内長野市大島ともこ

物売りの声が蹴立決め歩く

蚊帳をバタバタ知らぬ世界へ紛れ込む

銭湯の煙まつすぐ今日も晴れ

細腕の昭和の母は強かった

不器用な父がはにかむ孫来たる

河内長野市木見谷孝代

梅雨晴れ間草と格闘しています

独りでも野菜の種類減らせない

子の奢り格別の味誕生日

あなたたのおしやべり弾む夢の中

グランドへ少年の声聞きに行く

河内長野市坂野澄子

修羅の恋指の先まで滾る熱

散りたいと泣いた造花が知る孤独

うやむやを混ぜたあんパン膨らまず

致死量の愛がほしいわあなたから

恋を待つ窓にからんだ昼の月

河内長野市中島一彌

昼の酒ちよつと転た寝くせになる

安眠を扉返りがいけずする

ぶきつちよな夫の戯ける投げキッス

目減りする年金暮らし足掻く日々

ふるさとのちひろの生家すきま風

河内長野市 藤塚 克三

吹田市 太田 昭

俺の人生助走続きでゴールなし

空想にはまり込んだら抜けだせぬ

俺の矜持おむつの世話になりません

八十路坂遠出運転妻任せ

金婚式感謝を込めて手を繋ぐ

河内長野市 村上 直樹

ポイントを稼ぎ刃向かう物価高

ワンマンには腹心という影法師

爆発だー若冲の赤ゴツホの黄

じゃっぱ汁湯気の向こうに亡母の顔

まあいいやもうよかろうと老いてゆく

岸和田市 岩佐 ダン吉

脈だけはしっかりしてる未だいける

堅実な人だが面白くもない

誉め殺し少し混じっていた祝辞

心跳るそんな日だってあった筈

真実は余白ページにあるらしい

岸和田市 雪本 珠子

幸せは人のところの中にある

ありふれた人生だけと平和です

ありのまま心豊かに暮らしてる

八十路でもまだまだ夢は持っている

川柳は人生の良きパートナー

守りたい人が居るから老いられず

打ち易い杭を選んで憂さ晴らす

退屈が馬券売り場に屯する

厄介なことが嫌いで阿保で居る

近ごろは人間忘れそうになる

高槻市 片山 かずお

髪フサフサの頃の写真はセピア色

好きだ嫌いだ言って二人は楽しそう

示し合わせて偶然会ったように逢う

コロナ5類へしばらくマスク持っておく

アンタが家に居るから忙しいと妻

高槻市 島田 千鶴子

咲き誇り雨に崩れる薔薇哀れ

真夜中のどしゃぶりいらぬ事思う

父の日は昭和演歌を懐かしむ

木洩れ陽の眩しさ世過ぎ考える

明日来ると信じ今日の眼を閉じる

高槻市 初代 正彦

梅雨空もいいネすぐ後には炎暑

また転ぶかもそんな気のする段差

食卓に術後点眼薬が待つ

コロナ後と言うまい未だウィズコロナ

平穏なニホン戦火のウクライナ

涙もろい涙みせずにくく八十路
高槻市 富田 保子

お天気で変わる私の予定表

八十路焦る慌てるみなこける

取り敢えずハイハイだけは言っておく

泣けば負け泣けば負けだという涙

高槻市 鳥居 宏

ぼろぼろと梅の実落ちて梅雨となる

梅ジャムに妻は熱中並ぶピン

月下美人香り豊かに咲きつくす

ダム欠壊戦の無謀増すばかり

サミットも形ばかりで策はなし

高槻市 松岡 篤

感染数公表されぬのも不気味

車内ではマスク無い人避けている

酒止めた第一日目無事通過

今日もまた個人情報野ざらしに

部下の数増えたと酒の量も増え

豊中市 池田 純子

ドキドキがバクバクになる握手会

ベランダの花盛合わせ亡母さんに

生き方を問われ私は自由型

ふと思う煙草の匂う父の指

雨雨降るな今日はあの子の遠足日

また値上げもう平気ではいられない
豊中市 上出 修

増税NO福祉はもつとUPして

本音ボロリその言い訳で難破船

左遷地の米のお水に惚れている

前頭葉枯らさぬように五七五

豊中市 藤井 則彦

人の輪へ半歩踏み出す我が日課

退屈の味分かり出すいい老後

夫婦にも時に大事な黙秘権

スマホ無き暮らし続けていと楽し

教科書にないのがやはり人生だ

豊中市 松尾 美智代

淋しいね二人で居ても孤独です

話してほしい何でも聞いてあげるから

早世の母の命を生きている

矛盾だらけの自分愛しくなる夜明け

生きる事学ぶ何度も転びつつ

豊中市 松田 蟻日路

諦めて呑み干す苦いコップ酒

上なりの訳が有ってのお説教

上目遣いせんでも 僕も偉ないし

人肌が欲しくてチンは二十秒

酒は胃に流れ理性は向う岸

豊中市 水野黒兎

好天にパンジー育ちすぎて夏
古典読み式部納言に出会う旅
監督を褒めて貶して見るテレビ
ほとけさまを拾う こぼれたごはん粒
三ミリの蟻の嗅覚恐るべき

富田林市 山野寿之

キャベツの芯捨てず糠漬物価高
枕元明日へ夢のランドセル
朝ドラのつづくへ期待老い二人
ファミレスへ家族家族のこどもの日
ネガティブヘビタミンになる友の声

寝屋川市 川本信子

こつてりの後にスッキリジャスマン茶
夏涼しワイドパンツとサンダルで
朝ドラの曲ラララでウォーキング
ラインからハッピーバースデートゥユー
紫陽花が息継ぎなしで咲いている

寝屋川市 富山ルイ子

ダム破壊極悪非道人非人
次々と苦しめる悪魔のロシア
ロシアの平和軍ロシアへ攻め入る
だまされたか名簿作る金送る
一年経っても名簿はまだ来ない

寝屋川市 廣田和織

知らぬ間に妻に弱点握られる
守るものが身ひとつとなり孤独
いくつかは僕を育ててくれた壁
ここまですが友達ですと円を描く
寄り添って老いの歩幅で行く未来

寝屋川市 平松かすみ

やさしくて素直な友のお初盆
六十六歳勿体なくて寂しくて
きれいだな焼くのは惜しいデスマスク
太鼓判押してた背中なつかしい
公園のどこかにそよ風になって

羽曳野市 磯本洋一

ノーサイド緊張解すホイッスル
細い道笑顔と会釈朝夕に
野も町も平和を重ね七十五
家長だが何をすればと妻に聞き
我が家では日々の笑顔が常備薬

羽曳野市 宇都宮ちづる

せせらぎと囁き聞いているお宿
北海道展行けない旅をここで買う
雪どけ水ボトルで買って富士想う
トマト茄子有機で産地ブランド
赤ちゃんに口座作れとマイナ札

羽曳野市 徳山みつこ

梅雨しとしと洗濯休み街洗う

病棟の児らに笑い出前のピエロよ

息切れの山道山百合が笑う

緑風が八十路の坂を押してくれ

虚虚実実この世は仮面舞踏会

羽曳野市 藤原大子

巢ごもりが解けてさあとはいかぬ身だ

あたふたと小さな梓で生きている

音読で鍛えています脳と喉

10キロは持てると傘寿力こぶ

病むなんて予想だにせぬ予定表

羽曳野市 三好専平

酒やめてやっと自由を手に入れる

酒やめてレジスタンスの気概つく

酒やめられぬ人生に泪あり

酒やめて水が美味しいとバカを言い

酒やめてマンガの本が好きになり

東大阪市 佐々木満作

傘寿の歩もたもたフレイルの予兆

一瞬の迷いが勝機見失う

偶数の月に対面する諭吉

ストレスがたまると土と戯れる

歯のメンテ欠かさぬ万病の予防

東大阪市 西村哲夫

人連れて散歩させてる犬ばかり

幸せの方程式は崩れいく

同じ道雨の会場遠すぎる

おかげさま影を讀えてくれたまえ

欲多し叶わぬ夢も多かりし

枚方市 谷英也

人助けいつか我が身を救つて

住む人の居ないわけ知る庭の苔

綿菓子に顔をうずめるいい笑顔

一服の清涼剤だ夕立は

敬老と年寄り言うなまだ八十路

枚方市 藤田武人

ルーチンのひとつ狂うと忘れ物

じゃまたと言っておはよう聞けぬまま

ミッシヨンは余白残して成し遂げる

録画したドラマ楽しむ定年後

柵のしづくポトポト耐えている

藤井寺市 太田扶美代

肩叩かれるまで見とれていた横顔

天こ盛りお変わり嬉し男の子

縋帯が取れたら先ずは墓参り

思ひ出の日付け怪しくなってきた

二幕目の真ん中辺に興味を置く

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

私もやっと令和に追いついた
ウォーキング程よくスーパまでの距離
大の字で寝てる夫が主治医です
手こずった花は見事な咲きっぷり
恋文を書くとき喜ぶボールペン

藤井寺市 鈴木 いさお

天王寺塔社事務所へ徒歩五分
大阪環状線 5 分

鶴橋で焼肉キムチ大ジョッキ
玉造楓楽さんに会える街
森の宮鶴彬碑へ花手向け
天満下車美研アートへ寄って行く

藤井寺市 吉田 喜代子

初めての水の怖さよ大和川
暴れ水今日は田圃の守り水
避難先思わぬ人に助けられ
写真整理止まる手多く進まない
日常を忘れて友と演奏会

松原市 森松 まつお

お断りしたい線状降水帯
七冠の疲れを見せぬいい笑顔
ダルビッシュユ名誉市民になった
妻は留守昼は焼そばビール付き
焼きもちも上手に遣う妻傘寿

箕面市 大浦 初音

ご自慢のエクボもいつか皺に見え
ゴミ箱へバスケよろしく投げるゴミ
老犬との散歩ベンチでひと休み
ペットにはこれほど情かけるのに
生きるとは忘れる力育つこと

箕面市 出口 セツ子

長男が祝ってくれる誕生日
無事生まれ素直で優しい子に感謝
長男に新米ママが育てられ
疑うこと知らずほんわか子は育ち
子が揃い祝ってくれる至福の日

箕面市 広島 巴子

復興を願うお祭り威勢よく
会いたくて寂しさ募る亡母の夢
我が子より聡太気になる名人戦
紫陽花に合わせて決める勝負服
明日は雨ギョウザを食べて家ごもり

八尾市 寺川 はしむ

肩の荷が下りて安堵のふたり旅
七三の髪型懐かしむ傘寿
喜びと懐揉めるのし袋
嫌なこと補聴器外し聞いた振り
ばあちゃんの煮物長寿のお裾分け

八尾市 村上 ミツ子

値上りへしばらく卵買ってない
シルバーカーの買物ひとりでは無理だ
息ぬきに作詞した校歌をうたう
かにかまでいいだなんてぜいたくな
損をしたことはみんなに内緒です

大阪府 米澤 俣子

針の無い時計が欲しい昨日今日
ネジ巻けばちよつと元気になるばあば
新しい物にとびつく悪い癖
原爆資料館の地獄絵図今も脳裏に
G7の閣僚の目に核の悲惨は

(前月分) 大阪市 榎本 舞夢

ゴールデンウィーク私静かに家に居る
我が家にも曾孫達来る子供の日
また来てねほっと一息良い疲れ
侍ジャパン明るいニュース元氣出る
堂々と昼間強盗する時代

(前月分) 大阪市 大川 桃花

紫陽花の花芽数えて雨を待つ
花好きを揶揄する爺はメダカ好き
まだ運氣あつたかバスがちようど来た
日本の治安どこまで堕ちる闇バイト
夜中でも笑顔絶やさぬ看護師さん

(前月分) 三田市 中山 昭美

物価高知らず知らずにエコライフ
箸使いきれいなだけで好きになり
イタリアン箸もフォークも同じ味
空白が気になり出した地震地図
取説の小さい文字に試される

(前月分) 岡山県 高岡 茂子

晩婚の甥に贈れたベビー靴
免許証内緒で更新する米寿
車なしでは生活出来ぬ田舎町
十三回忌優しい亡母を語り合う
嫁入道具時代遅れも捨てられず

(前月分) 福岡県 本田 さくら

核のない世界めざしてわたくしも
息子より鉢植え花の五つ六つ
娘・息子よく育ったねと夫婦して
美容室で猫の本読む今日もまた
ウクライナ戦におびえる子を想う

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1000円
事務所あてお申し込み下さい。

菠稜草の花

(8)

野 沢 省 悟

「川柳触光舎」主宰

朝食は不味くないけど美味くない

大 西 重 男

事実というより真実を詠んだ句。この句から今朝の食事を思い出した。生野菜に目玉焼き、納豆に大根おろし、そしてご飯にみそ汁。いつも通りの時間に、いつも通りテレビニュースを見ながら、味は全くこの句のよう。何でもないような句だが、一人の人間の今生きている実質、もつといえ、これまで生きてきたことの実質を、この句から感じた。

淋しさの分だけ覗く冷蔵庫

平 井 美智子

台所の一角にある冷蔵庫。けっこう大きながなぜかその大きさを感じさせない。主に食べ物を入れているが、時々サイフやメガネを入れておいたり、冷蔵庫はおおらかで何でも許してくれる。忘れようとして

も忘れられないヒトも入れてしまったらしい。そのためかふと開けてみたりする、それも何度も、雨の夜などと共に。

なんとなく貰つておいた試供品

柳 田 かおる

どこの家でもきつとあるでしょう試供品。断り切れずに受け取ったり、広告についてきたり。ある時、コマシヤルで有名な育毛剤が広告についてきた。いつも髪なんてどうでもいいと思っている僕ですが、捨てなかつた、今でもアル。こんなさやかな欲望を見つけた眼は、作者の川柳眼。

カーブミラーあの老人は誰だろう

小 畑 定 弘

フフツツと笑ったアナタ、作者と同じことがあつたでしょうネ。カーブミラーはかなり広角に、この世を映し出してくれます。その中に、ステキなご老人が立っていた。ナント上品な方であろう、と思つたのです。よく見れば不機嫌そうな老人がムスツと立っているだけ。つい見てしまったと思う。でも、それでいいのです、自身を眺めることも川柳が上手になるためには必須。

責任は私にあるとだけ言う

岩 佐 ダン吉

元総理も今の総理もヨク喋つたセリフをひよいと一句に、批評の眼が効いている。「責任」という日本語が可哀相な位、軽く喋つて何にもしない無責任な態度。言う方も言う方だが聞く方も聞く方。スグに忘れてしまうのか、選挙にも行かない多くの日本人たち。

5類とや胸にしみ入る生ビール

木 田 比呂朗

芭蕉の句へしづかさや岩にしみ入る蟬の声」をもじつた愉しい句。酒呑みのみなさんは共感するでしょう。三年間という長い時間、仲間と楽しめなかつた生ビール。「腹」ではなく、しみ入るのは「胸」にしたのは、作者のお手柄ですネ。

病氣ですが病人ではありません

石 田 孝 純

お元氣ですか直訳すれば生きてるか

富 田 保 子

生ビールが入り焼酎や酒が入ると、話題の行きつく先は、各人の病氣自慢となる。みんな病氣は持っていないも病人ではない。もしかして「川柳」を直訳するならば「みんな元氣だ生きてるぞ」となるのでは、だから川柳は止められナイ。

誹風柳多留一二三篇研究 36

290 おとなしい後家に四五人はを立

細井 発展家ではなく誰にもなびかない後家に、気のある連中が何やかやと文句を言っている。

かたひ後家男を立ててやらぬなり

細井龍夫・伊吹和男
高野範雄・山田昭夫
小栗清吾

安元信1

清 博美

清 賛。「かたい後家」でなく、「おとなしい後家」がいい。

291 つまを乞鹿がゑらみのしやまに成

細井 藤原定家は京都の嵯峨清凉寺の西方二町余の愛宕路にある小倉山の時雨亭で百人一首の選歌をしたが、秋には雌鹿を呼ぶ雄鹿たちの鳴き声がさぞ煩かつたろう。

もみち葉を筆てはねく御ゑらミ

明八梅1

清 賛。

292 目くらめとしうと御さまをわるくいひ

細井 お目見得以上の旗本とは申せ台所は火の車。なんとかしようと、有力な武家と縁戚になり、權威をより一層高めたいと考えている校校の金目当てに、その娘を貰って一息付

287 初かつほ一十月むす子しかられる

細井 身の程わきまえず、息子の分際で、とんでもない高価な初鰯を買ったので、一ヶ月位は毎日毎日叱られづめた。

初かつほ女房に小壱年いわれ 一五五
小栗 賛。初鰯を息子が買ったとは珍しい句だが、そうとしか読めない。

清 賛。

288 油手をあらふむすめハゑりをすへ

細井 髪を結った油手を拭うだけでなく、きちんと洗う娘は事前に襟が汚れないように白布などで養生している。

油手で花のへんじをあけて見る 安元松2
油手でこたつへあたりしかられる 九37

清 賛。

289 かゞきぬのゆもしにぎ王ぎ女おされ

細井 加賀絹の湯文字とは仏御前を指す。平清盛の寵を得ていた白拍子の祇王祇女の姉妹は加賀から出て来た仏御前にそのお株を奪われてしまい、二人揃って西山嵯峨の奥、往生院に籠って専修念仏することになった。

祇王祇女田舎娘におつへされ 一一17
仏在世岐王と妓女は尼になり 三五27

伊吹 賛。往生院祇王寺。

けたが、そのお陰を忘れて気位の高さから、「あの盲め」などと悪しざまにいう。

但し、検校の娘を旗本が娶ることが許されただけで、未確認です。

已上なら百つけましやうとけんきやう

二〇二六

けんきやうの娘以上へやる気也

六五

伊吹 古川柳では通り句ですが、実際にどうであつたかは知りません。

高野 『世事見聞録』に、「妻娘等御旗本の歴々と縁組みを整え……」とあります。賛です。

山田 颯御様ですから、入智が「悪く言い」ではないですか。

清 賛。

293 ほうへ手を諷の時もあてて也

細井 謡は背筋を伸ばし、気を丹田に鎮めて腹の底から声を出すべきなのに、この若者は頬へ手を当てて上つ調子の発声をしている。常磐津の稽古がかなり進んでいるのか、悪い癖がついてしまっている。まことに見苦しい。嘆かわしい。

うたいにもほうへ手をあてわるいくせ

ほう杖で謡をかける大だわけ

一五四
二二七 106

高野 賛ですが、何故頰なのかよくわかりません。

山田 賛。洒落本『遊子方言』に、「行こふ人そなる中に。けしからぬ声の按摩はり鮮

売が鰯のすう鰯のすうと呼も。しやれとやいはん義太夫ぶしは頬を押でたり」(夜のけしき)」という一節がありますが、頬を押で

義太夫節を語るのが流行つていたのかも知れません。

小栗 句意はそういうことだろうが、高野兄と同じく、実際どのようにしていたのかよくわからない。山田兄の文献貴重なるもどうい

う格好なんでしょうね。現代では見たこともありません。

清 腕組みをした片手をアゴにあてる格好か？

294 夜着ぶとん大しやもつらな客かくれ

細井 夜着布団などを客からいたかくのは遊女の手練手管次第だが、やつとのことで大あばたの野郎をうまく口説き落として新調出来た。めでたし。

うつつい女良とぶ男そはを喰ひ

高野 ぶ男Ⅱ貢ぐ、川柳の約束ですか？
山田 賛。醜男Ⅱ貢ぐは、川柳の約束という

より一般的なものでしょう。また、「めでたし」は、じゃもつ面な客はそのことで持てゐるのだし、遊女にしても有り難い、これで両方「めでたし」でよいのでは？

小栗 賛。あばた顔だから、金でもてようとする客。

清 賛。

295 霏の日に在かまくらハみんな出る

細井 鎌倉幕府の体制を確立してから、源頼朝は鶴岡八幡宮の社頭で、放生会として千羽の鶴の足に金の短冊を結びつけて放った、という伝説的な故事を詠んだもので、当日鎌倉に居た人は皆外に出てその見事さを賞賛しただろう、という句。

右大将かまくら中をつるだらけ 安八松2
かまくらハはなし鳥にも持参金 天四宮1

山田 賛。在鎌倉は、謡曲『柏崎』の「訴訟の事候ひて。在鎌倉にて御座候ひしが」の文句取。

三年ハざいかまくらとかくくする

小栗 山田兄の文句取を加えて賛。

清 賛。

天四満1

自選集

小島蘭幸

一本の百合が毎年咲く母よ
スローモーになった七十五になった
祖母ちゃん子でした優しくなりました
奇跡の一枚はモノクロ妻と僕がいる
コロナ以後旅番組のファンになる

山本希久子

終日を家身だしなみさえ忘れ
悪あがきして深まる加齢の泥沼
謙虚に生きるたっぷりはない余命
蒸し暑さ今日もカレーの香が満ちる
腰砕けになる私の骨密度

居谷真理子

情報の濁流ポケットにスマホ
空き缶に入った風が出てこない
読み終えてほんのり温い本を閉じ
レコードだからサッチモだから温かい
海話を話す広い肩太い首

川上大輪

国民にマイナンバーという鎖
自由など何処にもないという鴉
食事中なのに避難の指示が出る
サイコロを振って悩みを一つ消す
夢ひとつ消してしまった種明かし

北野哲男

老いた気はしないけれども卒寿越す
早寝より他に省エネ策がない
朝夕に犬が私を引き回す
休刊の週刊朝日買いそびれ
道楽を神経痛がやめさせる

木本朱夏

赤い糸ちぎれたまんま神の手に
わたくしを曝して眠り惚けている
わたくしもいつかは花に埋もれる
金魚二匹死なせた悔いを梅雨籠り
熱中症予報聞きつつトコロテン

新家完司

マスクしていても高齢者と分かる
センセイと呼ばれて臍が苦笑い
裏庭の主役は祖母の金木犀
焼酎もシジミエキスも呑んでいる
腹七分 三分は飢える人たちへ

高瀬霜石

正論を言うと刺されるうしろから
時々はお見せしている小風呂敷
運命線だらけ手の皺顔の皺
50年入っていないパチンコ屋
みつつめのまさかの坂が待っている

津守柳伸

熱中症避ける帽子を買い替える
黒い雨想像させるGセブン
四年振り空家掃除もコロナ以後
10円パン釣られ不覚のワンコイン
トンネルをいくつ数えて続く旅

西出楓楽

背中ほど人柄丸くならぬもの
老化とは遠慮会釈もなしにくる
チャットGPT寿命教えてくれないか
週刊朝日最終刊は保存版
生きるとは山を越えたらまたも山

仁部四郎

倦いたなど言わせてならぬ十五日
それまでに六日九日十五日
世界地図火種が絶えぬ十五日
年号の復習をする十五日
普段着で護国神社へ十五日

平田実男

満月でちと恥ずかしい露天風呂
年金が出た日は豚を牛にする
日本の横綱を待つ国技館
久々の和服の妻へ惚れ直す
天の句と一字違いで没になる

福士慕情

対面でやつと施設の妻と逢う
痩せたなあ衰えたなあ手を握る
僕のこと微かに記憶あるらしい
好きな歌唄えば笑顔取り戻す
別れ際笑顔が後ろ髪を引く

藤村亜成

ゆるる炎に想念浮きあがる
怒鳴るより応える毒のある皮肉
とことん付き合おう嬉しい日哀しい日
やさしさが今のぼくには安定剤
つぎのこと考え諦め早くなる

松本文子

緑の中で生かされる日々想う
独りのコーヒーふるさとの風忘れない
皆んなして歌う元気でいる昭和
生きている意味花たちは知っている
プールで泳ぐ私のパラダイス

朝日燦燦細胞が目覚ます
目覚め良し一句を吐いて起き上がる
草花を植える一緒に生きようよ
請求書すまなさそうな貌で来る
当人も幽かに聴いた「ご臨終」

振り向くとよそ見していた影法師
散らかしてないと落ち着かない机
知らないですむことなのに知りたがり
ふる里の吊り橋だから怖くない
頂上のまだその上に展望所

これが最後だとお別れのクラス会
出席者は元氣米寿のクラス会
昼寝してる間に短編の夢を見る
身体中あちこち壊れだす予感
大欠伸して明日への備えする

わめき声止んだ捨て身になったのだ
五欲では終わらぬ紐付けがあった
煮沸したけど死なないあなたの毒
後悔の跡は明日葉には見えぬ
弁明がはつきり出来ぬ擦過傷

森 山 盛 桜
村 上 玄 也
三 宅 保 州
三 浦 強 一

第72回 東北川柳大会

日時 9月24日(日) 午前9時30分開場
会場 東京エレクトロンホール宮城6階
仙台市青葉区国分町3-3-7
参加費 3000円(昼食・発表誌呈)
柳話宿題 「川柳の階(きざし)」野沢省悟氏
(各題2句、自由吟は同一句禁)
「球」 北山まみどり 選
「鼻」 菅原 浩洋 選
「キラキラ」 伊藤 豊志 選
「カード」 山口まもる 選
「逃げる」 山田 昇 選
「自由吟」 野沢 省悟 選
「自由吟」 雫石 隆子 選
(1題2句詠・3人選)
席題 午前11時30分
出句締切 河北賞・川柳宮城野賞ほか
賞 所定用紙使用、投句料1000円
欠席投句 (切手不可)、締切9月13日(水)必着
〒981-8007
投句先 仙台市泉区虹の丘1-6-3
田村富夫宛
大会事務局 川柳宮城野社 TEL・FAX 022-227-0575
主催 河北新報社・川柳宮城野社

第5回 全国鉄道人川柳連盟誌上大会

宿題と選者 (各題2句・共選)
「酒」 石橋芳山・佐藤岳俊 選
「ライバル」 村山浩吉・梶野正二 選
「告白」 杜 青春・吉尾昭史郎 選
「陽」 小島蘭幸・山野寿之 選
投句方法 所定用紙または便箋に4題8
句を連記
参加料 1000円(切手不可・発表誌呈)
発表 「鉄道川柳」11月号
賞 各選者特選句に呈賞
締切 8月末日消印有効
投句先 〒689-0405
浅口市金光町占見新田1325-10
北川拓治 宛
電話 0865-42-6039
主催 鉄道川柳人連盟

森の句集



『高瀬舟』

永^{なが}宗^{むね}宗^{むね}義^{よし}

極楽へ行かせてほしい鐘を撞き
蜜蜂の重みへれんげじつと耐え
お月さまこんなお芋が出来ました
五線譜に画きたい春の川の音
追憶の虹はきれいな弧を描き
甘言に溺れて見たい月見草
風の音なのに老人腹を立て
横に向く自由を釘が持っていた
思い出の道で歩巾がせまくなり
降りるまで待てぬ笑顔のむかえ傘
和解した顔がならんだ屋台の灯
口下手が我慢のならぬ顔をあげ
四面楚歌じつと手を見る爪が伸び
一枝の花へ思いのたけを込め
行き先も言わず出かけた十二月

(昭和49年11月12日発行)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

発掘の度に歴史が変わるのか
人間の面をほしがる鬼もいる
出るところへ出ようと悪い方が言う
森を出たビッグミーを君知らないか
どちらでもいいと大きい方を取る
落款の朱が鮮やかな一字の書
毎日が父の日ですねお父さん
円盤を見たとき子供は譲らない
虚と実の真ん中辺を風渡る
いつまでも酒飲めるよう休肝日
毎日が休日だから余暇がない
振った手が帰らなかった雲の果て
わだつみのこえが沖から響く夏
マスカット白桃メロン夏の雲
氷屋の旗 少年の日の夏よ
生国は摂津の国に御座候
月並みな一生もよし羊雲



木 本 朱 夏 選

松江市 中 筋 弘 充

梅雨入りとわざわざどうもありがとう
三面鏡どんな私も愛せない
左より右顔がやや美人です

尼崎市 板 谷 賢 二

摩訶不思議種なし西瓜種を売る
損ばかりしている気する室外機
肩書は空白のまま名刺刷る
半額にされた刺身に意地がある
試着室の鏡付度ばかりして
人間の願い知らぬと流れ星

貝塚市 吉 道 あかね

乾かない心のままに梅雨に入る
六月の仕事に紫蘇を揉んでいる
十葉の白さに惚ぶ人ばかり
瘡蓋にならぬ思い出にもならぬ
右手を庇い左手も泣き出した
長生きのおまけカルテが重くなる

高砂市 裕 木 る い

大切にし過ぎて賞味期限切れ
下剋上無理です妻に勝てません
母看取れず上弦の月沈みゆく

頑張れ私今日も鏡に励まされ
朝が来た命のポンプ確かめる
なに気ない一日だから宝物
雨が降る命の水車回してる
石段を踏みしめ神の近くまで
感情の蛇口ひねって火種消す

加古川市 石 賀 邦 子

そのうちに大相撲にもペンライト
あと何歩足りぬと責める万歩計
血の色が薄いですねと医者と言う
顔よりも仕草が良いと気に入られ
右の手が前へ倣えと指図する
貧乏が遺伝をすると知った夜

交野市 山野 双葉

目を閉じてポチも聴いてる鳥の歌
世話を焼く相手欲しくて犬を飼う

青紅葉そよぐ菩提寺墓終う

エンディングノートこつそり書く夜更け

梅仕事終えて今年の猛暑待つ

ジャスミンの香りにむせる君待つ夜

尾道市 村上 和子

洗い立てシャツで遣る気の月曜日

お若いね言われマスクを外せない

マスク外せば消えてゆく恋ごころ

想い出の押し花はさむ日記帳

水たまりぴよんと一飛びできた頃

健康を宝にゆるり喜寿の坂

生駒市 饗庭 風鈴

鬱蒼の森開かれて泣くカラス

切り株の墓標が残る開拓地

巢を追われ行方知れずの小鳥たち

森消えてヒトの住みかが現れる

ふり返る昨日おぼろになつていく

例えれば月の砂漠をゆくひとり

大阪市 阪本 秀子

引出しの奥の未来はどんなだろ

好きなよう生きて弾んで良い感じ

めざましが今日の私を急き立てる

君だけだなんて百人誘つてる

行き詰まるときには誰の声をきく

遺影みてやり取りをする天の父母

富士見市 中島 通則

老いの目にZ世代は異邦人

優等生だった卵が問題児

売るほどに残ったマスクどないする

AIに文化芸術奪われる

付度は一切しない三面鏡

糸切り歯昭和の母は強かった

神戸市 酒井 宏

夫婦して午後のコーヒー至福時

春うらら待つも楽しい花時計

ネギ坊主君にもやがて老いは来る

朝顔が今日は三つと孫の声

血糖値高めの僕を蚊が襲う

暑いねえ暑いですわねと今日も暮れ

大阪市 森田 遊子

日和見の私を許す傘を買う

夏椿落ちるべき位置知っている

陰翳で立体感の出たハート

新緑の中も潜んでいる別れ

無限大心のひだを払ければ

悲しみが薄れゆくことの哀しみ

安来市 原 徳利

竜宮城の守衛になったウツボ
熊胆を飲ませた母の苦い愛
間に合った流れ焼香忍ぶ影

影と行く病院までの長い坂
バラ色がなくて未来図未完成
強がりはおひとり様の隠れ蓑

柏原市 神崎 江

ぐっと抱き寄せるストロベリームーン
素人の目には解らぬツーシーム
スタートの興奮煽るファンファーレ

福山市 新庄 芳春

神様も好きなお酒だやめられぬ
神様の試練と思い耐える日も
神様はいたずら好きで忘れんば

寂しさが行き来している交差点
あと少しもう少しならやれるかな
持て余す私を生かす紙とペン
三叉路の迷いもいつか思い出に
バリトンに心とかされ夜が更ける
浮ついております恋をしています

豊中市 齋藤 奈津子

異次元の神業見せる翔と聡
順番は妻の後にと神頼み
神様は知っていますか僕のこと

尼崎市 山本 百合

孫がこぐブランコ天へ弧を画く
かるがもの護衛がついた道中記
アイドルに見とれる口が半開き
気に入らぬマイナカードの顔写真
やっぱりなマイナカードの誤入力
隠してた顔半分に老いが寄る

竹の子の勢い大地押し上げる
朝の庭せみの脱け殻愛おしい
夫への想い天まで届け短冊に
その通り粗品と書いてある粗品
グルメな烏我が家のゴミは突かない
釣り銭を駄賃にできぬキャッシュレス

大阪府 奥野 健一郎

大阪市 岡田 恵子

雲ひとつない青空に抱く嫉妬
「まかしとき」言った介護の荷が重い
人生のまさかを歩く二人連れ

溪流の風も一品夏料理
このところこんな筈が増えていき
なにひとつ持論を変えぬ分らず屋
気を抜けば丸い背中にながら
後ずさる技も抜かるなアメンボウ
踏ん切りをつけてごろんと草の上

唐津市 前田 廣幸

氣を抜いた途端方言零れ落ち
食べないじゃなくて秋刀魚の高値ゆえ

制服が「以下同文」と同じ顔

幸せが語る苦勞の裏ばなし

人生百年一世紀のことじゃろう

「ここだけの話」の効果一時間

神戸市 米田 利恵子

卵かけ御飯が贅沢な令和

阪神の独走父が生きてたら

白黒の糸で間に合う穴かがり

モノクロの日々に誕生日の集い

出世払いに騙されてやり貸してやり

息子との喧嘩も懐かしい頁

寝屋川市 長尾 千賀

私の好きになちよつと壊れているあなた

恋の火傷免疫淡い朱を残し

血液型Bですいつも嫌われて

ジグソーパズル愛のピースが見当たらず

苺ケーキ涙腺もろくなる吉事

ピアノソロ指が終った愛唄う

府中市 岸田 武

膝がまず気付いています梅雨の入り

アジサイの引き立て役の雨が降る

風呂の妻虫が来たと呼んでいる

紹介状病名がまた増えました

三面鏡どっち向いてもお人好し

ねぎらいが誤解を生んで疎遠なり

鳥取市 大前 安子

蹶いた場所が思い出熱くする

プライドで歩いて来たの母だもの

巢立つ子の灯台となれストレッチ

受け流すことも覚えたララララ

帰り来たかと靴音をつい探す

コロナ禍のマスク卒業七千歩

尼崎市 清水 久美子

トラキチと一日五回語り合う

アジサイがラブコールする雨女

悪筆も漢字検定準二級

永ちゃんのロックに和して燃え尽きる

狂い咲きする母の日のカーネーション

食通が勧める蛙エスカルゴ

尼崎市 宗 和夫

恥と汗かいて使えたセルフレジ

マイナポイントやるといわれりゃ貰つとこ

梅雨の巣ごもり心にカビが生えそうで

タイガース負けたら妻は早寝する

お互いの思い違いで良い夫婦

恋人か同志か妻と僕の齟齬

河内長野市 穂口 正子

王様に誰が付けるか黒い鈴
若者が空気読み過ぎ覇気がない

外貨稼ぐグリコ万歳戎橋

値下げシール客が集まるわらわらと

冷蔵庫に何故か通帳落ち込む日

老女でもカンナが似合う夏生まれ

東大阪市 青木 隆一

約束ははかなく水に浮かぶ草

悲しみは夜に鳴く蟬うすい羽

残り香は土の匂いに似て不思議

消しゴムは国の境を消す役目

無機質はコンクリートに残るシミ

靴音は遠い昔に知った恋

大阪市 吉積 栄次

選球眼良かったはずが妻選ぶ

それなりに幸せそうに暮らしてる

陽当たりの悪いところに俺のシャツ

不自由なく俺の稼ぎで遊ぶ妻

何もせず世の中ばかり恨んでる

残酷に蜘蛛の糸切るお釈迦様

奈良県 室田 行久

大病し三途の川をUターン

吹き荒れる妻の逆鱗ただ耐える

メカ音痴らしくスマホでも挫折

練習が奇跡を呼ぶと言うコーチ

新機能すぐに飛び付く一丁嚙み

血の巡り良くなるサブリ飲み忘れ

大洲市 花岡 順子

小さい字は読まれたくない説明書

赤の強さを中和しているかすみ草

信号の青を信じて生きている

ライフワークもつと楽しみたい老後

理系です東大卒じゃないけれど

囲炉裏端幸せだった頃思う

宮崎県 恵利 菊江

草に負け涙一粒慰める

いっときの刺激をもらうソーダ水

蜘蛛の巣も平気になつて草を刈る

鎌の刃が草の涙で濡れている

青臭い草の叫びが沁みる胸

根元から百足一匹腰が引く

広島市 松尾 信彦

ぬけぬけと酒が言わせる満足度

難聴の頓珍漢を訳す妻

イクメンは嫁の指図にムダがない

アクティブはもう似合わぬ生きる知恵

セルフより笑顔につられ並ぶレジ

晩学を明日に残してよい眠り

津山市 高橋 由紀女

惜しみなく五感潤す鳥の声

老いたとて爪とへアーは伸びてゆく

会釈した少年どこの誰だっけ

過疎に住む心ゆだねる夜半の月

暫くの投句の無沙汰落ち着かず

美作市 岡本 余光

活力はないが正しく生きてゆく

永らえて心の自由得られそう

不器用を自覚しながら往く余生

身勝手も人に迷惑かけぬほど

満月に心が揺れたのは昔

広島市 田桑 恵子

異常なしビールの通りいい夕餉

割引券二人まで可に誘われる

神の采配時にはミスすることもある

マネキンと勝負は出来ぬ試着室

未知尋ねスマホの扉ノックする

広島市 森田 博之

老いの道指示器ときどき出し忘れ

俺拔きの家族会議という変事

涙目が僕の行く手を迷わせる

願わくば可愛いボケで終わりたい

仏間から傘お持ちかと亡母の声

竹原市 土井 輝恵

ラジオ体操体思えている筈が

コロナ後はギクシヤク御近所様の色

プレゼント折角ですがM寸は

ケアハウスと入院ばかり往復し

瞳の光ワンパクになる素質あり

三次市 伊藤 寿子

柳誌きた恋人のように封開ける

あの世へ行けば恩師に逢えるかまだ夢に

三十年も続いた趣味は宝物

まだ読める書ける歩ける人間だ

三婆会をホテル予約はまだ元気

山口市 中前 幸子

あじさいが咲いて梅雨空軽くなる

落ち込んだ日の太陽はまぶし過ぎ

道標傾き餅かえらない

こころの痛み癒す呪文を考える

殆ど喋らない独りの一日

佐賀県 真島 久美子

夏最中 自己啓発の本抱いて

手荷物を預けて少し浮いている

雨上がりまた母さんが虹を産む

人の顔してるか覗き込む鏡

ポーチからやましい事の二つ三つ

那覇市 禱

モモト

弘前市 小山内 真由美

引退つて生きてる限りないかもね
泣きだした外反拇趾のハイヒール
爪揃え先にのびたい無名指
失敗の数成功の道しるべ
連れ添うて夫婦喧嘩も命がけ

那覇市 宮

すみれ

船橋市 中嶋 常葉

列島にJアラートに怒怒怒する
三勝目孫の試合にあぶら汗
夏空へ申し訳ないグチ一つ
野良猫がおどおど小庭で子を生んだ
やわ肌を右往左往で蚊が狙う

松山市 郷田 みや

横浜市 巖田 かず枝

引き受けたつもりはないが傘を干す
気持ちだけ忙しそうね梅雨晴れ間
地方紙に見つけた名前ラインする
ササ百合が咲いて何かを待っている
ため息を聞かれたようで一気飲み

白河市 鈴木 たけし

横浜市 加藤 佳子

骨のない墓を暴いた大地震
摺り足は認めてくれぬ万歩計
味付けは変わらなかつたりニューアル
昭和期を語れば民話めいてくる
看板を外した家は空でした

紫陽花に小さな花芽誕生日
あるはずの風景戻りほっとする
そうだねってすべて頷く曇り空
コンビニのアプリにも慣れ恙無い
拝啓と見えない明日へまた続く
空つぽは見せない笑いだけの部屋
ゆっくりと別れて思い出し笑い
優しさを涙にかえて鼻濁音
キザなバラ女心をやり過ごす
始まりと終りに君のカーニバル
高一の孫のつけてる化粧水
母を越し父も越したよ背比べ
一面の向日葵畑待つてるよ
嬉しいが無償の付けの恐ろしさ
戦争をしない備えの防衛費

重かったマスクに別れ告げて梅雨
紫陽花が私を見てとコンタクト
達吟家の訃報に思う六月忌
ダム破壊ここまでやるか侵略者
究極の犯罪なんだ戦争は

小田原市 虎澤 昭久

風呂帰り母の背中の湯の香り
暇な足老いることだけ忙しい
友減るも葉の数は維持してる
蝶々が目の前飛んで誘惑す
ゆらゆらと明日はお任せ老いクラゲ

神奈川県 小田 幸子

ああおいしい介護5の母朝の声
年月は顔と頭にシワつくり
芳潤さ増す一口の酒ふくむ
同窓会シワ描き足して思い出す
同窓会きのうのような半世紀

東京都 宮田 栄子

境内に木遣りが響く江戸の粹
父母よ待たせた墓参ふる里へ
友と行く五月の薔薇の香しく
見上げれば花も咲きます夏木立
白詰草名の由来知る朝ドラで

豊橋市 小松 くみ子

今年こそやるぞアサガオのカーテン
白い百合植えた憶えもないが咲く
高い樹をバオバフ風にバツサリと
子沢山ツバメの親に愛を見る
うれしさとさみしさ混じる巢立つ庭

大阪市 今村 和男

雨の日の早明浦ダムはよく眠る
傘を差し真面目な顔で歩く人
新聞が元気をなくす雨の朝
パトカーか救急車かとのぞく窓
後はもう漢方だけが頼りです

大阪市 尾崎 文子

若者に昭和の歌がブームらしい
AIが老化するなど尻たたく
過去見るな百歳時代どう生きる
マスコミが少子化ばかり言っている
マイナンバー国の言うこと信じない

大阪市 白谷 よしみ

突然にここにいますと咲いた花
つゆ草の花のブルーは母の色
扇風機心くばりで首を振る
扇風機風をよんだか首振らず
逢いたくて昨日の犬を待ちぶせる

大阪市 滝井 えみこ

レモン飴なめても胸は晴れません
カレーうどん鉄槌下す白シャツに
海苔破れおにぎりからも憎まれる
ストローの延長上にふくれ面
ようかんに免じて耐える長話

大阪市 田原 康雄

スーパ一の跡地気になる二百坪
空地にはマンション建つと妻の勘
月一の句会散髪片頭痛

紫陽花を好きと言う妻晴れ女
マスクなし散歩の時は大手振り

大阪市 中村 民子

よく眠る免疫力は保たれる
寄り道で知らない事を教わった
夢を追う孫の話は少し盛り
うっかりと話に乗った老いのミス
古惚けた褪せた自転車まだ走る

大阪市 中村 峰子

ゲタ履いてしゃがむ暮らしが懐かしい
この夏は素足にゲタと決めました
このごろは遅寝早起き昼寝付き
後期です少しぜいたくしたくなる
カレンダーうめて安心明日を待つ

大阪市 松田 聰

コロナ禍に社会の歪み隠せない
太陽に当たると元氣出るらしい
社会的孤立犯罪増やしてる
青天に負ける気がせぬタイガース
平和叫び核のボタンは持ち歩く

大阪市 宮本 千恵子

シルバーカーがあふれる町に住んでいる
お寺さんも家族の不和に悩んでる
大正昭和と苦勞をしたね父母義父母
ピワ泥棒はカラスの仕業憎めない
試着室自分の老いにギョツとする

堺市 古川 光雄

昼饅頭夜はお酒の二刀流
マスクするしないで悩む四月馬鹿
遠慮がちに輝いている昼の月
免許返納回転寿司が遠退いた
久しぶりに逢った友の名出てこない

池田市 倉本 一弥

ワニの歯をタワシで磨く飼育員
懐かしい押してでも乗るあのラッシュ
推せません世襲議員はお断り
肩揉み代小三の孫二十円
背伸びしてる見て下さいとチューリップ

泉大津市 葛城 隆雄

藤井棋士今や棋界の七ツ星
好き嫌い勝手気ままが今孤独
あれやこれ両手に余る願ひ事
はじまった言うた聞かんのじいとはあ
さんさんに笑わせという落ちで逃げ

吹田市 西沢 司郎

豊中市 貝塚 正子

仲間にも一人居ました天邪鬼
へし折ってやりたい傘も雨で友
救いようない方ですが今も友
雷鳴にびびって読みが狂い出す
リストラにあわずに生きている命

摂津市 荻布 律子

羽曳野市 黒木 ひとみ

長調の調べの中の不幸せ
カルガモのお尻ふりふりランウェイ
嘶きの風響き今糺の森
スーツ女子屹立するビル闊歩
雨音が逢う逢わないと問いかける

摂津市 野々村 レイ子

阪南市 藤岡 笑三

淀川を独り占めして鳴くひばり
泣き虫もケセラセラだよ鬼瓦
支払機シブチンの古い監視する
膝小僧悠長な老いひたひたと
人は皆自分が大事それで良し

高槻市 三谷 白黒

東大阪市 青木 ゆきみ

何しても高齢者だけのコミュニティ
家の良さをしてみてもわかること
食べて寝てそれだけでよい充分だ
奥方と喧嘩しないで長旅を
眠くなる健康である証拠です

診察を待っているうち痛み消え
うちの子も「と金」となれと背中押す
父さんの金歯が今は高く売れ
さてどこや改札前で探し物
SLのように息はき坂のぼる

親切な言葉の裏に黒い影
八十路でも友のお陰で日々楽し
爽やかに目覚めて今日も頑張ろう
今の世はスイッチONで家事こなす
亡き親に感謝伝える墓参り

なんやかやあって金婚いと嬉し
徒競走隔世遺伝孫はどり
書道展大脳皮質大混乱
闇の街魍魎魍魎が闊歩する
禰宜の声小鳥も祈る神やしろ

三面鏡母の秘密が隠れてる
三年ぶり花火の玉がじゅっと泣く
心にはジュークボックス抱えてる
ボリウムを合わせて生きる夫婦仲
引き出しを開けて人生振り返る

藤井寺市 松井正義

なたね梅雨台風コラボ荒れ狂い

死亡記事同じ年だとギョツとする

翔タイム以外に聞けぬ良いニュース

梅雨空に北野ミサイルいきりたつ

アラートでまたも朝ドラ見そこねる

大阪府 浦上恵子

言い訳に使う雨待つもつと降れ

即答は避けます断りのメール

十七字拌むは辞書と虫めがね

干涸びる程度に散歩する晴れ間

集まれば医院の査定姦しい

大阪府 高木道子

五年前の紺のスーツがそっぽ向く

告げ口も無駄口も聞くマスク無し

愛想良く笑顔相槌ああしんど

友達に時の移ろう姿みる

一人居のテレビに一日喋らせて

神戸市 青木公輔

歌唱指導に疲れ句箋とにらめっこ

デコボコのボコに頼つたのが不覚

下手やなあそこまで言うな君もやろ

賞味期間さてそれからの旨い味

申告敬遠そろそろいじめ始まった

神戸市 石川克美

卓球で続くラリーに息を呑む

同世代ひな・みう・みま・みゆ みんな2字

AIが信じられない世を創る

浅知恵で生きて来たのよ幾年月

あてもなくさまようかなしみ知りました

神戸市 田本古鈴

信じますそれが愛する第一歩

がらんどろ私の心いま空き家

訣別を告げたあの人不人情

裁くのは神のお仕事預けます

愛してるとんなワラにもすがりつき

神戸市 横田次郎

自意識が普通のカレー作らせず

飲み放題ピッチ合わせて無礼講

死ぬことを知ってそれぞれ持つ悟り

おだてられつるつる滑る軽い口

さばさばと負けを認めて軽い肩

神戸市 みぎわはな

叱られて諭され労われ娘のメール

毎食のメニユー写真を娘にメール

献立のメールで老母の達者見せ

娘の還暦背なに人生滲ませて

還暦の娘よ人生はこれからだ

神戸市 村松久江

なかなか手強い孫とひと波乱
妥協せぬ強情っぱりはば譲り
若者にシニアパワーを御裾分け
スケジュール楽しみだけを組み立てる
理想論掲げて進む能天気

尼崎市 八木幸彦

踊り場が少しあるから安堵する
晴れた夜は月の模様がよく見える
心技体充実膝もよく曲がる
不夜城の街でもやがて日は暮れる
思い出が地図から消えていく無常

小野市 藤原泰宏

世話したら薔薇も蕾を多く付け
九輪草木洩れ日受けて嬉しそう
難しい言葉の綾で誤解生み
縫合が無事に出来たと医師の息
運だけと言われてみれば当て嵌り

三田市 生田えい子

こもれびが母との会話とませる
八十の恋仲を取りもつお人好し
おさな児に空気読まれて狼狽える
おすそ分け少しで足りる老ひとり
娘の出産身体劣化あせる母

三田市 野口龍

吊り橋の高さが怖い第一歩
リハーサル無事に終って深呼吸
青い鳥探しています今日もまた
時々ですが一人で泣いて笑ってます
カップ麺ここから長いあと一分

三田市 松下英秋

行かずとも何処の家にも春は来る
千秋楽土俵の上の低気圧
二種類の蛙鳴いてる田植えあと
爆心地でやつと黙祷G7
反対の意見も言える民主主義

三田市 森玲子

母の日と誕生日とが続いた日
母の日のチェリーの種類を庭に植え
要る要らぬもしかしたらと片付かぬ
老い猫の鳴き声だけで意思疎通
ありのまま生きて行きますグレーヘア―

宝塚市 岸田万彩

雑踏を歩く五感はマキシマム
からうじて8020をクリア
人間は金を貯めたらすぐ腐る
涙腺のゆるみを隠す強い口
ヒマワリの苗が戦車の去るを待つ

丹波篠山市 澤 良子

久びさの忘れた耳にイヤリング
演奏会体のリズム乗りきれず
十四年我家に元氣くれた犬
愛犬も家族の一員家族葬
素朴でも言葉の奥の深さ知る

西宮市 高瀬 照枝

立つ訓練湿布は足になんぎ減る
積立金リフレッシュには役に立つ
バラ開くその時待つて絵手紙に
年を積むお裾分けですひじき豆
六月の晴れの日時は大事な

西宮市 高橋 千賀子

食欲に従順すぎるメタボ腹
泣き面に蜂床に落した生卵
酢漬つくだ煮新生姜のレパートリー
ささやかなしあわせもらうガーデニング
梅雨入りにせめてマニキュア赤にする

西宮市 藤原 みよし

どう生きる考えただけ怖かった
気楽だな一人暮らしが板につく
どこ行くの尋ねられたよ黄泉の国
いつの間に隣の猫が覗き来る
ラッキョ漬け誰か来ないか待つ日々や

生駒市 永田 美美子

喝采の純白眩しブーケトス
向日葵のうねりの中に身を焦がす
里帰り訛り飛び交うおもてなし
地藏盆浴衣の君を駅で待つ
盆踊り見物席で手が踊る

和歌山市 北原 昭枝

ギクシヤクな心を洗う雨が降る
五線紙の甘い旋律雨の音
父をまち番傘脇に幼き日
空ばかり見上げる雨に想うひと
雨音が静かに響く仕舞い風呂

和歌山市 倉橋 悦子

錯覚かまだたつぷりと時間ある
酔いしれて忘れてみたい世の掟
香り立つスイセン団体で笑う
苦も楽も抱いてあの世の一里塚
笹百合が囁くように揺れる里

和歌山市 定松 宏枝

好き嫌い無くて毎日ハッピーで
いつもより多弁になった二合半
いやいやをする児の如くアマリリス
雨の日は昭和レトロの歌を聴く
娘に内緒少しお高い化粧品

和歌山市 佐藤 まき

海南市 山中 閑

心地よい曲で覚めたい日曜日
夜更かしの寝惚け眼で布団蹴る
宵つ張り丈夫が取柄とは不遜
不遜な自信老いの明日はわからない
忘れてた早寝早起きの壮快

和歌山市 鍋嶋 澄子

アマリス母が逝った日咲いてみせ
杖つくもあれこれ観たい好奇心
バラの花お風呂に浮かべ貴婦人に
奪う春戦やめよう空が泣く
鳥さわざひとつ残らずサ克蘭ボ

和歌山市 西川 千鶴

発泡酒ビールに負けぬ器量好し
酔狂と言われる趣味を持っている
ペットロス一年経って辛さ増す
口角を上げて詐欺師がやって来た
断捨離のリストに載せておく夫

和歌山市 まつもと もとこ

キラキラと琥珀になった古い傷
おひさまと風を味方にしたシート
パワハラを訴えてくる五十肩
マイナンバー不安がよぎる使い道
死ぬときもマイナンバーで処理される

株分けの都忘れを嫁がせる
カーネーション子からの真つ赤な新品種
長い髪バツサリ寄付をする覚悟
影見せずセンスが光るアマゴ釣り
線状降水帯街中漬く怖気

和歌山県 三枝 眞智子

梅雨入りへ紫陽花びんと背を伸ばす
心配りの友人持つて救われる
「ありがとう」が世界を救う手立てかも
日やけ止めに頼るも年は争えず
腰伸ばす特効薬は見当たらず

鳥取市 上山 一平

採血の窓ごしに見る山ざくら
何時か見た麒麟の肌のプラタナス
何時か会うスクランブルの交差点
何時か去る喜怒哀楽のちぎれ雲
童心にかえるお祭りリング鈴

鳥取市 狭武 紫陽

早すぎる梅雨入り何を急ぐのか
白湯を飲む長生きしたい訳じゃない
月曜日カレー曜日は惚けぬため
袋とじしておく笑い合った頃
平均点あれば充分だと論ず

鳥取市 山野 すみれ

草取りが趣味の一つになりました

家出した猫は放浪を楽しむ

自家製の個性豊かな温野菜

枝豆の塩少々が効き過ぎる

皿洗いダイヤの指輪邪魔になり

倉吉市 宮田 風露

顔の皺脳に移動が出来たらな

三年のマスクが皺を隠してた

田植時蛙が音頭取っている

薫風に散歩の時間長くなる

約束を守って友の笑顔見る

倉吉市 若松 由紀子

失敗も笑い話になる月日

老い独りレンジでチンの晩ご飯

言いわけはあらゆる言葉ならべたて

天然ボケ分っていないのは自分だけ

材料は沢山あるが料理下手

米子市 川本 美津子

ストレスは貯まるが金はすぐ逃げる

思い出が昔話になって来た

茶の友が増えて毎日ボケ防止

秋日和日向を拾い散歩する

不便でも昔の暮らし性に合う

鳥取県 田中 重忠

威風堂々剪定おえた庭の松

うずを巻き別れをおしむ花筏

夢をみるたびに川柳ういてくる

ニシン焼く昔飯場でしたように

あと少し生きて五輪をみるつもり

鳥取県 橋谷 静江

チャン呼びで電話をかける友がいる

もうすこしネジを巻いて元気だす

少しでも散歩が出来るストレッチ

夫の世話しているうちが花だった

惜しむ古着なかなか片づかず

松江市 相見 柳歩

降参だ花一輪の強さには

ライバルの息が上がったスパートだ

騒いだらやんわり叱ることにする

工夫してあなたのために咲かせます

人生の春も年じゅう恋をした

松江市 山根 邦代

朝一でお日様温い笑顔なり

小さいが可愛い新芽なでている

カゲ口のきらいな人と仲が良い

久々に逢えてお互い涙ぐむ

一人居もいただきますにごちそうさん

鳥取県 高橋 治代

暇になる家事分担を免除され
曇空あじさい映える癒やされて
人並みと思い頑張る今日生きる
年重ね人の意見も今聞ける

京田辺市 加山 勝久

ドーム背にVサインして自撮りして
国連もなす術もないウクライナ
Gセブン核廃絶に一顧なく
とびつきの笑顔ふりまく選挙前

神戸市 山根 弘華

ルールから少しはずれた自分流
雨降りでペンを片手に小半日
少しだけルール無視して友が去り
大好きな友のしぐさをまねてみる

小野市 田中 辰夫

老夫婦犬は知ってる上と下
雷鳴に犬も家内もよく吠える
野良仕事カエルを起こすクワの音
コロナ去りランチ仲間の腹の虫

三田市 木村 マユミ

一夜雨街の空気を一掃し
数えきれない思い出を噛み締める
公園気功身も心にも歓喜
遠い日の懐メロ聞けば青春が

三田市 幸田 厚子

不義理した足は里向き母恋し
無事退職部下から粹なサブライズ
ありがとう五文字で笑顔丸くなる
A I アイボ認知の婆を癒してる

丹波篠山市 河南 すみえ

心して作ろう丸いにぎり飯
哲学を拾って歩く一里塚
山谷越え自分の道だ悔いはない
楽しい夏老いを忘れて咲き誇る

東京都 尾畑 なを江

住んでみて都会暮らしも良いものだ
毎日が日曜日です忙しい
家計簿が人生語る証人だ
幸福と常に自分に言いきかす

東京都 高岡 弥生

どうしよう甘い手土産もらっても
愛犬の生き様語り子と泣いて
飼い主の心読みとり見上げてる
気をつけて安価なものは毒がある

大阪市 池野 恵美子

ひとことの娘のライン気い付けや
いつの日も話相手は仏さま
お迎えはいつでもいい言うけれど
ストレスのはけ口求め友が来る

大阪市 近藤風羅

追いかけて桜めでたい北の空
思いつく五七五のうれしさや
友の回忌その後の話ほろ苦い
ノンアルでさかなは常のきびなごで

大阪市 前川善之

暑い夏熱中症にも電気代

若者よ甘い話に怖い裏

電話詐欺今の話はちよつと待て

この世では努力だけでは生きられぬ

泉大津市 助川和美

菌科とくじ当たり外れがあるみたい

大食いをテレビに映すバカな国

シヨウヘイの平和な景色見るテレビ

同じ華二度と咲かせぬ万華鏡

吹田市 岩口 のぞみ

ドック前ビル減らして悪あがき

家の傷わけ思い出し苦笑い

マスクなし口紅新調笑みこぼれ

断捨離だ服に食器に取説に

寝屋川市 坂本 ミヨノ

栄光も挫折人生今白寿

マスクなしまだ離さない老若も

化粧してマスク忘れてすぐつけた

ハム目玉朝のパン食飽きにぎり

八尾市 田邊浩三

歯が痛い活きている歯があつたのだ
広島が世界の友好確認す
曾孫等は競争相手少ないか
出生率最低日本はどうなるの

「川雑」語録 ②②

屋上の詩人

須崎 秋

迷ひ猫が「よろしくたのむ」と紹介状もなにも持たず
に転げ込んで来て、づる／＼べつたりに家族になつてしまひました。
まだ若い猫ですが、この猫あんがい素質がよく、
取りわけお食事については人間よりものはるかにお行儀がい、
やうで鼠を捕つて食ふといふやうな殺伐なことは決していたしません。

(中略)

昼はたいいてい押入のふとんの上で寝てばかり居りますが、
夕暮れの頃ともなると又屋根へ上つて、こうもりの飛ぶ鉛色の空をながめて居ります。
まだ名前が決して居りませんがさしあたり「やね屋さん」と呼んで居ります。

私はかつて犬を飼つていた頃にはよく犬の句を作りましたが、
こんどは猫の句が作れそうです。

(「川柳雑誌」昭和24年7月)

英語 de Senryu ⑭④

麻生蔑乃 『福壽草』 (1955)

英訳 吉村 侑久代 Kim Horne

鳳仙花竿の雫のかかるそこ

touch-me-not flowers

bloom at the drops

from the washing pole

錦魚草プチブルとまでゆかぬ庭

snapdragon blooming

in the garden

not as petit bourgeois

touch-me-not 鳳仙花 *bloom* 花が咲く *drop* 雫 *washing pole* 洗濯竿
snapdragon 金(錦)魚草 *garden* 庭 *not as* ~のようではなく *petit bourgeois* プチブル

～リバーウィローのため息～ ㊦ イギリスで俳句を楽しむ経済学者、長谷川治清氏

私は、“企業と管理の国際比較”専門の経済学者である長谷川治清さんと不思議なご縁で繋がっています。高校、大学が同じ学び舎であったにもかかわらず交流はなく、50代の頃、在職した大学の上司から、イギリス留学中に非常にお世話になった人として、長谷川さんの名前を伺いました。その後、大学時代の先輩から長谷川さんが俳句に興味を持っているとのことで、作句のアドバイスを依頼されました。長谷川さんはイギリスのシェフィールド大学で教鞭をとり、退職後もイギリスに32年も住み続けています。彼は、日記代わりの俳句にエッセイと写真を加えて、彼の人生が凝縮した作品集『イギリス折々』（一向社2023.4）を出版しました。友人とのウォーキング、ガーデニング、畑仕事、フライフィッシング、そして日英の友を交えた読書会を描いた『イギリス折々』は、シニア世代の生き方の在り様を私たちに語りかけます。作品の一部を紹介しましょう。

ヨークシャー歩く笑顔や春時雨

赤椿一輪咲きて朝のティー

我が庭に朝顔咲くや故郷かな

秋雲や土を耕し母の傍

シェフィールド今は無き鉄秋の雨

晩秋や妻のフライに掛る魚

用もなく日本に戻る師走かな

私は（用もなく日本に戻る師走かな）が気に入っています。（用もなく）に日本への万感の想いが伝わってきますね。

愛染帖

新家 完司選

(投句254名)

藤井寺市 鈴木いさお

ユーチューバーとやらで稼いでいるらしい

(評) 詳細は知らないが、ピピッと入力するだけで何千万も稼げるらしい。汗まみれで働く人達との差が大き過ぎるのではないか。

神戸市 城戸 誓子

空っぽで歩こう今日は充電日

(評) あれこれあれこれで放電ばかりしている日々。たまには何の予定もなく、のんびりぼんやり自由に過ごすひとときが要る。

高槻市 片山かずお

流れ星願い聞く気のない速さ

(評) 消えない内に願い事を三回唱えると叶うという流れ星だが、「そんな面倒なことはイヤだ」と言うように素早く逃げてゆく。

大阪市 田中ゆみ子

百円玉は桜三輪だと気付く

(評) 何となく桜の模様だったような気もするが…。確認すると確かにクッキリと三輪! こんな身近なことを見逃していたとは…。

横浜市 菊地 政勝

言い訳も嘘も無しでは生きられぬ

(評) 潔さも正直も美德ではあるが、ブラインドを守る為や他者を傷つけない為には、いささかの言い訳や嘘が必要な場合もある。

神戸市 能勢 利子

ラジオ体操日本人なら皆出来る

(評) 百年近い歴史があるラジオ体操。夏休みに眠たい目をこすりながら校庭に集まっていた、世代を超えた共通の思い出だ。

安来市 原 徳利

見てくれの悪い顔だが運がよい

(評) 自慢できるような顔ではないが、大病を患うこともなく、事故故に遭うこともなく運よく生き延びてきた。有り難し有り難し。

西宮市 高瀬 照枝

明日のこと分かるはずない笑つとこ

(評) どうなるか分からないことを心配するのは「取り越し苦労」。疫病神に取り憑かれぬよう朗らかに! 「笑う門には福来たる」だ。

神戸市 横田 次郎

入院の手続き終えて日が傾ぐ

(評) 不安を抱えながら入院の手続き。あれこれ終えて病院を出ると既に夕暮れ。心まで弱らぬよう気丈に立ち向かって行こう。

唐津市 仁部 四郎

病室へ配所の月が美しい

(評) 罪無くして流罪に処せられた気分の病

室。窓からの月が「しばし俗世を離れ、心静かに御赦免を待ちましょう」と囁いている。

香南市 桑名 孝雄

この一枝脚立に命かけて剪る

大阪府 大沢のり子

ちぐはぐな会話はスルー米を研ぐ

奈良県 中堀 優

脱走猫首輪を変えて礼に来る

鳥取市 大前 安子

オール電化考える脳奪うのか

西宮市 福田 正彦

生まれ持つ頭脳と共に生きて行く

大阪市 滝井えみこ

祖母の墓木漏れ日までもやさしくて

弘前市 小山内真由美

美味しい水仏様にもはいどうぞ

唐津市 坂本 蜂朗

正論に小声で蓋をした上司

東京都 宮田 栄子

断捨離のテキスト本が増えていく

松江市 石橋 芳山

取りあえず自転車カゴにヘルメット

高槻市 島田千鶴子

挑戦は無理持続なら余力ある

広島市 岸本 清

ホラ少し混せて話に味つける

高砂市 裕木 るい

岡山市 丹下 凱夫
はるらんまんはるらんまんの太あくび

佐賀県 真島久美子

ばんばんが痛いと言いにくる男

尼崎市 板谷 賢二

失敗は本気で好きになったこと

松山市 大内せつ子

回転椅子にわたしの進む道を聞く

香芝市 山下じゅん子

渋滞も怖くはないぞ紙パンツ

黒石市 石澤はる子

一日のスタートライン花に水

神戸市 奥澤洋次郎

献立が決まって動作速くなる

梅雨の入り気合いを入れて降っている

嬉しさがくるくると舞う日傘

船橋市 中嶋 常葉

ほんやりとしても息はしている

美作市 岡本 余光

好きなのに背中合わせによじれてる

言論の自由首席が独り占め

体脂肪落とすチャンスのも価値高

黒石市 北山まみどり

羽ばたける息を吹きかけられたなら

締め切りはとでも大事な支えです

大阪市 森田 遊子

筋トレのモノローグ悪しからず

勝った喧嘩ばかりを悔いている夜更け

奈良県 中原比呂志
西風に乗って硝煙臭い風

神戸市 敏森 廣光

ヒマワリは咲いているのかウクライナ

米子市 池田 美穂

句を産めぬわたし鶏なら殺処分

西予市 黒田 茂代

とりあえず書いとく推敲は後で

米子市 成田 雨奇

二度読んだけどやっぱりボツだった

藤井寺市 太田扶美代

スランプの理由はよく知っている

高瀬 霜石

諦めの早さ誰にも負けてない

弘前市 高瀬 霜石

通夜帰りいっぱいやつたのは昔

和歌山市 まつもととこ

甘党辛党最後は二刀流になる

食べ過ぎは胃へのバワハラ行為です

大阪府 平賀 国和

脱線を楽しむだつて恋だもん

断捨離を急かす娘はきれい好き

鳥取県 斉尾くにこ

孫のため手塚漫画は捨てられぬ

しあわせは遊んでくれる人がいる

立って書くスマホ座って書くノート

鹿威しの「ボン」で粗相の歳となり

抱いた猫も眠れば重し立ち話

橿原市 居谷真理子
行列の先頭ちよつと恥ずかしい

豊中市 松田蟻日路

エコバッグ肩にうろうろ妻の後

大阪府 平井美智子

何でやねん何でやねんと生きている

鳥取市 岸本 宏章

ロレックスあればとくに売っている

三田市 上田ひとみ

柿の木も栗の木ももう伐りました

府中市 岸田 武

ボケ具合笑い合ってるうちはいい

鳥取市 前田 楓花

おさんどんボケ防止には丁度いい

大阪府 中島 幸徳

掃除好きひとりもない鳴呼わが家

岡山市 大石 洋子

不要不急の人生ですが忙しい

堺市 村上 玄也

餌ねだる犬は猫なで声をする

豊橋市 西郷紀美代

大の字になつてはみたが背が軋む

八幡市 武田 悦寛

電車乗る誰も無口で海の底

松山市 柳田かおる

少子化対策わたし無力でございます

鳥取市 谷口回春子

目覚ましは恋女房の咳一つ

三原市 笹重 耕三
半世紀よく持ったなと赤い糸

越谷市 久保田千代

それなりの起伏だったと歳が言う

鳥取県 竹信 照彦

整体に夫婦で行って老化阻止

生駒市 饗庭 風鈴

高齢化どこもかしこもスクワット

大阪市 古今堂蕉子

後期だと騒いだ頃がなつかしい

米子市 野川 宣子

物忘れ歳のせいです喜寿だもの

枚方市 谷 英也

八十路ですまだまだ登る山がある

石川県 堀本のりひろ

もう八十幾つになれば芽が出るか

羽曳野市 黒木ひとみ

苦難越え平穏な日々八十路なり

大阪市 谷口 義

うかうかと生きてうかうか米寿です

宇都市 平田 実男

卒寿ですまた世話役が一つ増え

神戸市 山根 弘華

卒寿です生命線はどのあたり

鳥取県 山下 節子

三食をまだつくれます老いの膳

橋本市 石田 隆彦

ガキだった頃は見せない好々爺

貝塚市 石田ひろ子
負けん気が若さを保つサブリです

男鹿市 伊藤のぶよし

過去はどうあれ翁媼の今が旬

神戸市 村松 久江

毎日が明日を迎える前夜祭

堺市 内藤 憲彦

第5類平気のはずがまだマスク

京都市 清水 英旺

三年の習慣マスクと切れぬ仲

鳥取市 上山 一平

コロナ禍の曾孫久々抱っこする

桜井市 安土 理恵

圏外へ出たがる杖とズック靴

神戸市 みぎわはな

見栄張って杖の代わりに傘を持つ

芦屋市 竹山千賀子

靴脱ぐとにつこり笑う足の指

松江市 中筋 弘充

おじいさんになったからには赤を着る

大阪市 岡田 恵子

野良猫がインスタ映える裏通り

河内長野市 穂口 正子

話しかけ喋り出しても困る猫

米子市 竹村紀の治

残された貴重な時を昼寝する

吹田市 太田 昭

逆さに振れば鼻水くらい出るだろう

豊中市 水野 黒兎
横綱が休み金星稼げない

鳥取市 岸本 孝子

手抜きしたはずのバラ寿司はめられた

川西市 大坪 一徳

孫娘からライン来るのを待っている

箕面市 出口セツ子

クジ運は無いが天国行き希望

郡山市 安藤 敏彦

節電にまずは風鈴ぶら下げる

米子市 伊塚美枝子

値上げラッシュ自家用野菜食べしのぐ

富田林市 山野 寿之

僕はシングル妻のベッドはセミダブル

奈良県 渡辺 富子

出して仕舞う身辺整理くり返す

宝塚市 岸田 万彩

こども庁あるが老人庁はない

鳥取市 田賀八千代

こまごまと言われ私の色出せぬ

神戸市 斎藤 隆浩

行くあては無いが気になる天気予報

羽曳野市 徳山みつこ

花柄の雨傘とゆく美容室

津山市 高橋由紀女

野アザミを残して進む草刈り機

境港市 藤原 久直

マイナンバー三途の川で使用する

初年金でうれしいデパート靴笑う
大阪市 白谷よしみ

年金少々子宝あって良しとする
奈良市 米田 恭昌

年金に凭れ値上げで四苦八苦
河内長野市 村上 直樹

年金が太いと増える友の数
鳥取市 奥田 由美

お客様に仕事をさせるセルフレジ
和歌山市 上田 紀子

百均で手とり足とりセルフレジ
尼崎市 藤田 雪菜

セルフレジスタッフの声高くなる
岩国市 上村 夢香

百均のテナント入れた百貨店
高槻市 初代 正彦

100均に気まずく並ぶ300円
神戸市 松倉 正美

自尊心芽生えた孫に誉められる
奈良県 室田 行久

ママには内緒 孫に信用されている
大阪市 宇都満知子

コロッケに御醤油すきにさせてます
尼崎市 山田 耕治

妙齢の子等に虫除けキンチョール
尼崎市 清水久美子

3年振り役所広司に会いに行く
横浜市 加藤 佳子

若かった視線あつめた頃の服
尾道市 小川 道子

似合う服ばかり揃えて衣更え
鳥取市 山野すみれ

亡き母の絆もんぺで苗植える
交野市 山野 双葉

女房がチェンジアップを投げてくる
富士見市 中島 通則

今月は二度も小遣いくれた妻
三田市 堀 正和

褒め合える夫婦は無形文化財
豊中市 藤井 則彦

細腕は何度もくじけまた笑う
鳥取市 狭武 紫陽

食欲があるので心折れません
羽曳野市 宇都宮ちづる

絡まった糸によく似た人模様
岡山県 藤澤 照代

期待してのばせただけの美人の湯
豊橋市 小松くみ子

叩く手 wait たメダカ朝ごはん
大阪市 高杉 力

情けないくらいに情けには弱い
大阪市 宮崎シマ子

施設では番茶 茶を点じるなど夢
大阪市 富山ルイ子

時時は風呂でねむっていい気持
寝屋川市

肉じゃがと地酒が待っていた帰省
三田市 北野 哲男

酒提げてどうしてるかと来てくれた
米子市 後藤 宏之

ほろ苦い風味に進む吟醸酒
神戸市 酒井 宏

祝杯をあげても良いか医者に訊く
枚方市 藤田 武人

アジ・コハダ・イカに鉄火で酒二合
池田市 倉本 一弥

生中を三杯飲めば話好き
大阪市 江島谷勝弘

それ程は飲めないと言いうんと飲む
神戸市 上田 和宏

大酒が呑める 人間辞められぬ
笠岡市 藤井 智史

屋台のおやじこぼさぬように酒を盛る
堺市 坂上 淳司

御開きの声に未練の銚子振る
尼崎市 永田 紀恵

二周しても地下の居酒屋戻れない
大阪市 小野 雅美

自分との戦いなんだ休肝日
高槻市 松岡 篤

休肝日書経のように酒と書き
東大阪市 青木 隆一

痛み止めの代わりに酒を飲んで寝る
堺市 澤井 敏治

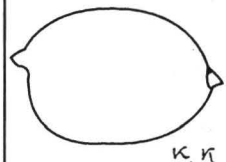
共選欄

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句320名)



「順」 江島谷 勝弘選

古代より春夏秋冬順を経て
 順番無視命をもてあそぶ戦
 嫌な奴1にブーチン2には習
 オバマ氏も順番通りに折った鶴
 軍備より少子化策が一番地
 順調にアレに向かってタイガース
 八番がまた打ちました逆転打
 新名人順調すぎるのはなんで
 止まらない値上げラッシュに嗚呼悲鳴
 順風に慣れて怠る危機管理
 順を追って進むけなげな蟻の群れ
 子かるがも順番守りリズム良く
 慣れましたボチは真つ先妻のもと
 猫にとり順位は下のお父ちゃん
 順調に育てた芋が猪の餌

羽曳野市 磯本 洋一
 西宮市 緒方美津子
 宝塚市 岸田 万彩
 東かがわ市 川崎ひかり
 堺市 内藤 憲彦
 西宮市 福島 弘子
 宇部市 平田 実男
 大阪市 川端 一步
 横浜市 川島 良子
 横浜市 加藤 佳子
 和歌山市 三枝眞智子
 大阪市 岩崎 公誠
 神戸市 奥水 弘
 尼崎市 羽奈 和子
 鳥取市 前田 楓花

「順」 永見心咲選

美しい順番言わぬ野辺の花
 OB会会えば序列が転る
 公園で順番知った一人っ子
 何番目ですかと閻魔さまに訊く
 筆順を変えても愛に变りない
 良い人から逝くもうすぐ俺の番
 順境と逆境の真ん中に修羅
 米寿へと順にハードル高くなる
 オバマ氏も順番通りに折った鶴
 高校も順路に入れて選挙カー
 定位位置で安心します何もかも
 ツアー客地球を見る日もうすぐだ
 びりで良いゴール出来たらそれで良い
 順送りこれが案外難しい
 救急車に道を譲った霊柩車

鳥取市 山野すみれ
 越谷市 久保田千代
 羽曳野市 藤原 大子
 米子市 竹村紀の治
 神戸市 青木 公輔
 尼崎市 宗 和夫
 富田林市 山野 寿之
 豊中市 水野 黒兎
 東かがわ市 川崎ひかり
 尼崎市 板谷 賢二
 三田市 上田ひとみ
 生駒市 饗庭 風鈴
 神戸市 斎藤 隆浩
 池田市 酒井 宏
 太田 省三

飲む方の計画先に出来上がる
 飲み順は銀座赤坂六本木
 成績順名前呼ばれて俺はビリ
 出世頭成績順でないらしい
 成績順いつも末席同じ顔
 順当に出世して行く好かんたこ
 氣候不順桜と雪と鯉のぼり
 紫陽花の次はひまわりスタンバイ
 筆順はどうあれ鬱の字は書ける
 筆順のとおりに書けぬ左利き
 筆順は違っているが字は立派
 順調に傷んでいます体中
 順番は腰からの人膝の人
 ふだん通りの手順狂って老いを知る
 順番はないと気付く計報欄
 食べる順血糖値には先ず野菜
 息吸って吐く順番は守ってる
 順番を間違えぬよう飲む葉
 順調です医師の言葉は天の声
 さしすせそ間違えたけど美味な味
 廻る寿司ケーキで始まる誕生日
 長蛇にも耐えて食べたいどんな味

岡山県	藤澤	照代
豊中市	上出	修
鳥取市	池澤	大鯨
和歌山市	上田	紀子
神戸市	敏森	廣光
神戸市	村松	久江
豊中市	齋藤奈津子	
神戸市	能勢	利子
岡山市	丹下	凱夫
大阪市	寺本	実
香芝市	山下じゅん子	
加古川市	石賀	邦子
豊中市	貝塚	正子
鳥取県	門村	幸子
鳥取市	福西	茶子
寝屋川市	川本	信子
米子市	妹能令位子	
防府市	坂本	加代
箕面市	大浦	初音
奈良市	加藤江里子	
河内長野市	三輪くにお	
和歌山市	佐藤	まき

弁当とお茶持つ人へレジ譲る
 母ちゃんに随順猫もわたくしも
 順調に老いて「あの・その」止まらない
 順調という波にまだ乗れてない
 筆順を覚え鬱などチョロいもの
 大好きな人から順にたまご焼き
 目の前で売り切れなんて殺生な
 穏便にすまず知恵かな「順不同」
 順番取りのいらぬワクチン六回目
 順序よく進みすぎるとちと不安
 父の日は母の日よりも何故遅い
 待ちかねてたのに尻込みする出番
 順調に生きておりますケアハウス
 順番を決める順番待ちしてる
 順序立て話せばきつと分かるはず
 飲む方の計画先に出来上がる
 順調に診察カード増えています
 順不同と言うが順序はあるらしい
 順路から外れ見つけた宝物
 かくあれと順序違えず鴨の列
 予備校は成績順の掲示板
 順不同突然肩をたたかれる

鳥取市	吉田	弘子
東大阪市	西村	哲夫
松江市	藤井	寿代
広島市	羽城	裕子
堺市	澤井	敏治
鳥取県	斉尾くにこ	
河内長野市	中島	一彌
津律市	前田	廣幸
西宮市	亀岡	哲子
倉吉市	宮田	風露
三田市	丹羽	美恵
藤井寺市	太田扶美代	
鳥取県	田中	重忠
富山市	伴	よしお
神戸市	富永	恭子
岡山県	藤澤	照代
大阪市	大沢のり子	
松山市	栗田	忠士
大阪市	森田	遊子
大阪市	川端	一步
大阪市	宇都満知子	
八尾市	村上ミツ子	

順不同我勝ち朝の洗面所

順不同私の後ろに市長さん

最後まで期待持たせる順不同

順序よく並ぼうその大人たち

順序よく進みすぎるとちと不安

順路から外れ見つけた宝物

従順なワイフは僕の宝物

テレビ欄見て風呂の順決める妻

柔順な妻と思うていた誤算

Qちゃんが上手に描ける絵かき歌

穏やかに生き順当に減る預金残

断捨離も手順道理に終えうつろ

米寿へと順にハードル高くなる

レジの順隣がいつも早く見え

大好きな人から順にたまご焼き

われ先を競うヒト科の最後尾

美人薄命なのに私は生きている

梓順が決まってからは落ち着かぬ

じゃんけんの掛け声違い戸惑う子

代表は順送りです貴方です

順風にこれた人生には感謝

順を待つ焦った顔や不安顔

大阪市 津村志華子

奈良県 中原比呂志

尼崎市 宗 和夫

広島市 羽城 裕子

倉吉市 宮田 風露

大阪市 森田 遊子

岸和田市 雪本 珠子

泉大津市 助川 和美

芦屋市 竹山千賀子

枚方市 栃尾 奏子

大阪市 原田すみ子

塩竈市 木田比呂朗

豊中市 水野 黒兎

東大阪市 青木 隆一

鳥取県 斉尾くにこ

尾道市 小川 道子

高砂市 裕木 るい

倉吉市 牧野 芳光

三田市 多田 雅尚

米子市 後藤 宏之

堺市 齋藤さくら

羽曳野市 藤原 大子

民草の声が裁いた椅子の順

ボクが先その後のブラン妻に有る

紫陽花が一番前で雨を待つ

安売りの先着順に息切らす

Qちゃんが上手に描ける絵かき歌

堅物の順序狂わぬルーティン

美人薄命なのに私は生きている

知らぬ間に世代交代するメダカ

お祝いの花の並びも順がある

割り込みに大阪のオバチャン叱咤する

飽食が長蛇の順番厭わない

いつからか順が決まった飲み薬

勇気ある順に雛鳥巣立ちする

従順に褪せてゆく窓際の花

ハイハイが立って走って今受験

順当に出世して行く好かんたこ

だんだんと前に押される年の順

従順の仮面を外す古稀からは

検索はおすすすめ順より安い順

おさがりに兄ちゃんの汗ばくの汗

順番に逝くなら恨んだりしない

お湯割りはお湯が先だと譲らない

唐津市 仁部 四郎

大阪府 浦上 恵子

岩国市 上村 夢香

米子市 後藤美恵子

枚方市 栃尾 奏子

奈良市 米田 恭昌

高砂市 裕木 るい

豊橋市 小松くみ子

東大阪市 青木 隆一

神戸市 みぎわはな

西宮市 福田 正彦

海田市 山中 閑

西予市 黒田 茂代

高槻市 初代 正彦

奈良県 長谷川崇明

神戸市 村松 久江

倉吉市 牧野 芳光

東京都 宮田 栄子

山口市 兼崎 徳子

河内長野市 坂野 澄子

西予市 西田美恵子

三田市 堀 正和

順番を守って遅刻しています

検索はおすすぬ順より安い順

道順を間違ったかな後戻り

期待値を上げたくなって取るマスク

誰からも文句いわせぬイロハ順

持ち歌をみんな唄われ僕の番

安売りの先着順に息切らす

暗黙の序列嗅ぎ分け尻尾振る

結婚も癌になるのも順不同

年功序列お蔭もあつたなあ友よ

お湯割りはお湯が先だと譲らない

従順な妻だったよね若い頃

めでたくもありめでたくも無し順送り

順番が来ても会いたくない閻魔

あの世行き順番待つてスクワット

無愛想な息子 俺もそうだった

母さんは一番あとに箸を出す

救急車に道を譲った霊柩車

秀 句

歳の順平気で崩す閻魔さん

とりあえず主人が先と決めていた

かけちがいですと最後のボタン穴

黒石市 北山まみどり

山口市 兼崎 徳子

神戸市 山口 美穂

河内長野市 森田 旅人

京都府 清水 英旺

米子市 竹村紀の治

米子市 後藤美恵子

大阪市 浦上 恵子

尼崎市 藤井 宏造

香南市 桑名 孝雄

三田市 堀 正和

桜井市 安土 理恵

鳥取市 谷口回春子

奈良市 大久保真澄

奈良県 渡辺 富子

弘前市 高瀬 霜石

大阪市 平井美智子

池田市 太田 省三

大阪府 津守 柳伸

大阪市 古今堂蕉子

樺原市 居谷真理子

うららかな順番待ちのスベリ台

書き順のようにはいかぬ恋の道

順手より逆手が楽な逆上がり

これ以上順応したら消えますよ

酸欠の部屋で検査の順を待つ

廻る寿司ケーキで始まる誕生日

慣れましたボチは真つ先妻のもと

まずは子へ食べさせ母は残り物

バーゲンの始まるまでは並んでた

気候不順桜と雪と鯉のぼり

順番が狂って笑いだした秘話

母さんは一番あとに箸を出す

順番を間違えぬよう飲む薬

息吸って吐く順番は守ってる

無愛想な息子 俺もそうだった

よく見れば濃淡がある順不同

やれることやった顔する順位表

順々にゼブラゾーンが狭くなる

秀 句

筆順はどうあれ鬱の字は書ける

かけちがいですと最後のボタン穴

梅雨空の不安 命の順不同

尼崎市 藤田 雪菜

三原市 笹重 耕三

交野市 山野 双葉

堺市 齋藤さくら

岐阜県 喜多村正儀

河内長野市 三輪くにお

神戸市 輿水 弘

大阪市 小野 雅美

尼崎市 山本 百合

豊中市 齋藤奈津子

松山市 大内せつ子

大阪市 平井美智子

防府市 坂本 加代

米子市 妹能令位子

弘前市 高瀬 霜石

大阪市 石田 孝純

佐賀県 真島久美子

松江市 石橋 芳山

岡山市 丹下 凱夫

樺原市 居谷真理子

大阪市 島田 明美

「コンビニ」

(投句 222名)

丹下 凱 夫 選



コンビニはコピー一枚でも笑顔
コンビニでせっせと使うクオカード
コンビニで知るペイペイの使い方
バイト料請求したいセルフレジ
いつだってコンビニパート募集中
コンビニの傘だが最早三年目
イートイン医師と患者の午後三時
コンビニと医者がいるから住んだ村
コンビニを確かめ下宿先決める
コンビニが会合の場所になる田舎
コンビニのカフェで戦士はリフレッシュ
コンビニで勉強してる受験生
コンビニの明かりに羽化をする少女
コンビニができて田舎と呼ばせない
幸せを売るコンビニが村へ来た
真夜中のコンビニ恐くないですか
コンビニのレジもお客も異邦人
灯台のようにコンビニ町の辻
真夜中のコンビニ村の救世主
ふる里再生コンビニ出来ました

豊中市	藤井 則彦
三田市	村田 博
塩竈市	木田比呂朗
大阪市	石田 孝純
和歌山市	上田 紀子
三田市	堀 正和
池田市	大田 省三
米子市	妹能令位子
倉吉市	大羽 雄大
三田市	野口真桜子
今治市	永井 松柏
東大阪市	佐々木満作
大阪府	米澤 俣子
丹波篠山市	酒井 健二
大阪市	田中ゆみ子
和歌山市	柏原 夕胡
橿原市	居谷真理子
尼崎市	板谷 賢二
防府市	坂本 加代
寝屋川市	廣田 和織

コンビニへ徒歩一分を自慢する
コンビニは隣 お世話になってます
百均とコンビニ合併して欲しい
コンビニのおかずが並ぶ倦怠期
コンビニの好きな夫で留守できる
コンビニに夫あずけて二三泊
コンビニを頼り生き抜く妻の留守
コンビニの味に似てきた妻の味
コンビニの味で育った寂しい児
私のより旨いコンビニ親子丼
コンビニで買えぬ肉じゃがの味
コンビニと百均有ればパラダイス

佳 句

防犯も兼ねコンビニの灯が温い
コンビニが無くて住み良い所ですよ
コンビニも学校もない過疎に住む
コンビニに聞きたい豊かさって何
軽トラのコンビニを待つ過疎の村

人

コンビニが好きな私とカメムシと

地

コンビニで月の欠片を買いました

天

コンビニがオアシスですかさみしいね

軸

あの世にもコンビニぐらいあるだろう

大阪市	今村 和男
米子市	後藤 宏之
藤井寺市	鈴木いさお
大阪市	岡田 恵子
豊橋市	西郷紀美代
河内長野市	穂口 正子
大阪市	平賀 国和
堺市	澤井 敏治
尾道市	村上 和子
大阪市	古今堂蕉子
奈良県	長谷川崇明
三田市	多田 雅尚
横浜市	菊地 政勝
神戸市	奥澤洋次郎
鳥取市	山下 凱柳
明石市	桃谷 和郎
橋本市	石田 隆彦
佐賀県	真島久美子
松山市	大内せつ子
弘前市	高瀬 霜石

「脱ぐ」

(投句 222名)

大内 せつ子 選



しがらみを脱いで始発の駅に立つ
肩書きを脱いだら寒くなってくる
脱いだ靴吹っ飛ばす百点見せたくて
もう一度脱皮する気のスクワット
背広脱ぎ捨て漁師になった息子
肩書を脱ぎ女房の運転手
ポケットは調べて脱げと洗濯機
ミッキーの着ぐるみ脱いでいたおじさん
スーツ脱ぐ待ってたように第二幕
青春の鎧兜がまだ脱げぬ
生きていたかたちそのまま蟬脱皮
矯正肌着脱いでオカンに戻ってる
靴下を脱ぐにも面倒臭くなる
暑いので私裸で経あげる
玄関にさぞお疲れの靴を脱ぐ
脱いでも脱いでも脱いでもまだ私
靴脱ぐと身長が五センチ低い
簡単に心を脱皮させた妻
やっと抜け出したね思春期のカケラ
脱いだ靴方向同じ三兄弟

貝塚市 石田ひろ子
倉吉市 牧野 芳光
和歌山市 上田 紀子
豊中市 水野 黒兎
西宮市 緒方美津子
大阪市 横山 里子
松山市 宮尾みのり
奈良県 中原比呂志
塩竈市 木田比呂朗
防府市 坂本 加代
岡山市 大石 洋子
大阪市 原田すみこ
岡山市 丹下 凱夫
大阪市 江島谷勝弘
高槻市 富田 保子
大阪市 平井美智子
鳥取市 前田 楓花
笠岡市 藤井 智史
松山市 柳田かおる
神戸市 横田 次郎

手袋を脱いだくらしいの軽い恋
玄関で脱いだ鎧の重いこと
脱ぎっぷり買われて今は大女優
好い人を脱いで気持が軽くなり
脱線した話の中にある本音
双肌を脱いでも貧弱な背中
居心地がよくて脱皮が進まない
静かにしてねたいたいま青の脱皮中
脱がぬ訳深追いしてはなりません
大胆でゴメン診察室の椅子
ひと肌を脱いだら私消えました
ブタマンのように蒸された靴を脱ぐ

佳句

悩み脱ぎ捨てたら折鶴が飛んだ
殻脱いだらやつぱりアヒルの子だった
性善説脱いでちよい悪いしくなる
人を踏み人に踏まれた靴を脱ぐ
一本の葦になるまで脱皮する

人

わたくしによく似た母を脱いでいる

地

王様かどうか脱いだら分かります

天

精いっぱい生きてすつぽんぽんになる

軸

下駄を脱ぐ女になり切れないまんま

鳥取市 奥田 由美
東大阪市 青木 隆一
宮崎県 恵利 菊江
小野市 藤原 泰宏
奈良市 加藤江里子
神戸市 みぎわはな
黒石市 北山まみどり
伊予市 田中 なお
神戸市 富永 恭子
和歌山市 真島久美子
宝塚市 柏原 夕胡
岸田 万彩
西予市 黒田 茂代
奈良市 大久保真澄
明石市 桃谷 和郎
大阪市 小野 雅美
今治市 永井 松柏
大阪市 平井美智子
佐賀県 真島久美子
弘前市 高瀬 霜石

初歩教室

題 — 乗り物

平井 美智子

乗り物という発想の拡がりにくい題に挑戦して下さりありがとうございます。一緒に川柳の森へのドライブを楽しむことにいたしましょう。

★リズムに気をつけましょう！

原 自転車は不安定だから乗らない 風露
中八下四音ではリズムが取りにくいです。

参 自転車は便利だけれど不安定

原 通勤電車車窓の景色で時刻知る ひとみ
中八を整えてみました。

参 通勤電車季節の流れ知る車窓
原 競馬のようなかける青春だった さくら
十七音ですがリズムが取れていません。

参 競走馬のような青春を駆け抜けた

原 人の世は憂いを感じる救急車 爽也
救急車に対しての面白い見つけですね。

参 人の世の憂いを受けて救急車

★省けるものは省きましょう！

あれこれ詰めすぎると句自体が重たくなったり説明的になったりします。言い足りないくらいで丁度です。

原 夫育休なれぬ手つきのベビーカー 幸子

参 育休で新米パパのベビーカー

原 窓少し開くタクシー乗車 েমこ

参 窓開けた車に蝶が乗ってきた

参 窓からの蝶と相乗りする車

原 新幹線運よく富士が姿見せ 智恵子

参 車窓から富士を眺めてひとり旅

原 じいちゃん孫肩車誇らしく 美美子

孫とくればじいちゃんの表記は不要です。

参 肩車されて大空掴む孫

★下五で句の雰囲気が変わります。色々入れて見ましょう。

原 ベビーカー老大乗せて春うらら歌子

（春うらら）でもいいのですが（雨の中）

（炎天下）なども入れてみてください。

参 ベビーカー老大乗せて一万歩

原 ママチャリのお通りダンブ道を避け 博之

「面白い見つけですが〈道を避け〉でなく車を避けるのでは？〈道を空け〉〈端へ寄る〉などの表現もあります。

参 ママチャリのお通りですと譲る道

★免許返納の句も沢山ありました。

原 返します敬老バスと引き換えに 双葉

上は七音になっても構わないので

参 免許返納 敬老バスと引き換えに

参 免許証返し敬老バス貰う

原 車かえ免許返納しくじった 開子

参 納車終え免許返納先送り

★いわないで感じてもらいましょう！

原 誰が乗る日に二往復路線バス 邦子

（誰が乗る）という作者の気持ちは上五で言わないで読者の想像に委ねましょう。

参 一日に二往復だけ路線バス

原 車椅子気分ルンルンただ感謝 貴美江

（ただ感謝）は言わなくてわかりますよ。

参 車椅子夫に押されて花の下

参 車椅子押しもらって夏の海

★参考にしてください。

原 ジェットコースター一番前でバンザイや 龍

参 万歳の形でジェットコースター

原 アナリストの尻馬に乗り火傷する 行 久

面白い見つけなのですが、尻馬が乗り物
かどうか難しいところです。

参 尻馬に乗った投資で大火傷

原 乗り物も浮いたり飛んでさて次は 閑

乗り物では、船（浮く）飛行機（飛ぶ）
がありますので車と表記した方がよいか
も。

参 水上を走る車や飛ぶ車

参 水の上走る車があるらしい

原 田舎道バス便減りて悩む老 良 子

下五（悩む老）の表現を再考。

参 バスの便減って不便な過疎の村

原 乗り物に乗ったら昼寝健やかに 弥 生

参 乗り物に揺られて孫は夢の中

原 軽トラにポチが荷台のお客様 律 子

言葉の順番を入れ替えてみました。

参 軽トラの荷台はポチの指定席

原 タクシーとは仲良くしたい道の連れ 照 枝

下五に（お買物）（映画館）など色々
入れてみてください。

参 タクシーのお世話になって医者通い

★このままでもよいと思いますが…

原 みの虫の揺りかご風に揺れている 風 鈴

一般に乗り物とは人乗せて移動するも
のです。（揺りかご）（尻馬）が乗りもの
に入るかどうか課題吟の考え方は色々。

原 更新日認知テストが気にかかる 泰 宏

気にかかると言わないで気持ちを表す。

参 更新日認知テストの結果待ち

原 満員電車くしゃみをがまんする辛さ のぞみ

（辛さ）を言わないことで却って辛さを
強調できる場合もあります。

参 満員の電車くしゃみを我慢する

原 若造りしても座席を譲られる くにお

きちんとできていますのですが、よく見る
発想の句です。発想の変換もひとつの手。

参 若作りして座席には目もくれぬ

原 各停でうつらうつらと街に出る 不二夫

（ひとり旅）（旅気分）等の下五も！

参 各停でうつらうつらと夢の中

原 車酔いせぬよう押した車椅子 利 恵子

過去形から現在形にしてみました。

参 車酔いせぬように押す車椅子

★添削不要の句

○は佳句 ○は優秀句

○ウォーキング免許返納後の準備 静 枝

返納後はしつかり歩こうという静江さん

の背筋を伸ばした姿が目につかびます。

○百円バス市内めぐってお買物 一 平

鳥取の百円バス「くる梨」でしょうか。

○観覧車一回りして恋実る 百 合

因みにエキスポの観覧車は一周十八分と

か、十八分あればプロポーズできますね。

○焦らずに自転車おして目的地 玲 奈

坂道や石ころ道は無理をしないで押して

歩くのが正解だと思いますよ。

○停車場有ってもバスは来ない村 えい子

楽しい見つけに思わず笑ってしまい、そ

のあと少し切なくなりました。

◎空席は病院前を過ぎてから 賢 二

まるで通勤のようにドドツと降りてゆく

病院前、日常を摘み取った川柳の目に◎

◎マニションに介護のバスが並ぶ朝 栄 次
朝、デイケアーからのお迎えのバスが並
ぶ風景。高齢化社会の現実を切り取り、
問題提起をした社会派の目に◎

川柳塔鑑賞

同人吟 安土理恵

―7月号から

しです。

傷付けず傷もつかない片思い

坂本 蜂朗

「片思い」っていいですよ、美しいですよ。一寸切ないけれど火傷や切り傷のないきれいな思い出いっぱいの人生がサイコーと思っています。甘い？

世界平和を背負う日本の桜花

杉野 羅天

散る桜、今日の桜も散る桜、特攻隊の命に例えられ戦いに散った若い命を私共の親の世代はどんなに悲しんだことでしょう。戦争は二度とくり返すまいと昭和生まれは切実に願いつづけます。世界で唯一の被爆国である日本だからこそ世界平和を願い象徴である桜花に特別の思いを寄せられます。

改行をしよう散文の人生

川本 真理子

改めねばならぬ事が起きましたか。散文の人生ならば自由に参りましょ、改行の度に味わい深くなる事請合いです。

元氣だと元氣を出して言ってみる

早川 遯行

酔って寝るこの世も捨てたものじゃない

高杉 力

いける口の方はほんに羨ましい、実感です。人生を達成し、どっかりの余生、やっぱりうらやましいです。

淋しさの分だけ覗く冷蔵庫

平井 美智子

ある年齢を越えた女性の淋しさを慰めてくれるのは「食べること」しかありません。男性なら、一杯やって寝てしまう手があるけれど、いや待てよ、美智子さんの冷蔵庫、缶ビールが詰まっているのかもしれない、とするとやっぱり飲むんですね。淋しさの分だけ、が何とも哀しい。

力を抜いてふわっと飛ばせば良いのです

西田 美恵子

そうです、そうです、何があつたかしらないけれどゴチゴチに肩張って力んでみても駄目なものは駄目と美恵子さんが教

えてくれています。ふわっと力を抜いてみましょうよ、異星人に会えるかも。

四面楚歌それでもこの道を歩く

岩佐 ダン吉

誰もふり向いてくれなくても、理不尽な思いをさせられても自分は自分、と胸を張って歩くダン吉さん、「誰が勧めたのでもない自分で決めた道ですもの」、「小説「女の一生」の名言を思い出します。

会話ある暮し 会話のない暮し

川島 良子

家々の窓明りの数だけある暮し、それぞれの景色を嫌でも想像してしまうキツイ一句に捕まりました。焦点を「会話」に絞り無駄な語句のないキリリとした句姿が清しい。この「会話」が、もし「お金」だったら川柳味が濃くなるかもしれないが、格調がぐんと落ちてしまうと思います。因みに我が家は失語症の夫と会話の少ない暮

無理して元氣を出すのってしんどくありません？でも自己暗示の効果はあるようです。大空へ「元氣だよ」って叫びますか、元氣を呼び込みますか。

また風に乗りそこなつて現在地

北山 まみどり

すっかりした現在地があつてよかつたではありませんか、風はまた誘いをかけてくるでしょう。今度こそ！現在地がピシツと効果的。

貴女といると採点されているようで

加藤 江里子

女性どうして難しいもの。他人のアラ探しの好きな人結構いますから。お氣の毒に江里子さんは捕まつてしまつたのです。ね。採点される。という感受性に感心し同情を禁じ得ません。ターゲットはすぐに変わります。しばらくの辛抱です。

柔らかなくのを外して聞いてみる

松原 寿子

女性刑事さん？ではなくてもこのように問われたらみんな話してしまひそう。身に覚えのある方はどうぞご用心、女性の柔らかないかけは罠かもしれません。

値上げ値上げ食後のデザート姿消す

清水 英旺

ついにここ迄、メニュー一番の楽しみだつたデザートが無くなり、さぞやガツカリ。しかし総じて高カロリーのデザート健康志向の奥様の深い愛かもしれません。とは言え、値上げはこたえます。

ああ夕陽人間小さいなと思う

川端 一步

昇る朝日より沈みゆく夕陽に人生を重ねる後期高齢の身は、旅の途中などで夕陽に遭遇すると思わず合掌してしまふのです。信心は無くとも何か拝みたくなるのです。夕陽にはそんな力があります。自然界にあつては人間は小さい、小さい。

入院したつもりで今日は出歩かぬ

古今堂 蕉子

入院したつもりで成程と思い、蕉子さんのご多忙を思いました。つもりでも入院となれば全てシャットアウトできます。御身大切に、充分なる休息を。

とりあえず夫がそばに居る安堵

中井 萌

何はともあれ連れ合いが側に居てくれ

るのは有難い事にちがいありません、諸々の苦勞をかけないでくれたら。初句の「とりあえず」が微妙でフフフ。

人生の余白に欲は似合わない

西村 哲夫

そうです、人生の責任と義務を果たされた後の余白、怪しげな欲で汚さないで。

ややこしい事案諭吉に頼もつか

森松 まつお

何やかんやのモメ事も結局は諭吉登場で解決、世の中はそういうものらしい、頼んでみはつたらどない？

ありがたい水と空氣に色がない

岸本 宏章

無色透明の代名詞である水と空氣、色が付いたらややこしくて大変です。何色かは別として世の中すべて色メガネで見る事になります。色付きでなくて本当に良かった。透明人間が一番喜んでゐる。

決断は私一人と糸切り齒

前田 楓花

糸切り齒、犬齒とも言い先のとがった鋭い齒。切つたのは勿論、赤い糸、切らせたいのは楓花さんご自身。拍手。

水煙抄鑑賞

— 7月号から

松岡 篤

ゆつたりと自分らしさで居れる椅子

小川 道子

退職後はゆつたりとしたいなど思ったのは甘かった。川柳、テニス、旅行・と宿題がどんどん出てくる。どこまで行っても僕にはゆつたり座れる椅子なんて無いみたい。

世界には平和知らない子等もいる

石賀 邦子

生まれた時から戦争・内戦の日。気の毒過ぎる。かくいう日本も80年前まではこうだった。

半額を粹なお皿に盛り付けて

村上 和子

鈍感な夫は、物価高がぴんと来ていない。妻は少しでも安いのを探し回っているのに。少々鮮度が落ちる刺身も、お皿と盛り付けでカバーする賢妻。

忘れ物届けてくれる父でした

青木 ゆきみ

24時間戦えますか世代の私にとって、考えられない光景。でも気持ちはずうでなければ。

正義勝つ時代劇見て憂さ晴らす

桒葉 良子

時代変われど悪は減らない。でも科学捜査で勧善懲悪さつちりと。

決心が揺るがぬように言い触らす

奥野 健一郎

ピンと来たのは禁酒・禁煙。これがまた大変。こんな時は決心を言い触らし、後戻りできないよう自分を縛る。

戦争にコロナそれでも花が咲く

新庄 芳春

世界は今最悪。そんな中で救いは自然の強さ。待てば幸せは必ず来る。そのための努力の大切さは言うまでもない。

金額に合った店主のお見送り

前田 廣幸

見送り方は、宝石店と雑貨店でも違うし、常連と一見、今日の売り上げ金額でも違う。飲み屋の女将は、また来て欲しい客とそうでない客でも違うそう。

小児科の泣き声やがて国を負う

鈴木 たけし

我が孫も流行り病を直ぐもらってくる。その都度爺婆はおろおろするが、一日たつとけろつとしてる。こんなことを繰り返して強くなるのだろうか。それにしても1200兆円の重い肩の荷スミマセン。

選挙済み先生方は偉くなり

三谷 白黒

私も何回も同想句を作っています。身变わりの速さに感服。

すり傷はつばで治せた昭和の子

田中 辰夫

経験値から人間の治癒力を信じての事。僕のおばあちゃん「痛いの痛いの飛んで行け」でした。

閉店の予告をすれば満席に

助川 和美

「閉店セール」の看板が色褪せている。客もわかってから採めません。

大阪のオバチャンという隠れ蓑

森田 遊子

不寛容な世の中、ふところの深い大阪のオバチャンが居てもいいよね。知らんけど。

川柳句集『肉眼』

橘 高 薫 風

中年や 初秋に多き赤い花
黙契や 野に紫の花が増え
裏窓は山下清画く屋根だ
革命へ 音沙汰なきも志
木犀と星が漉すなるこの夜気か
秋がきて笛は太鼓を恋しがる

吉村和美さんへ

葛の花咲き 樹下美人嫁ぎしと
滝又水 海を渡つて来たわれに
憂国忌 柿は蒂のみ残りたり
半月のごろんとありぬ 憂国忌
四つ足で歩けば楽になる傷か
切株の俺の五年と子の五年
冬の酒 蛸の足こそ親しけれ
白蝶入り 黄蝶出て来ぬ 寺の門
夫婦にはなれなかったが冬の旅

枯枝に鳥 幾世の友情か

革命をめぐらすに 湯に身が浮くよ

お元日 日本人の目の黒さ

誕生の馬の額の白い星

紅椿 雪を解かしていたりけり

黒い炎は人妻の掌の黒茶碗

志操とや 嘴にある鼻の穴

手に足に関節のある寒さかな

ひとりよりふたりにこわき屏風波

黙契や いまも仏法僧がなく

ギター抱き ぼろんぼろんとこぼす悍

吊皮は手枷 生涯平社員

受験子のすでに闘う白い息

冬牡丹 九死一生かも知れず

一日に精魂尽くす痩せようた

夜桜へ 町の時計は刻打たず

反葬は雪の巔から李花の里

琴古く曲新しく いのちの譜

水浴びの鳥を見ている人妻か

川柳塔社各賞選考規定

- ① 川柳塔社には、路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞の六賞があり、毎年10月に表彰する。
- ② 自選集の作者は、すべての賞の対象としない。
- ③ 各賞とも、原則として同一人に同一賞を授賞しない。
- ④ 路郎賞・川柳塔賞については、準優秀作の場合、上位は差し支えないが、同位または下位には授賞しない。
- ⑤ 二賞の選考委員は、その任期中は賞の対象としない。
- ⑥ 路郎賞・川柳塔賞の選考要領については、下記の通り定める。
- ⑦ 愛染帖賞は選者が決定し、主幹の承認を得るものとする。
- ⑧ 檸檬賞は二名の選者がそれぞれ5句ずつ選出した10句中から主幹が決定するものとする。
- ⑨ 一路賞・各地柳壇賞は、常任理事会の委嘱を受けた選者が受賞句を決定し、主幹の承認を得るものとする。

(備考)

この規定は、現行の選考規定を一部改定したもので、常任理事会で承認の上、平成二十七年から実施するものとする。

二賞選考規定

- ① 路郎賞 川柳塔欄の入選句から5句
川柳塔賞 水煙抄欄の入選句から5句
昨年9月号から今年8月号までの一年間の入選句の中から自選し、8月号に刷込みの応募用紙を使用の上、8月15日必着で本社宛郵送する。
- ② 第一次選者は主幹・理事長・副主幹・副理事長・編集長とする。各賞15編ずつ選出し、第二次選者へ郵送する。
- ③ 第二次選者は折り返し、路郎賞、川柳塔賞の各選考結果を本社宛通知する。選考には順位をつけ、第一席(5点)、第二席(4点)、第三席(3点)、第四席(2点)、第五席(1点)の五編の番号を予め本社で用意したハガキに記入のこと。
- ④ 第二次選者
本社関係 主幹・理事長
地方関係 【4】≡ブロック (11) ≡選者数
【東日本】(2) 北海道・東北・関東・信越・北陸・東海
【近畿A】(4) 大阪
【近畿B】(2) 滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
【西日本】(3) 中国・四国・九州・沖縄・海外 合計13名
- ⑤ 地方関係の選者は、適宜交代制を取り、均衡をはかることにする。
川柳塔欄・水煙抄欄に6ヵ月以上出句した人に応募資格を認める。

令和五年 二賞選考委員

第一次選者（6名）

小島 蘭幸・新家 完司・川上 大輪・内藤 憲彦
 楽原 道夫・木本 朱夏

第二次選者（13名）

本社関係（2名）

小島 蘭幸・新家 完司

地方関係 【4】 ≡ ブロック (11) ≡ 選者数

【東日本】（2）北海道・東北・関東・信越・北陸・東海

木田比呂朗・関本かつ子

【近畿A】（4）大阪

鴨谷瑠美子・原田すみ子・山野 寿之・吉村久仁雄

【近畿B】（2）滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山

安土 理恵・嵯谷 和郎

【西日本】（3）中国・四国・九州・沖縄・海外

岸本 宏章・工藤千代子・杉野 羅天

昨年九月から今年八月の間に

誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い方を選
 択して応募下さい。

ただし、「路郎賞」には川柳塔欄作品から、「川柳塔
 賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、間
 違いのないようにお願いします。

令和五年 各賞選者

愛染帖賞 新家 完司

檸檬賞 江島谷勝弘 永見 心咲

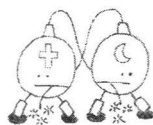
一路賞 内藤 憲彦 平井美智子

各地柳壇賞 高杉 力 中村 恵



(投句 181名)

この夏の初めは雨続き、テレビでは連日のように熱中症対策を報じていましたけど、かと言って水分ばかり摂取するのも中々大変でした。



喉が乾いたと思う時はもう遅いですから、早目早目に水分を取りましょう、と言われてもねえ。

喉が乾いてもいないのにお茶や水をムリやり飲むのも大変でっせ、と一人でぼやくことばかり。まあ、ぼやいている内がいいのかも知れませんが、では、ナビを。

八王子市 川名 洋子
初めましてと素顔出す脱マスク

(評) マスクを外す人がだんだん増えて来ましたネ。マスクを取ったとたん、お互いにアナタ、ダレ？

大阪市 江島谷勝弘
今地球いちばん恐い星だつて

(評) ホント、温暖化で大雨、大雪、そ

の上に戦争まで。もつと穏やかな星へ逃げ出したーい！

香芝市 山下じゅん子
ザ・ピーナッツこそまどり姉妹よき昭和

(評) 昭和という時代を彩った双子の歌姫たち、懐かしいです。今から思えば良き時代でした。

東大阪市 青木ゆきみ
知恵の輪を解くまでそばにいましようか

(評) とつとも優しいお方です。問題が解決するまでそばにいてくれるなんて、心強いですワ。

八幡市 武田 悦寛
名が同じとなりの主人うちの犬

(評) 腹が立った時、大声で呼び捨てにすれば心も晴れる事でしよう。とがめられる筋合いはございません。

神戸市 富永 恭子
半分こして幸せが倍になる

(評) 何ていいお人なのでしょうか。半分こなぞしようものなら、ワタクシなんかチエツと舌打ちしてしましえう。

大阪市 奥村 五月
花道で顔を見せたい馬の足

(評) 馬の足だつて、いや、だからこそここの一番の花道で自己アピールしたいもの。どうぞやっておくんなさいませ。

宝塚市 丸山 孔一
頑張ってみてもせいぜいこんなもの

(評) これはまたご謙遜を。でも、よー

く考えると「せいぜい」というコトバに溢れる自信が見て取れました。

富士見市 中島 通則
角が取れまあるくなつたじとば

(評) アレまあ、角が取れてしまったのですか。確かにカワイイ孫の顔を見ていればこうなつてしまいます。

三田市 多田 雅尚
翔平に聡太も同じヒト科とは

(評) 凄いですねえ、この二人。余りにも俗人からかけ離れすぎて、同じヒト科と考えること自体、恐れ多いです。

松江市 石橋 芳山
単純な男同士でムキになる

笠岡市 藤井 智史
糖質は百パーセント愛でした

大阪市 内田志津子
アスリートライバル心と友情と

貝塚市 石田ひろ子
遠花火急に逢いたい人の居る

広島市 羽城 裕子
白状をしないさい金の隠し場所

寝屋川市 川本 信子
罵って喧嘩をしても無二の友

鳥取市 山下 凱柳
些細な事に火花を散らす嫁姑

明石市 梶谷 和郎
影武者がどちらだったか分からない

塩竈市 木田比呂朗
デュエットもはずみに弾む五類以後

黒石市 北山まみどり
二人三脚さくらんぼには戻れない

大阪市 小野 雅美
反発はよそう笑ってみませんか

弘前市 高瀬 霜石
どちらが強い鞍馬天狗と黒頭巾

河内長野市 中島 一彌
イエスマンばかり抱えて聞く力

松山市 大内せつ子
月とすっぱんなのにおんなじことをする

佐賀県 真島久美子
禁断の実は禁断の形して

和歌山市 まつもととし
節約は自家発電の一步から

米子市 後藤 宏之
ギャラの配分コンビ解散の危機

橿原市 居谷真理子
ウオノメは右靴ずれは左足

大阪市 平井美智子
キムタクに似ている方が彼氏です

倉吉市 牧野 芳光
大屋根のソーラーパネル反抗期

箕面市 出口セツ子
増税の我慢爆発寸前だ

東大阪市 青木 隆一
無精者充電だけは怠らず

松山市 郷田 みや
二人なら続けそうですジム通い

生駒市 飛水ふりこ
探し物テレバシーにてすぐキャッチ

松山市 栗田 忠士
痛ければ痛いと言つていいんだよ

大阪市 石橋 直子
花火果て闇にもどった時の寂

豊橋市 西郷紀美代
親だつて間違えている双生児

郡山市 安藤 敏彦
お互いに弱みを握り平和だね

尾道市 村上 和子
コロナ明け月までちよいとミニ旅行

熊本市 杉野 羅天
青い目の戦争中国がニヤリ

唐津市 前田 廣幸
世が世なら今日は手渡し給料日

鳥取市 福西 茶子
息吸つて吐いてやっぱり合わないネ

大阪市 森田 遊子
パズル解く記号で立っている蔵

朝霞市 前田 洋子
爆弾を花火に変えて終戦だ

大山市 金子美千代
夏や夏アバンチュールへ駆り立てる

羽曳野市 徳山みつこ
非常袋の点検は怠らず

大阪市 田中ゆみ子
長い長いトンネル腹が減つてきた

豊中市 水野 黒兎
卒寿へとそろそろ電池替えようか

藤井寺市 鴨谷瑠美子
ポシエットで運ばれてくる丸い声

和歌山市 定松 宏枝
ウォーキング誉めてあげたい土踏ます

松山市 柳田かおる
はしやぎ過ぎ後で淋しさどつとくる

河内長野市 森田 旅人
スリル無い人生よりも火を選ぶ

津山市 高橋由紀女
ヨーヨー釣り遠く聞こえる祭り笛

黒石市 石澤はる子
ルーツ辿れば先祖は同じ宇宙人

枚方市 藤田 武人
娘が巣立ち昼行灯と暮らす日々

河内長野市 木見谷孝代
イレギュラー互いのせいにして採める

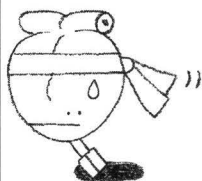
上尾市 中村 伸子
運命は共同体と言うよねえ

池田市 太田 省三
飼主のしつけ届かぬドッグラン

高砂市 裕木 るい
嫌われる勇気があつて長寿です

豊中市 上出 修
長嶋はひまわり野村月見草

10月号発表 (8月15日締切)



(平本 露石人 画)
柳箋に2句

『麻生路郎読本』余滴 (77)

「雪」 ⑥

楽原道夫

「雪」4号は、大正4年11月1日発行。通しの頁で33〜52頁。伊藤観魚が、表紙に「蹴鞠」、39頁に「帝劇にて」、43頁に「無題」、小穴隆一が37頁に「道祖神」、裏表紙(52頁)に「山羊見てる百姓」の挿画を描いている。「帝劇にて」「山羊見てる百姓」を適當なところに入れておく。

34、35頁に路郎作品が掲載されている。「浪花座を出て」3句より

くろぐろとうき川竹の水ながる
前茶屋の間からみゆる水ゆらくと傳し

「朝鮮土産」15句より

朝鮮の話もなくて土産くれけり
算盤の響夜氣は重く沈めり
下り坂を哀れ深うみし別れかな
手がすいていつそさびしい日曜日
一人かへり二人かへり事務室に灯がともり

「襦袢干すよろこび」8句より

雨雲のゆきかひ續けさまに咳き
襦袢干すよろこびに太陽は照り給へり
蒼空を海とみてこころ慰まん
口數もさかずペンの重荷を果す日かな

36頁に日車作品が掲載されている。

「北憂」16句より

月見草ひとり高原の花となり
灯のある方へ寄るは今、虫とわれ
藥屋の看板赫つと日を受けて
馴れ初めのやうな心で宿にゐる
温泉の町の本の表紙もうら淋し
桑の葉に生の光を見る山路

38頁に馬場緑天と喜多村緑天の作品も「新短歌」として掲載されている。緑天は「傘」の柳人。緑郎は新派の女形俳優。

緑天「煙」7句より

充分に眠れぬひまなからだなり
黙つてる男へ濱の月が照り
緑郎「燃ゆる瞳」6句より

菊が咲いてこんがらかつた心持
泣て來たその翌朝の雁來紅
頬杖に水と雲と見馴る、

40、41頁に日車の落語と称する「十二圓十四錢」が掲載されている。

42頁に宮林董哉の俳句が掲載されている。

「秋風篇」8句より

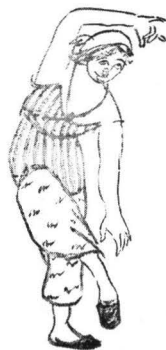
曼珠沙華赤し三人の子のあたま
二階から女人が招く曼珠沙華
44〜47頁に、「雪俳壇大阪同人近作 游魚採録」として、20名の作品が各4句ずつ採録されている。数句挙げておく。

踵重きまで銚うてり秋の風 蜀 洞
秋の草に久々の女と蹲る 晴 吉

秋草のしづまなる中のレール哉ゆづる
橋の灯の水溜にとゞかぬ夜寒 雨水
48〜50頁の「消息」に、春沙が「日車兄」

と題して、前号の日車の春沙評に対して弁明している。次に、路郎の「未來のない碧梧桐氏」を載せている。これは、神戸にお

帝劇之
演



ける碧梧桐歎迎句会での碧梧桐の俳話について述べたものである。

未来のない碧梧桐氏（路郎）

生きながら俳誌を飾る人に鳴雪翁があり虚子氏がある。河東碧梧桐氏は未だ餘命を海紅に繋いで更に第二の新傾向に生きるべき人と聞いてゐたが過ぐる日の俳話によつて大いに期待にそむくことを知つた。

碧梧桐氏は俳句には一種の俳道徳となづける規約がある。この規約即ち俳道徳といふのは子規が作つたもので、これからこれ丈が俳句で、これから外へ出れば俳句ではないといふ繩張りを意味するものであると説き、こゝらが子規の偉いところで其俳道徳内で面白可笑しく暮らしてゐた。ところが生意氣千萬にも此俳道徳にいつとはなしに自分等は嫌になつた。更にもつと俳句には行くべき道があるやうに思へた。それで先づその行くべき或る方面へ出るにはどうしても現在の俳道徳を打破せねばならない。新らしく建設するには現行の俳道徳の破壊（筆者註「壊」は「壞」の誤植）が第一急務と心得て極力それが絶滅につとめた。

その結果はどうなつたか。各人は行くべき道に迷つたのであつた。迷つた末は各自自己の頭に信頼して思ひ／＼の方向を指して走つたのである。それが原因となつて俳句に幾多の邪道を生んだ。*「土」や「阿蘭陀渡」や「白川及新市街」はまさにそれである。俳道徳を破りさへすれば自然と新らしく或るものが得られると考へたのは自分等の大早計であつたことを後悔してゐる。よく自分は目下の俳句の傾向はといふ随分大まかな質問をうけるがこれ等の人々は矢張り従來の俳道徳に養はれた人が多い。現在の俳壇は到底一括してはいへない程混沌たる状態にある。今後一つの新しい俳道徳の元に統一された時に始めて俳句がみるべきものにならうと論じて局を結んだ。

自分は碧梧桐氏がこの俳話によつて俳壇の統一を夢みてゐるのを甚だ氣の毒に思ふ一人である。離れゆく人々がますます離れ去つたに過ぎないからである。未だ一縷の望みをつないでゐた人々さへも離れ去らしたからである。茲にいたつて自分は既に碧梧桐氏に未来のないことを知つたので深く追及して其の愚を責めない。かくして俳壇の時代錯誤はいよ／＼ますます擴大して

行くのであらう。

*「土」は、鹽谷鵜平が大正2年に発刊。「阿蘭陀渡」は、川西和露が大正3（？）年に発刊。「白川及新市街」は、兼崎地橙孫（二八九〇—一九五七）が大正2年に発刊。3人とも碧梧桐門。文章に続いて、当日の句会吟を採録している。6句挙げておく。

秋風と笛の音とはだ／＼に及ぶ 游 魚
船で歸りしさまにひろげて秋の風 鬼 史
蜻蛉眼をさへぎれり道を曲る 路 郎
一面の蜻蛉に塔を下り立ちぬ 魔 子
秋風を柔かう握らされてあり 浮沈子
秋風の矢尻を埋めるなり 和 露

山手よりまき



（次回に続く）



「旅人」と「麻生路郎読本」

麻生路郎の句集「旅人」は、ちょうど70年前の一九五三年に発行されています。私は現物を持っていませんが、幸いにも「川柳塔誌電子化事業」によって電子化されていますので、それを読んでこの項目を記しています。

まず表紙の「Tabilio」というローマ字による横書きの題字に驚かされました。70年後の現在でもユニークでしょう。そして序文に路郎の想いが込められています。

自序

エスペラントのために一生を捧げたザメンホフは偉らかった。ロシア文学の英訳に一生を捧げたマガレット夫人は偉らかった。くそ虫の研究に一生を捧げたアンリー・ファブルは偉らかった何れも自分の夢を実現させた人達である。

そして川柳に一生を捧げた私は？私は云うべき言葉を知らない。川柳の社会科運動と 一冊のこの句集。

私にも多くの夢がある。私の一生はまだピリオドを打たれていない。せめてそれを力ぐさに、歩き続けよう。

一九五三年十一月三日

麻生路郎識

(送り仮名は原文のまま。段落は変更)

麻生路郎は一八八八年七月広島県尾道市で生まれていますので、「旅人」は65歳になる年に編まれたことになります。

二階を降りてどこへ行く身ぞ

見渡すとユダのころをみんな持ち

天井にいつまでおさへられて生き

往来で夢を見てゐる男にて

大臣になれぬことだけわかったり

お元日坐るところへ坐らされ

戯れに死ねばころやすからん

右、第一章「人生の雑音」の最初に掲載されている10句から7句を抄出しました。分かち書きの句は一行にしています。いずれも難解ではなく、現代川柳のテーマの一つ「今の自分の姿、今の自分の想い」を詠っていて納得させられます。

また、「川柳雑誌」「川柳塔」通巻一〇〇〇号記念出版による「麻生路郎読本」(二〇一〇年・楽原道夫編集)には「旅人」と「旅人」その後の作品「麻生路郎文集」「麻生路郎語録」等を収録。加えて、東野大八氏の筆による「麻生路郎物語」(塔誌572号・602号に掲載)も興味深い写真多数と共に収録されています。(残部少々あり。送料込み三千円)

電子化冊子はパソコンやスマホ等から、どなたでも無料で閲覧できます。方法は、先ず「川柳塔」で検索。サイトトップ中ほどの「川柳塔誌電子化事業」をクリック。下方にある「句集等」の一覧表からご希望の冊子をクリックしてお楽しみください。この「旅人」は「51件中41から50まで表示」にあります。「麻生路郎読本」はこれから電子化致します。

また、同人の皆さまの句集や仲間との合同句集など、電子化のご希望があれば塔社事務所までお送りください。但し、あらかじめ発行元の許可を得るようお願い致します。

本社 七月句会

◇七月六日(木)午後一時
アウイーナ大 阪

梅雨明けも近いかと思わせる日、路郎忌7月句会は、番傘本社から前中知榮さんを選者にお迎えして、128名(うち投句者25名)の参加で開催された。初出席は京都市の下林正夫さん、岡田幸男さん、奈良県の柚木涼子さん。今月のお話は水野黒兎さん。題は「ある酪農家の川柳」。かつての同人、小白金房子さんの酪農家としての生活が生み出した佳句を紹介された。

お正月も夜も牛は待つてくれず、
元旦も昨日につづき乳しほる
難産を気づかう牛舎窓灯り
大切に育てた牛も売られて、
子牛の目明日は他人の手に渡る
牛市の戻りはみな無口
牛のおかげで、
牛の糞秋への期待土づくり

生活の中で生まれた哀感あふれる佳句を一
緒に味わせて頂きました。

月間賞は川端六点さん(藤井寺市)

(眞澄)

(司会)武人・真理子(協取)勝弘・こみつ
(受付)裕之・太子(懸垂幕墨書)耕治
(清記)憲彦・勝弘・国和

席題「座」 上田ひとみ 選

座右の句何てつたつ「俺に似よ」
さりげなくトイレに近い座席へと
独裁者の座には届かぬ民の声
百二歳母の座布団濃紫
真夏でも正座で食事した昭和
君が来るだけで句会が和みまず
歌舞伎座の横を通ってくる句会
昼めしを抜いて名画座に通った
席つめてくださいと目が言っている
スペシャルな旅終え座り込むわが家
達者に育て座敷跳んでる孫三つ
冷蔵庫に祖父が保管の痔の座薬
内緒ごと聞くため猫も来て座る
サソリ座の妻は口から毒を吐く
ここへ座れと彼がしつこいの
目を逸らし黙って席を立ちはった
孫抱かせられずごめんと母の膝
大仏様座ったままで人救う
突然に正座を拒む膝となる
「ふるさと」を座右の銘にしています
ユーモアで固い会議の座が和む

西出 楓楽
斎藤 隆浩
柿花 和夫
緒方美津子
坂上 淳司
山崎 武彦
きとうこみつ
居谷真理子
山田 耕治
藤原 大子
岡田 幸男
水野 黒兎
伊達 郁夫
龜山 常男
中岡千代美
岡田 桂子
小野 雅美
敏森 廣光
江島谷勝弘
川端 一步
水野 黒兎

座標軸少し動かし場を保つ
隅つこの座を取るみんな淋しくて
全体をくまなく見てる下座の目
約束を果たせぬままに通夜の座に
粘り勝ちなんて椅子取りゲームでも
正座した妻に正座で身構える
天辺の座は一瞬のドーピング
じいちゃんの間窓会は車座だ
楽しみがつくの座の真中にいる
ボチボチと希望を連れて仏の座
盛大な宴座持ちのうまい人
暑おすなあと座敷わらしの出す団扇
ずぶずぶと嵌まる座笑い止まらない
妥協点みいだせなくて座が荒れる
座布団をひつくり返し消す他人
座頭になった時から偏頭痛

木嶋 盛隆
小山 紀乃
富永 恭子
柿花 和夫
小山 紀乃
山野 寿之
藤田 武人
柴本ばつは
石橋 芳山
折田あきこ
中井 萌
岡田 幸男
石橋 芳山
奥野健一郎
菱木 誠
内田志津子
木本 朱夏
前中 一晃
榎本 舞夢
島田 明美
西村 哲夫
飛水ふりこ
奥野健一郎

天

座布団の下に夫の顔写真

古今堂蕉子

軸

それなりに意味があります君の席

兼題「千」 富永 恭子 選

千円の単位までなら守備範囲
 千円の送金に要る二百円
 さあ行こう鬼千匹の手を引いて
 継ぎ手なし草ぼうぼうの千枚田
 運命が千に一つの縁盛る
 一円足りなくて千円札で払う
 千円では中途半端な立ち飲み屋
 折ることは折ることかと千羽鶴
 二千円札財布に入れて貰えずに
 年金で日に千円の亭主です
 千円のワイン僕にはピッタンコ
 千メートル泳ぎきつても百カロリ
 千円で七億円を目指します
 政治家にはしい千の手千里の眼
 君がいれば千人力と乗せられる
 千人針あんな時代はもうゴメン
 千本のバラよりわたしにはスミレ
 千切りにするとき爪も削っていた
 千円は返してくれと言にくい
 千円の時給ママチャリ駆けつける

中井 萌
 澤井 敏治
 栃尾 奏子
 川本 信子
 恵利 菊江
 三宅 保州
 東 定生
 廣田 和織
 松岡 篤
 北野 哲男
 内藤 憲彦
 近兼 敦子
 西上 遊二
 大久保眞澄
 大久保眞澄
 川端 一步
 木本 朱夏
 谷口 東風
 江島谷勝弘
 川端 六点

母ちゃんの勲章やねえ千のシワ

千に一つ望みあるなら賭けてみよ

千年の古都をヤングの食べあるき

千円で売ってしまつた自尊心

孫はもう野口英世はよろこばぬ

ウクライナの平和を願う千羽鶴

妖艶に千変万化玉三郎

千円のTシャツ五年まだ着れる

千年後も輝きを増す式部さん

仏さま千日紅が咲きました

針千本女嫌いを貫いて

千里眼老眼鏡を手放せず

千年の絵巻都のコンチキチン

二千万円いつから遣てえんやろ

千の石積んでも消えぬ千の悔い

自販機に二千円札断られ

夏バテに千枚漬けもよろしおす

住

千円の値うち淋しくなりました

千の風母がふわりと抜けてゆく

生き残る千本ノック受けている

千の言葉よりやさしく抱きしめる

千切りにすれば私も味が出る

人

千軍の敵へ一人の友がいる

地

何千回食べても飽きぬ妻の味

銭谷まさひろ

前中 一晃

津守 柳伸

中村 恵

西出 楓葉

斎藤 隆浩

坂上 淳司

中井 萌

平賀 国和

吉道航太郎

前中 知栄

西村 哲夫

川端 六点

敏森 廣光

高杉 力

斎藤 隆浩

飛永ふりこ

住

上田ひとみ

柴田 桂子

石橋 芳山

原田すみ子

川上 大輪

奥澤洋次郎

敏森 廣光

千に一つそれでも夢はだいている

永田 紀恵

軸

過ぎた日の千のドラマを子に語る

兼題「キラキラ」 石橋 芳山 選

天国で光つてないで降りて来い
 納豆をまぜるキラキラ光るまで
 朝の陽がキラキラ歯ブラシが2本
 妻に買ったダイヤもどきのイヤリング
 好奇心キラキラ光る幼い目
 なぜだろうあなたから目がはなせない
 キラキラを嫌うわたしの劣等感
 ひと山で売られる鯛さえ光る
 白足袋のステツプ軽くギヤル御輿
 くもの巣に一番星がおちてくる
 左手の指話夜店で買いました
 誰だろうキラキラ光る向こう岸
 蜚鳥賊キラキラさてと森伊蔵
 模造品だらう指輪がよく光る
 大阪のおばちゃん好きな光り物
 実家売って買ったダイヤがよう光る
 ばあちゃんもミニスカートの頃がある
 ラメ入りの化粧が似合う黒揚羽
 ビバークで宇宙の無限天の川
 感謝して妻へキラキラ2カラット

島田 明美
 川上 大輪
 柴田 桂子
 水野 黒兎
 青木 隆一
 栃尾 奏子
 矢倉 五月
 吉道航太郎
 奥野健一郎
 酒井 紀華
 川上 大輪
 今井万紗子
 西出 楓葉
 平井美智子
 坂上 淳司
 きとうこみつ
 吉道あかね
 木嶋 盛隆
 柴本ばつは
 内藤 憲彦

キラキラと綺麗な指にある秘密
ばあさんの耳でリングが揺れている
満天のメルヘン仰ぐ星銀河

山崎 武彦
奥澤洋次郎
山野 寿之

何か変急にキラキラ夫の眼

中井 萌

電飾が街をシャングリラに変える

酒井 紀華

キラキラが好きでひらひらが好きで

小島 蘭幸

キラキラと知らない街の大通り

鴨谷瑠美子

キラキラと輝いているボランティア

東 定生

朝日キラキラ今日は布団が干せそう

川端 六点

相愛の星キラキラと天の川

澤井 敏治

人湧いてキラキラ光り出した街

澤井 敏治

キラキラのおひとりさまはみな女性

片岡 加代

一步一步木漏れ日を踏む夏登山

石田 孝純

元祖ですキラキラネーム宝塚

今村 和男

魯山人の皿に盛られし握り飯

緒方美津子

わたくしの良からぬものが光り出す

平井美智子

キラキラの向こうを張って名は与作

谷口 東風

住

キラキラネーム中味あんまり光らない

山田 耕治

意地悪い彼女にもある天使の輪

居谷真理子

ありがた味なさそうキラキラの仏

荻野 浩子

光源氏昔も今も恋は風

古今堂焦子

うなずいてやるとキラキラする瞳

菱木 誠

人

オキナワをキラキラ食べる海ぶどう

森中恵美子

地

五十年前オレだつて光つてた

江島谷勝弘

天

太陽を味方に無敵白ビキニ

栃尾 奏子

軸

キラキラの野望に明日登る岩肌

兼題「するい」

新家 完司 選

コ罗纳中ブチ整形し差をつけた
金があるときには好きと言つただろ
一円も残さず使い切る役所

外交は理路整然と狡を言う

三宅 保州

黒塗りの懇懇無礼なる文書

水野 黒兎

顔ぶれを見てから多数決にする

菱木 誠

学校が苛め見ぬ振り聞かぬふり

川上 大輪

身を潜めヘイトスピーチする輩

山野 寿之

嘘泣きの妹ボクが叱られる

坂上 淳司

町内会さつさと楽な役をとる

饗庭 風鈴

介護などせずにちゃっかり遺産分け

森 菊江

手伝わす酒の席だけ参加する

荻野 浩子

割り勘と知ってピッチを上げるやつ

西村 哲夫

遅れて来て三杯飲んですぐドロン

柿花 和夫

勘定の前に脱兎のごとく去る

澤井 敏治

あとひとつ残ったおかず先に取る

銭谷まさひろ

安売りの玉子売場にひと家族

福島 リカ

惜しい気もあつて返してない釣書

下林 正夫

借りるだけ借りてつまりは自己破産

川端 六点

女には分かる嘘泣きだとわかる

中村 恵

半額の値札見せない妻の知恵

穂山 常男

ずるいのでも遅いかもコバンザメ

穂山 常男

ずるい嫁菓子と焼酎下げてくる

初代 正彦

分け前を山分けせずに一人占め

木嶋 盛隆

味よりもインスタ映えという料理

中村 恵

追い込まれたらすぐに入院金パッジ

斎藤 隆浩

逃げ隠れしない 入院すると言う

吉道航太郎

割り込みと気づかれぬよう席座る

青木ゆきみ

父ちゃんはずるいひとりで酔つ払い

平松かすみ

妹は三秒で泣きすぐ笑う

島田 明美

デパ地下で家庭の味を買って来る

吉道あかね

詳細はネット検索でと躲す

柴田 桂子

隠れん坊探さず家へ帰る鬼

藤田 武人

手を合わせごめんですますずるい夫

鴨谷瑠美子

ゴキブリホイホイ人間は狡いよ

居谷真理子

いくら待っても無料にならぬハイウェイ

桃谷 和郎

美人には大きい方のチョコバナナ

富永 恭子

「賢い」と「ずる賢い」の微妙な差

鈴木いさお

住

父の日のお菓子も全部食べる妻

折田あきこ

ミスは僕手柄は妻という仕組み

森松まつお

父さんは不潔母さんはズルイ

中岡千代美

ずるい国どうしが握手しています

平松かすみ

もうあかん言うてる母がよく食べる

内藤 憲彦

人

すき焼きの肉を九割食べる妻

折田あきこ

地

お先にもう仏壇の中に居る

山田 耕治

天

赤ちゃんの時の写真を持ち歩く

上田ひとみ

軸

手先は刑務所 元締め閣の中

兼題「日本」

前中

知栄 選

日本に生まれほんまに良かったわ

山下じゅん子

箸使い敬語あやつる国である

青木ゆきみ

砂文字をさらっていった日本海

藤田 雪菜

水無月の女の肌の美しさ

居谷真理子

Z世代の君は君が代歌えるか

柴田 桂子

日本は平和ですなあデモもなく

前中 一晃

丸腰の日本の明日が世知辛い

中井 萌

ショウヘイが居るから日本頑張れる

内藤 憲彦

バスポートやと気が付くいい日本

伊達 郁夫

日本の治安を弁当に包む

石橋 芳山

ブーチンが密かに開く日本地図

山崎 武彦

村中が参加しましたお餅まき

平松かすみ

NIPPONは金持ちらしい援助金

森田 旅人

水茄子に茶粥日本の夏や好し

木本 朱夏

骨太の日本の軽い骨密度

廣田 和織

お笑いがこだまする空日本晴れ

奥水 弘

横並びすれば安堵の日本人

藤田 武人

デジタル化進み日本語病んでゆく

西出 楓葉

地

白浜のパンダは日本語で喋る

川上 大輪

天

睡眠もはずも日本の水にあう

森中恵美子

軸

ことさらに日本酒愛でる朱の鳥居

兼題「自由吟」

小島

蘭幸 選

路郎師はことし百三十五歳

鈴木いさお

タイガースも僕も味わう好不調

松岡 篤

喧嘩する元気がなくて仲が良い

今村 和男

強敵は囁いてくる影の声

東 定生

喜怒哀楽哀の部分は語れない

山本加お里

学生が下車し冷房効いてくる

川本 信子

大谷の兜の里が夫の里

柚木 涼子

夏の朝だけ元気わたしと朝顔

原田すみ子

すぐ忘れ再放送にまた見入る

奥野健一郎

動画観て夜は四品作る主夫

谷口 東風

ささやかな幸せで良い蟻で良い

出口セツ子

若かった頃を忘れてる鏡

酒井 紀華

終着駅に甘い言葉置いておく

矢倉 五月

夏の風乙女の乳房丸くなる

伊達 郁夫

考える葦に焼酎など如何

伊達 郁夫

痒いとこソフトに衝いてくる電話

初代 正彦

手が出せぬ高さに枇杷の実はたわわ

富永 恭子

コロナ明け少しのんびりいたします

内藤 憲彦

傘傘川柳本社創立 115 年記念 全国川柳大会

日 時 11月4日(土) 10時30分開場

出句締切 12時(席題なし)

場 所 TKPガーデンシティ

大阪リバーサイドホテル

JR桜宮駅 東口徒歩 5分

電話 06-6928-3251

事前投句 (1句)「まっすぐ」田中 新一 謝選
所定用紙に記入して 10月5日(木) 必着

宿 題 (各題 1句)

「賑わう」	安藤 紀楽 選
「描 く」	天根 夢草 選
「夢 中」	矢沢 和女 選
「予 感」	赤井 花城 選
「弾 む」	小島 蘭幸 選
「キラリ」	森中恵美子 選

*事前投句、宿題とも欠席投句拝辞

会 費 5,000 円 軽食

類題別 傘傘川柳一万句集第四集

懇親宴 10,000 円 (要予約)

問合せ先 傘傘川柳本社

電話 06-6361-2455

主 催 傘傘川柳本社

グリーンピース創立 10 周年記念大会

(状況によっては、誌上大会になります)

日 時 10月14日(土) 9時~16時30分

(開場 9時30分・出句締切 10時30分)

会 場 出雲市駅前・パルメイト出雲 4階

参加費 2,500 円 (大会誌・弁当含む)

講 演 『川柳理論と実践』 新家完司氏

川柳作句法 (質問に答えます)

兼題と選者 (各題 2句)

「あやふや」	新家 完司 選
「時 間」	赤松 ますみ 選
「ト ン ボ」	渡辺 遊石 選
「恋」	永見 心咲 選
「条 件」	竹治 ちかし 選
「楽 天 家」	長谷川博子 選

事前投句 (1句)

「イメージ吟」 斉尾く にこ 選

投句要領 規定用紙 (コピー可)

投句料 1,000 円 (現金書留・小為替(切手不可))

投句締切 9月30日(土) 消印有効

投句先 〒693-0042

出雲市外園町 349 熱田熊四郎 宛

電話・FAX 0853-28-0023

追い越していいよゆっくりの私
時刻表ちょっと寄り道しませんが
これからは好みに生きるとソロキャン
出会わなければ良かった人はいない
立ち読みをやめて話題の本を買う
何もかもスマホで済ますのが良いの
合掌していただく玉子かけご飯
虹が出ました写真メールで送ります
僕達の秘密の基地は地図にない
男をしのぶ戦を偲ぶ八月忌
猿の助もし嫁はんが居てたなら

宇都満知子
木本 朱夏
木嶋 盛隆
立蔵 信子
小山 紀乃
坂 裕之
柿花 和夫
平井美智子
野口 龍
森中恵美子
新早 義明

飯の世ではないぞちゃんと生きている
使うこと無いが偽名は決めている
万緑の森へ右半身入れる
初夏の風カラコロ下駄でポストまで
元氣だと自分に嘘をついている
階段も今のボクには天城越え
ソーメンに灯りを点すブチトマト
クーラーをお入れしますね仏さま
佳

大久保眞澄
青木 隆一
石橋 芳山
水野 黒兎
中村 恵
斎藤 隆浩
吉道航太郎
吉道航太郎
居谷真理子
平井美智子

高いメロンは仏壇に安置する
椅子のある書店で思春期にもどる
チエバとジャンヌダルクとゲリラ雨
何もできなくて静かに側に居る
地 人
白椿歳を重ねて白く咲く
天
暑中見舞い点字覚えてくれたんだ
川端 六六

大久保眞澄
片岡 加代
石橋 芳山
宇都満知子
森中恵美子



毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。

編集部

川柳塔みちのく(青森稲見則彦 報

美のあこがれ一生あこがれて終るかな
眉目秀麗私のことと思つて
校庭のラインは真白あす本番
美男美女我が家系には無縁でしょう
誉められた綺麗な肺だレントゲン
美しい宝石なぜか似合わない
四季折りの花が咲いてる無人駅
ラブレターやはり美文で欲しいもの
楽しみは美味い地酒を探す旅
できるなら美女に座って欲しい椅子
たっぷり美しい嘘つくナース
縄文に深い祈りの人間美
満開の桜の下を美魔女行く
鉄棒を忘れたふりの鬼が出た

澄子 隆樹 ひろ 重虎 一呑 孝子 慕情 則彦 義明 柳子 ひとし 風来坊 初枝 のぶよし

城北川柳会(大阪) 近藤

桃源郷思い描いて住む自由
脱マスクその気にさせる夏の風
すんまへん少し尻が大きくて
さりげない言葉ひとつの夢くれる
極楽にライン基地局出来たとか
桃源郷に行っても僕は粗衣粗食
気が弱く大きな嘘がつけません
蜚舞う水辺幽玄桃源郷
本気度が問われる子への支援策
家族団らん桃源郷はここにある

正報 杵香 郁夫 実 繁子 義明 篤 峰子 福貴子 榮子 一步

負け男行くに行かれぬ甲子園
追伸の二行本気が滲み出る
喝采はいらぬ愚直な土踏まず
大物は浮子をピクピクなどさせず
ゴキブリが本気でこいと駆けまわる
目の前の席空いたのは降りる駅
天下泰平願って泳ぐ鯉のぼり
母の歩に合わせてめぐる花の寺
毎日を軽く生きてて恥ずかしい
見送りの発車が遅く間が悪い
慰めの言葉はいらん注いでくれ
泣き顔が少し微笑む豆ごはん

満知子 章 宏造 野鶴 千賀 かずお 博 志華子 信子 ルイ子 黒兎 和夫 恭子

返納は75イヤ80歳
飯免で赤信号を見落として
まだまだがいっぱい眠る本の山
運転して切られた切符何回か
わたくしにどんな老後が待ってるか
コロナより怖い加齢と対峙する
春爛漫いのち奏でている大地
門番は美人だべがな黄泉の国
一日を楽しく生きるのも努め
ザル二枚ベース崩さぬ十二才
一向に減らぬ口紅燃えるゴミ
またひとつ大人になれず歳をとり
ジャンケンポン後出しだつて勝ち
は勝ち

英子 友二 真由美 久美子 龍馬 ふさゑ 脇 霜石 洋子 和香子 美鈴 規子 吹喜

霞立ち天女三人見え隠れ
桃源郷心を持った者が勝ち
居酒屋で朝の本気を又忘れ
失ったものを数えて老いていく
差しつ差されつ桃源郷の一丁目
いいもんだ嬉しい時に出る涙
我が夢を孫に託すが将棋だめ
大口で笑えて泣けて良い日です
大阪城買うたるでかいホラ
言葉より本気語っていた瞳
命生む母性本気の汗ひかる
酒一合一合ごとの桃源郷
雨上る鳥も私も忙しい

隆一 ゆきみ 捷二 和織 隆浩 廣光 正彦 千恵子 克己 賢子 朝子 俊雄 満知子

富柳会(大阪富田林)山野 寿之報

和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報

安福和夫選

曖昧語まぜてやんわりお断り

和子

マスク越し会話がはずむ花見客

敏照

偏差値が足りず極楽ことわられ

実

逃げ道を塞いでやんわり迫られる

壽峰

振る舞いの酒に酔うて花の下

昭枝

向こうから見れば私が檻の中

正博

木漏れ日の影幻想の終日

かこ

敏捷に子猫反応好奇心

まき

移る世の浮草になり根は昭和

静恵

笑つてるカタチに欠けた爪を切る

一文

外国の猫も日本でニャーと鳴く

宏枝

逢いに行く軌には羽がついている

喜美子

自我捨てた心やんわりやわらかい

由夏

実をつけぬ桜は花で勝負する

一雄

返納をいやがる父の横に乗る

廣光

泣かないで貴女の笑顔好きだから

武人

マスク取り春の香りに酔う花見

起世子

一度だけ下見をしたい天国を

雅美

屁理屈が新語で領いてしまう

高鷲

校門の桜新人生ひとりと

和子

便箋とペンにこだわるアナログ派

盛夫

長年の遺恨解消した白夜

由子

校門の桜新人生ひとりと

ひろ子

段々畑インスタ映えて過疎救う

敏美

やんわりと効いております嫁の針

正信

価値観の違い昭和も遠くなる

純子

百歳で輝く女腹八分

敏美

まだあるよ少ない髪と好奇心

涼子

飾るもの捨てて枕を高くする

保州

佳句地十選 (7月号から)

柳子選

ビールには柚子味噌かけて冷奴

章子

社長夫人の名刺を猫につけている

悦男

優しいが時に厳しい介護職

柳子

旧知の友打てば響くの気持ちよさ

欣之

車中からヘルパー付きの花見する

和美

偏差値が足りず極楽ことわられ

実

輝きは研修生の目の光

きよみ

夫より猫の食事に気を遣う

彦弘

無印になつて気軽に物が言え

克己

チラシに丸スーパ―梯子あしんど

常男

天国から来たのかも知れぬ猫とい

康則

悪人は独りもないぜ口蔵児

宏章

溜息をいっぱい詰めて出す手紙

勝矢

花見して平和な国に感謝する

あき子

少しだけずらせば見える裏表

和子

太陽は輝く炎野心消す

あかり

車椅子押す手に感謝して花見

よしこ

もたつくも結果よければすべてよし

勝弘

ていねいに生きて豊かになる心

きみ子

何軒も別荘のあるうちの猫

義泰

心ひらいてたまにほっこりしませんが

理恵

夜がしらむ母を見守る花棺

きよみ

花見してしばし忘れる物価高

知香

コロナ五類マスク忘れもまあいいか

洋次郎

素顔でハグ最初で最後読む答辞

義明

桜子と名付け親には感謝する

眞智子

虫一匹殺さぬ顔で人を食う

芳光

家族よりスマホの画面優先し

和雪

暖かくなれば満開桜呼ぶ

准一

ネコ駅長カメラになれてポーズする

俊介

桜咲く頃にはきつと会えるはず

漱石の猫に名前をつけたがる

散っていく姿も美しい桜

はなびらを白杖の手に置いてくれ

桜咲いたと親にメールの苦学生

夜桜に永遠の愛誓わされ

シルバーカーに助けられ行く花の道

散り始め花びら踏んでハイキング(松)

飛び跳ねるこの能力は金メダル

リハビリで猫の背中を真似てみる

猫の手も借りたいみかん収穫期

倦怠期猫を介してする会話

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西

茶子報

真面目過ぎギャグの一つも浮かばない

冗談の好きな私は駄目ですか

冗談で贈ったバラが効いてきた

労って育てた野菜根切り虫

母工夫野菜嫌いを好きにさせ

青虫の遊び場になる野菜の葉

若い時飛べた川だが落ちドボン

ストレスはドボンと川に投げ捨てる

プーチンがドボンする日待つ世界

自信作なぜかドボンと没の海

透明な心何処かに置き忘れ

八重子

明子

さやか

孝雄

智子

豊

美智子

純子

康至

敬子

満喜子

千鶴

透明性問うと議員は皆アウト

透き通る青空ミサイル飛ぶ空も

サンドイッチこれ以上口開かない

今日も良い日だトーストもキツネ色

戦時中コッペパンかじり生きのびた

僕なりの僕でアンパンマンになる

もちもちのパンのようだとからかわれ

ロシアよりパンと弾けた地球丸

墓参り亡母とアンパン半分こ

ダイヤ婚どっちがドボンだったのか

孔美子

竹原川柳会(広島)

しんびんのタオルふわふわきもちいい

散髪屋温いタオルが眠くする

春の雨タオル一枚あればいい

バスタオルに包んだ天使だったころ

産声へ未来を託すバスタオル

なるようになると今は風任せ

しゃぼん玉風となかよくして飛んだ

お帰りと里のサクラとそよぐ風

あれからずっと風を待ってる蒲公英よ

風紋を踏んで砂丘の奥へ行く

G7いい風が吹けウクライナ

心地よい風を味方にする散歩

紫陽

弘子

蟹郎

友真

重忠

小鹿

かおる

静恵

茶子

孔美子

古田比呂子報

沙弥

日出夫

笑子

蘭幸

慶子

歩美

比呂子

栄香

千代美

京子

白狐

節夫

懐の深い師匠とどこまでも

九十歳師の一言を口癖に

今は亡き師匠に捧ぐ感謝かな

筆運びリズムを思い師を想い

生き方は母を師としてたおやかに

始まりは静水師宅長火鉢

いくらでも増やせる手品師の財布

師の影を辿る八十路はまだ未完

八十歳こころの栓を抜きました

夕やけの海へ迷いは消えていた

杖捨てて桜の下を駆ける夢

静かさと連休明けの我が家かな

思春期に届け五時起きお弁当

ちんあなごてんてんもようすてきだね

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにこ報

茄子きゅうり夕餉笑顔でおいしいな

暑い夏耐えてくれよとトマト植え

炎天の畑のとまとまるかじり

さらさらと流れる小川に山椒魚

さらさらと思った事が口に出ず

さらさらと流れ流れて石仏

土下座する気などさらさらありません

意地っ張り人の前では叫ばない

夢香

節生

宣之

弘子

和子

輝恵

昭紀

敬子

厚子

貞子

幸子

初音

史子

央

久米代

紀美恵

富隆

重忠

貴恵

石花菜

三津子

義人

ミサイルで飯は食えぬと叫ぶ民
婆さんや叫ばなくても聞こえるよ

反対と叫ぶと国家反逆罪

ありがとう山ほど叫びさようなら

命をかけて叫ぶこの世の底の底

活気付く浜を荷台に乗せている

浜の波よせ引きはだし童心に

肩の力抜けと浜風類なでる

ねばりっこらつきよういつもお世話さま

面よりも足裏薄く浜熱い

一等賞になりたく夜の浜走る

ばあちゃんが命吹き込む浜緋

戦車など来ない浜辺で潮干狩り

浜から叫ぶ声海が飲み込んだ

襲名はHOKUTO砂丘と月面と

長柳 会(大阪)

大島ともこ報

我が息子度胸一番俺似だな

父の日と違い母の日華やかだ

じたばたとしても何れは行くあの世

心読み過不足のないいい介護

赤とんぼ南の空へ一機二機

朝一番活力もらう水ゴクリ

地図広げ印するだけ自肅旅

手の内に裁ききれない隠し玉

清

節子

紀の治

美知江

芳光

宣子

悦子

龍枝

紀子

滋

貴子

重利

完司

照彦

くにこ

ともこ

登美子

幸子

孝代

正博

澄子

孝

和子

和子

うどんそば長いめん類何故か好き

連勝がどこまで続く聡太棋士

子らが消え日の丸が消え進む過疎

許してねコロナも恋も変異する

手の内を読んで読まれて共白髪

おもてなしはもみじ饅頭G7

捕えたが始末できず飼うネズミ

誤解だが東大出だと言われてる

タイガース連戦連勝虎ファン

百葉の長と信じてきた誤解

又同じコピペを読んでる総理

亡き友の思い出語る忍ぶ会

揉め事も母の一声さすがです

あと少しじたばたしたい卒寿前

初めての老いヘジタバタ医者通い

手の内の幸逃げぬようグーが好き

ふうもん吟社(鳥取)

山下

善人でいたいかばちを飲み込んで

かばちにも少しの本音わかるかな

Gサミットかばちも時に天を伐る

かばちなど吐いても黒は黒である

(かばちⅡ因幡方言で屁理屈のこと)

核兵器溶かす薬が見つからぬ

ミサイルが奪った子らの明日の夢

克己

規之

直樹

福子

光弘

おくみ

くにお

純風

たけし

隆彦

淳司

隆明

ヒロ

由夏

正美

ふみ

凱柳報

まさと

頼太

一平

無限

無

無

無

無

ほろほろと酔うて浮世の憂さ流す

欲ひとつ捨てれば核はタダのゴミ

おいてゆく寂しさ消えてゆく記憶

人間の匂いの消える雨のなか

極楽へ落ちる命の砂時計

つまずいたおかげで見えた青い空

笹餅に愛情包むお母さん

句づくりにまよってしない食べ忘れ

大食い知らず招いてから慌て

知識とは噛まずに食べるものらしい

食べて寝るそれだけなのに疲労感

食べることできて本能甦る

食べるのが好きだからまだ生きられる

謝罪会見代理人では軽すぎる

代理でも肩書つけば偉い人

サミットは代理が効かぬ顔揃え

父さんがママの代理をするらしい

さよならの手紙代筆まかせられ

代理は代理やはりこの椅子落ち着かぬ

亡き母の代理脱皮のド根性

誠実さ大理なんて言わせない

オイだけで事が足りてるお茶が来る

お茶時間妻の大声となり部屋

お茶濁す事が上手だうちの妻

茶化されて本気になった恋もある

紫陽

賢悟

みゆき

舞

欣之

美知江

(門)千代

大

秋月

希林子

真理子

回春子

鐘旭

ミツコ

菊江

金祥

昌鼓

八千代

龍枝

由紀女

蛙鳴

茶人

勝

亨

重忠

下戸の意地お茶を濁して消える技
ウーロン茶で酔った振りする芸達者
許すとは言わず黙ってお茶を出す
夫婦茶碗歴史を刻む半世紀

南大阪川柳会 松岡 篤報

悪い癖口軽いのが玉に瑕
致命傷になってしまった軽い嘘
さっそうと足取り軽く趣味の道
軽口を本気にされて仲たが
この道と決めて心が軽くなる
闇バイト軽い気持ちで重い罪
昨日より脳みそ軽くなっている
広島折鶴軽く羽ばたけぬ
余力あるうちに中締め幹事
満腹にまだ別腹という余力
引退の美学余力のあるうちに
痩せ子犬うろうろうちで飼うことに
デザートの余力残してご馳走さん
余力ない後は女の底力
充分に夕食食べる明日のため
A Iで人が余ればどうします
余力などないが肩なら貸してやる
余力まだあると思えば腰ギクリ
ピッチャーの打てるなら打て吼えて投げ

峰明 宏章 拓治 凱柳 勝弘 昌紀 加お里 弘子 国和 三智 和織 まゆみ 敏治 いさお 克己 シマ子 蟻日路 千鶴子 ルイ子 一步 ダン吉 楓楽 直子

番犬を吼えないように飼っている
居酒屋の隅で吼えてる評論家
ヒロシマが無言で叫ぶ核廃止
弱い人選んで吼えるクレーマー
鉛筆で吼える戦争の不条理
すぐ吼えるそしてみんなに嫌われる

柳右子 常男 江実 満知子 峰子 篤子 蕉子 大子 柳伸 俊雄 双葉 志華子 亜成 東風 力

独裁吼え続けんと身がヤバイ
青春の胸は吼えたい事ばかり
うろうろと横道それて知る世間
戎橋うろうろすれば気が晴れる
裏通り行けばわが街小さな旅
徘徊と呼ぶな行き先ちゃんとする
土踏める朝は元気のバロメーター
猜疑心かき消すように顔洗う
連休に納税通知書だけ届く
核の傘そんな平和を信じない

今年また季節味わう筈を
久々の薬師寺めぐりリフレッシェ
沸点を越えた意見に水を差す
健脚の友を見習うウォーキング
あいまいな戦術核が歩き出す
手も足も出ない貴方は神様か
金魚死ぬ死因急性心不全
新緑が過ぎ梅雨を迎えて田植どき
日々老いていくのがわかる重い足
素直になり差し出した手にすがってる

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

救おうよブルーリボンが泣いている
ごめんねのメールに返すこちらこそ
生年月日事あることに追いつめる
躓いたあれが老化の始まりか
A Iがニュース読み上げとちらない
のどかです五月晴れです城山へ
雨の日は話す相手は妻とタマ

令位子 紀の治 千代 宣子 美緒 菜々 久直

前向きな鎌に大地が救われる
家を出て寮の生活天国だ
暮らしたい倉吉に住み愚痴ばかり
古ぼけた家で小さく住んでいる
東郷の二十世紀梨超うまい
店頭で果物旬を狂わせる
鉢底に蜥蜴陣取る冬の宿
息子たちマンション暮らし土知らず
これがまあ終の棲家かケアハウス
果物のデザートが出るケアハウス
見かけなくなったバナナの叩き売り
土作り励んだ畑も他人の手に
早乙女で歌が弾んだあの昭和

倉吉川柳会(鳥取) 大羽 雄大報

瑞枝 美穂 恵子 治代 俊久 ひろし 雨奇 宏之 日枝子 多美子 麦青 道春 由紀子 完司 醉芙蓉 照彦 龍枝 紀美恵 鬼一 重忠 風露 智恵子 日出子

ご近所からまるまる一個パイナップル
鎌に鉄ペンに持ち替え指を折る
夕焼けにご苦労さんと鎌洗う

けいこ
凱柳
雄大

川柳塔まつえ吟社(島根)清水美智子報

待ち呆けほおづえついたカメレオン
リハビリの誤嚥防止にギャル言葉
素っぱだかアルキメデスはとがめなし
山坂は修業奥歯が痛みだす
坂道が重いと吠えるふくらはぎ
坂道を下りた理由は明かせない
梅雨空に幽閉されている時間
老いた二人だからわかるタイムラグ
チックタックと余命時間を刻んでる
24時フルに使ってバタンキュー
最後の最後素性を見せたかぐや姫

塩子
徳利
アントン
とも子
芳山
知恵子
美智子
青帆
豊仙
ビル
弘充

はびきの市民川柳会(大阪)藤原 大子報

よう雨が降るのになんで水無月や
六月は強歩を鈍に変えてみる
水無月は祝日もなく田植時
六月の恋消えそうな涙雨
今やもうジューンブライドなき令和
七変化恋に捨てられとめどなし
お祝いの袱紗に紫が匂う

いさお
フジ
ひとみ
瑠美子
冬のト
専平
一步

悪女になる紫色の紅つけて
スミレ色に染まった春の宝塚
ない色気カバーしてます紫が
意志弱い私を煽るよに紫煙
紫が似合う人だね隅にいる
紫の袱紗に思い包みこむ

こみつ
宏造
千鶴子
扶美代
ダン吉
太子
さくら

紫陽花が背伸びしている雨上がり
女偏ひきずり夢は紫に
庭の隅見て見てと紫蘭咲く
プリウスの新車が欲しい歳ですが
亡き母に買ってやりたい夢ひとつ
買う気なく試食マニアの人も客
悪気ないうらみを買ったひと言が
武器買うな買って平和がくるものか
欲しい家具余生考え買いそびれ
残り時間30分を買われる
あの人の力密かに買っている
巣立つ子とわくわく家電買った春

洋一
正義
雄太
勝久
憲彦
みつこ
ちづる

川柳茶ばしら(愛知) 金子美千代報

入院の妻の見舞いへ二輪草
紫陽花の誘いにのらず横を向く
カーナビが選んだ道が気に入らぬ
反対をされて意地でも通す道
右脚を庇えば左脚が痛む

遡行
三樹夫
まみ子
かつ子
美千代

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

優しい子どこで変わった殺人鬼
「何故死んだ」返事ができた人いない
幼児のなんででなんでが栄養素
こんなにも使っているのにボケてます
なぜ泣くの南米子等の生還のこと
核廃絶なぜにためらう被爆国
悔しがる努力したかと鈴が訊く
連敗の悔しさバネに大奮起
挫折した悔しさバネに湧く勇氣
花いちもんめ負けて悔しくなかったよ
年輪が悔しさゆるり埋めてゆく
唇を噛んで女の悔し泣き
悔し泣き三日経ったら忘れてる
母だから悔しいけれど折れておく
わたしをコケにした男生きている
かみしめた奥歯を忘れたりしない
ハト掛けはダチョウですかと言いつ切れ
正論を吐いて孤立という駄賃
アレ目指し熱気あふれる甲子園
頂点で地球儀壊す独裁者
頂点に優しい人がいる平和
いつだって今が頂点だと思っ
猫の手も借りたい頃が花でした

時雄
ひろ子
桂子
光雄
憲彦
敏治
清
ひさ子
みつこ
俣子
志津子
さくら
里子
勝弘
満知子
武人
五月
有生
和夫
佳子
ダン吉
尚邦

頂点をめざす魂まだ消えぬ

この坂を登りきつたら旗立てる

天辺に立つて私が見えますか

頂点に立つて孤独の味を知る

頂点に落ちていたのは色めがね

望月は欠けぬと思う絶頂期

英会話立派に話しかつこいい

駅舎だけ利用されてる過疎路線

絵のような理想の家を買いました

偉い人が立派な人と限らない

永遠に理屈じゃないよ介護の手

川柳塔なら

大久保眞澄報

悪気ない子の無き人に孫自慢

無神経悪気ないけど気がつかぬ

歩けない人に健脚自慢する

大皿にレモン勝手にかけはった

官邸で忘年会をする息子

形見分けの話はそばそ通夜の席

食事時ことわりも無く長電話

傍若無人ボスがミサイル打ちまくる

無神経だけどゴメンとすぐ言える

無神経なふりをするのも生きる知恵

核ボタンあの広島に持つてくる

富夫

舞夢

扶美代

玄也

恵子

進

(冊)勝弘

憲

廣子

恭子

いさお

万紗子

江里子

げんえい

すみえ

奏子

武人

いさお

栄子

茂子

ゆきみ

楓楽

ダン吉

あつさりと巷の咎め馬謖切る

犯罪とカメラの闘ぎあう巷

ちまたとは違う鬼面を暴き出す

ちまたには俺の溺れた海がある

ちまたでは流行る言葉がわからない

来た道をつくづく思う子の寝顔

動物園つくづく猿に見つめられ

生きている意味つくづくと思う日も

まだ続くため息ばかり物価高

また詐欺かつくづく弱い女グセ

つくづくと海の広さを知る未練

飲んだくれは二次会に誘ってやらぬ

孫に負け老いと衰え知る将棋

つくづく平和自由に政府批判出来

引き際をつくづく思う花筏

幸せのプレゼントです笑みを撒く

百までは仲よくしてと種を撒く

令和でも昭和のネタを撒いてます

ここだけの話と噂撒き散らす

聞きかじりの噂に尾ヒレ付けて撒く

粉々に千切り撒きたい借用証

実を結ぶ汗と努力で撒いた種

笑顔撒く誰かにきつとワープする

鬼はゝ外家族の笑顔絶えぬよう

和夫

史郎

ふりこ

昭

萌子

隆一

勝久

文聡

貫一

冬のト

敬介

勝弘

薫

敬子

寿之

じゅん子

優

良岩

崇明

眞澄

比呂志

朝子

まさじ

行久

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

帰り際母に手わたす諭吉さん

もう帰ったの妻のあいさつトホホホ

お帰りも自分で言つて靴をぬぐ

孫帰りの嵐の後を片付ける

住む人の性格わかる物干し場

ヤドカリのように身に合う家に住む

3か月住んでなじみのクレープ屋

色々とおつても帰る妻のもと

青虫さん悪いがそこをどいてんか

美人の湯美人になると書いてない

夜勤明けスマホで今日の予定表

スマホ見て会話をかわす遠い国

会議中鳥の囁りカバンから

賢くて便利なスマホ持て余し

充電が切れるスマホもわたくしも

スマホ等無くても何も困らない

たまにはとスマホ持たぬ日決めよかな

スマホ決裁後ろの人に気を遣い

顔認証いつまでスマホわかるやろ

並ぶ人横目にとらえ予約席

街並みが変わるうめきた工事中

振り返りつらら思う並でした

良種

健二

隆一

正彦

廣光

宗鉄

義明

新録

笙子

恵子

英秋

れい香

柳明

和子

厚江

和夫

こみつ

英坊

りこ

楓華

雪菜

菊江

朝子

低所得気持ちは並と日々過ぐす

シミマセン人並以上長生きで

愛があれば並のくらしで良しとする

あっぱれや岡田采配今のところ

五杯飲み五曲歌ったこの辺で

無洗米でも洗わずにいられない

早苗田に鋭気の満ちる音を聴く

若竹の天に向って真つしぐら

残業の人も乗ってる終電車

なんとなくからんでみたいいい女

なれそめは西日の当たる四畳半

煩惱を袈裟斬りにする流れ星

ブラザ川柳(大阪)

藤塚 克三報

トランプさんカード切れない罪と罰

遠まきに子供見守る若いママ

無事故無違反歳をとつても安全運転

この家は家守が守る古い家

健康に生きる為なら腹八分

キタミナミたそがれ歩く御堂筋

いつの間にか老いた夫の手支えてる

留守番の亡父にお供え栗最中

大義名分揚げて増やす防衛費

AIが善悪正誤決める世に

タンス預金ちびちび小出し孫にやる

修平

正和

いさお

祐康

勝弘

ゆきみ

ヨシエ

純

耕治

万彩

紀恵

宏造

守りたい人が現れ四股を踏む

川柳花の輪(大阪)

川本

信子報

丁寧にあなたが言うところばゆい

アバウトな私に丁寧求めないで

廃線路はうほうとして過去を絶つ

ほうほうとこの庭すきと茂る草

ほうほうの海に一点無人島

心意気みすばらしさをオブラート

みすばらしい破れた障子ののぞき穴

紫陽花の褪せた姿のみすばらし

みすばらしい服で出かける訳が有る

丁寧に生きて健康日々感謝

わかやま吟社

松原

寿子報

はた目にはちぐはぐだつて共白髪

奴がいる満場一致とはならぬ

遅い娘ひ弱な長男よ

冷や飯の無駄は後から効いてくる

弁解のちぐはぐ立ち位置をずらし

どの道も無駄でなかった春の海

菌車に足す無駄菌一枚摩耗止め

無駄遣い分かつていても親心

生かされて堪えたひと日を無駄にせぬ

楽な道よりもしつかり足固め

淳司

亜成

順子

正太郎

やすの

泰子

笑子

みち

和織

博泉

信子

深く根をおろしてここに立つ覚悟

しつかりと握つてたのは藁だった

しつかりとこの先の夢見つけた

あきまへんと言つてしつかり稼いでる

結び目は固く家族と言う絆

私に付きたいリサイクルマーク

免許返納もみじマークを撫ぜてやる

最初から花丸つける一目惚れ

都合よくしつかり者に仕立てられ

あなたのLINEハートマークが多すぎる

もの作りジャパンメイドに誇りあり

カレンダーついてる印何だっけ

ハイキング矢印マーク探す足

六甲川柳会

梶谷

和郎報

買い置きのマスクの使途を模索中

深そうに見えて浅いな我が人生

茶柱と呼んでる妻が若い声

エステとはまゆ毛省いて書くものと

環状線暇つぶしする逆回り

安心感やつぱり高い紙通帳

棘抜いて私好みのバラにする

一件落着なんとも美味しい生ビール

浅く掛け耳欝てて聞く法話

千株で大株主の顔をする

里映

大輪

小雪

保州

夕胡

知香

航太郎

あかね

八茶

晶子

俣子

節子

明

正美

忠志

次郎

義明

すみ子

崇史

博史

和宏

美恵子

栄

向かい風受けて踏んばるおんな坂

スッピンのがあなたが絶品なのですヨ

軽いのが好かれ世の中ふわふわと

ふるさとの風鈴聞いた電話口

省かれて僕にゃ分らぬギヤル会話

赤信号盲導犬は座つてる

浅い傷数多つけ合い共白髪

足が着く深さだほつと胸なでる

派手好きな神が咲かせた春の庭

ゴミ出しのルールを見張るカラスたち

昔話続きは孫に作らせる

すぐ汗になる一杯の水を飲む

そもそもはリストに載っていなかった

飲む誘い断わらないと決めている

浅からぬ縁と思う雨宿り

すみません破調ですけどよろしくね

ダム破かい憤怒の波は胸を超え

洗濯をされたもの着る有難さ

紙コップで乾杯されて飛ばされる

キョロキョロと辺り見渡し取るマスク

万博が日に日に近く楽しみだ

アンパンに詐欺防止書き目を見張る

仕舞い風呂掃除もしろというルール

物価高騰老いに悲鳴が届かない

浅い底流れる嘘はすけて見え

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

気持までまあるくなつてきた齢

ストレスをいつも溜めてる丸い人

満月を見るとヤル気が湧いてくる

丸く積み上げるとお得意になる

丸顔で怒った顔が通じない

鵜呑みしてしつぺ返し of 深い傷

莫山のマルを何度も見て飽きず

激論をジョークと酒で丸くする

夕涼み敵機もういぬ終戦日

水玉のカーテン揺れて熱い風

水玉の元祖は俺とてんと虫

少女の目覚めか蓮の葉の水玉

水玉が朝日を弾く漁の網

道化師の水玉帽にある涙

大谷のロマン満載ホームラン

ロボットのクールに対処する介護

滝の水時々混じる土石流

そのボタン外せばきつと風が吹く

風通る部屋へ移そう母の床

教室の涼風ベンを走らせる

夕涼み大人の話聴いていた

朝露で化粧して待つ茄子きゅうり

昌代

ダン吉

北朗

(立)信子

弘子

高鷺

一步

寿之

なすな

眞澄

洋二

美晴日

欣之

鈍甲

栄子

三成

紀子

龍せん

ひとみ

克己

進

直子

ひろ子

乙女座を夜空に探し片思い
鉛筆が動けばロマン匂い出す
フルーツサンドの奥で目覚めたプリンセス
傷口にそうっと入り込むロマン
風に立つライオンになる蟻の夢
生涯にひとりの男愛し抜く
これまでの教訓投げ捨て再稼働
探していますプーチンをおろすおろし金
なりたくてなつたわけではない英霊
シャーンとせよ政府マイナーへの不信(長)
武器供与それが和平と言えぬのか
拉致被害者早期救出時間ない

勝久
常男
ますみ
恵

英雄

栄子

万作

あきこ

安保子

敏子

敏治

福貴子

黒兔報

ぼたる川柳同好会(大阪)水野

梯子酒するうち浮かぶ妻の顔
盗み酒妻にばれてる赤い顔
人肌が欲しくてチンは二十秒
今宵またいつもの席で飲む安堵
乾杯はみんな笑顔で恙無し
そこから思い出せない二日酔い
ビールなら言うことなしのお中元
酒よ酒良くも悪くもいい友だ
花いっぱい植えて地球へ恩返し
子育てもほつれぬように返し縫い
自立した息子上手に鍋返し

則彦

奈津子

蟻日路

直子

勝弘

篤

宏造

一弥

楓楽

純子

正子

夢に見た母へ借金返せない
目に青葉とにかくカツオ食べますよ
翔平が打てばとにかく世は平和
メールより声が聞きたいから電話

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

底抜けの笑いが今の救世主
温暖化地球もきつと不整脈
静と動平均台に載せている
取返しつかぬラインに既読つく
人生の底辺ばかりを綱渡り
呑みこんだ言葉がひとつ胸の底
山頭火もここで見たのか初夏の山
ウクレレ弾きしばし喧騒ちと忘れ
染みるわねアンタと雨の御堂筋
倍返し期待ありありホワイテイ
入院の手続き終えてそぞろ寒
笑えない過去傷口を深くする
今が底思つて買つてまだ下がる
そろそろとギヤル神興追うカメラアイ
家内持つ制御バルブに生かされて
吉野ケ里石蓋返すクニの謎
アナログのままでそぞろに枯れてゆく
突然の再会声が裏返る
鬼の居ぬ間もなんやかや忙しい

契十 久仁子 黒兎 奉代 健二 英三 時子 真理子 晴子 さらり 北舟 憲央 すゝ代 勝久 次郎 公輔 敏昭 野鶴 義明 肇 洋志 千鶴子 英旺

コロナ明け久々の客落ちつかず
飽食を二割減らして削減す

(岩)玲子 (福)正彦 満作 武人

着飾った夜桜の古都気もそぞろ
パチンコは球技ですよと自慢する
人生に神様の打つ句読点

和織

爽やかな風に誘われ遠回り
Jアラートどこへ逃げたらおしえてよ

(初)正彦 勝弘

脈々と暖簾受け継ぐ細い腕
八十路過ぎそろそろみなに恩返し

いさお 一步

気だてのいい体重計に買い換える
咳一つで分かる夫婦のいい絆

眞澄 眞彦

城崎のそぞろ歩きや志賀直哉
明日から浮上するため準備中

則彦 美津子

国破れ青い山脈歌に生き
苦しめて踵返した日の疼き

ひとみ 黒兎

背伸びした私を試す向い風
川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

ヨシエ 和郎

縁切寺粋なはからいする仏
傘の雫しつかり切つて逢いに行く

眞澄 万紗子

シュレッター証隠滅共犯者
こつてりと教えバワハラだと言われ

篤 憲彦

深い愛母が後押ししてくれた
深いいしわ魅力となつている齢

芳香 アヤ

髪を切る誰も気付かぬ独り飯
きづかれぬよう少しづつ切つてゆく

とみ子

深緑の中で私が甦る
針仕事なくて寂しい糸切り菌

志津子 佳子

思慮深い説法涙止まらない
深読みもしすぎ低温火傷する

さくら ばっは

深い話などない婆さんの電話
生い立ちの深い話に胸を打つ

里子 民子

こつてりの言い分どうも嘘っぽい
切り口はいかがでしたか脳ドック

ふりこ 直子

マスク取れ鏡に写る厚化粧
人間を振れ合うほどに深い情

寿之 智子

ときめきが薬になつて病ぬけ
深追いはよそう傷つくのは私
義理の酒下戸は薬のように飲み
深層心理寝言でばれて一波乱
切り返す啖呵あつぱれ河内弁
ケセラセラなんでも深く考えぬ
井戸水をカランで回し汲み上げる
また増えた薬の箱を買い替えた
終戦か停戦協力深い溝
こつてりとおしろいつけて素顔消す
こつてりとお化粧をしてやつとこれ
真つ白を求めて罪深いシートツ
薬やめ元気になった人もある
分らない今朝は飲んだかこの薬

美智子 志津子 佳子 さくら ばっは 里子 民子 ふりこ 直子 寿之 智子 雅美 俊雄 福貴子 まつお 勝弘 小夜子 広子 敏明 裕之 ゆみ子 廣子 陽一

ワルイ子に一番効いたのは涙
切り捨てた過去はそのまま眠らせる
薬だと思い毎日歩いてる

理 惠
公 誠
克 博

枕からスパイス効いた談志節
美人の湯隣りに欲しい美男の湯
腰低い社長は今日も葉っぱ服
チャットGPT得休知れぬがすぐそこに

盛 夫
富 次
美津子
邦 男

嬉しいが愛されすぎも窮屈だ
沈丁花匂うところで立ち話
母の日は母さんしのび豆ごはん
いつからか公衆電話姿消す
こけたなら逆回転で逃げる独楽
八十路坂五欲じわじわ消えてゆく
照れながら亡父のことを語る母
一本のバラが笑ったプロポーズ
生きるって迷うことかな紋白蝶
会うまではいっぱいあった話すこと
風呂呂母さんとみた宵の星
伏線を胸に秘めてる謀
ありがとう敗者になったから自由
捕れたては鯛もサンマも皆同じ
さくらから「そうね」と言ってきた五月

順 子
楓 楽
一 歩
彰 一
正 靖
朝 子
いさお
美砂子
弘 子
千 賀
武 彦
壽 峰
奏 子
博 泉
恵 子

西宮きたぐち(兵庫) 緒方美津子報

のんびりの日にも七味唐辛子

紀 乃

川柳ねやがわ(大阪)

籠 島 恵子報

うちはうち他人は口出しせんといて
疑ってばかりで瘦せていく心
掻きまわし後は知らんとすつと消え
嘘ひとつ掻き回したら浮いて来る
掻きまわす奴もいなくて議事進む
コロナ旋風地球丸ごと掻きまわす
ゆつくりと掻きまわすうれしい言葉
ペラペラとよく喋るけど実がない
ヤミバイト軽い気持ちが重い罪
請け合つた軽い返事が重い枷
もう許そう軽くなったね白い骨
酒もよし医者甘さに疑問持つ
疑えば姿見せない神ほとけ
国産の松茸グラム二百円
意地か妬みか何で中国包囲網
最後には自分自身も疑つた
疑えば風の音まで気にかかる
偶然に重なる寿司も赤飯も
好きな人何度待ち伏せしたことか

泰 子
和 織
秀 雄
常 男
玲 子
信 子
あかり
高 志
かすみ
欣 之
高 鷲
篤 博
武 人
鈍 甲
銀 杏
郁 夫
ルイ子
勝 弘

趣味ひとつ我が人生の隠し味
母の日を忘れない娘に頭下げ
五月連休最終日とはしゃれた雨
しぶとさで野草と私永らえる
悔恨の情を流した走り梅雨
人生のスパイスだった苦い恋
どん底を這つて築いた立志伝
花の季は過ぎたあの日は戻らない
腰低い人が最後に勝利かも
加湿器に香水噴つて恋の夢
洗車したおそらく明日は雨模様
みそ汁のお味で妻の機嫌知り
相合傘急な雨への感謝状
齢にも明日はあるさ丸い月
弾丸の雨が止む日を祈る日々
追伸にピリッと効いた母の言
断捨離に忘れた過去がまた覗く
笑い合うやさしい気持とりもどす
感動に相手が欲しい一人旅

俊 雄
迪
洋次郎
緑
良 種
廣 光
野 鶴
敏 子
みよし
靖 夫
新 録
正 明
義 明
喜 明
利 子
千賀子
恵美子
敦 子
宗 鉄

うちがわ他人は口出しせんといて
疑ってばかりで瘦せていく心
掻きまわし後は知らんとすつと消え
嘘ひとつ掻き回したら浮いて来る
掻きまわす奴もいなくて議事進む
コロナ旋風地球丸ごと掻きまわす
ゆつくりと掻きまわすうれしい言葉
ペラペラとよく喋るけど実がない
ヤミバイト軽い気持ちが重い罪
請け合つた軽い返事が重い枷
もう許そう軽くなったね白い骨
酒もよし医者甘さに疑問持つ
疑えば姿見せない神ほとけ
国産の松茸グラム二百円
意地か妬みか何で中国包囲網
最後には自分自身も疑つた
疑えば風の音まで気にかかる
偶然に重なる寿司も赤飯も
好きな人何度待ち伏せしたことか

泰 子
和 織
秀 雄
常 男
玲 子
信 子
あかり
高 志
かすみ
欣 之
高 鷲
篤 博
武 人
鈍 甲
銀 杏
郁 夫
ルイ子
勝 弘

三田名物どこにも負けない米と肉
三田句会みどりの山と人情味
アリバイは笹カマボコのお土産で
ひとりでも讃岐うどんを食べに行く
老夫婦独り住まいが待っている
またきれいな言ってしまったノーマス
人は死ぬ楽しみな損生きてる間
辛せも不幸もみんな灰になる

美砂子
弘 子
千 賀
武 彦
壽 峰
奏 子
博 泉
恵 子

川柳さんだ(兵庫) 酒井 健二報

三田名物どこにも負けない米と肉
三田句会みどりの山と人情味
アリバイは笹カマボコのお土産で
ひとりでも讃岐うどんを食べに行く
老夫婦独り住まいが待っている
またきれいな言ってしまったノーマス
人は死ぬ楽しみな損生きてる間
辛せも不幸もみんな灰になる

雄太郎
徹
行兵衛
千賀子
善 弘
弘
義 明
洋次郎

三田名物どこにも負けない米と肉
三田句会みどりの山と人情味
アリバイは笹カマボコのお土産で
ひとりでも讃岐うどんを食べに行く
老夫婦独り住まいが待っている
またきれいな言ってしまったノーマス
人は死ぬ楽しみな損生きてる間
辛せも不幸もみんな灰になる

雄太郎
徹
行兵衛
千賀子
善 弘
弘
義 明
洋次郎

三田名物どこにも負けない米と肉
三田句会みどりの山と人情味
アリバイは笹カマボコのお土産で
ひとりでも讃岐うどんを食べに行く
老夫婦独り住まいが待っている
またきれいな言ってしまったノーマス
人は死ぬ楽しみな損生きてる間
辛せも不幸もみんな灰になる

雄太郎
徹
行兵衛
千賀子
善 弘
弘
義 明
洋次郎

確實に記憶の消えた三軒目

安保反対我が青春の一ページ

近場より遠いイオンでまとめ買い

すぐそこと言われて行けば一時間

ほんとうは耳が遠いのかも総理

認知症思いたく無い先の事

地球儀に近くて遠い国がある

会える時会っておきたい人ばかり

逆転はポテンヒットで始まった

大当たりさけんでみたい宝くじ

ヒット曲一本あつて演歌歌手

ヒットよりお前に似合うホームラン

儲かるなら自分でやれと電話切る

面倒な事君に預けて能天気

金婚に夫婦の契り預けてる

預けただけはいや貰ったと揉めている

いましばし肩を預けていいですか

借金も貯金もないと威張る父

母の日のお菓子いっぱい胸いっぱい

若葉ゆれ小鳥がうたうみどりの日

大樹の陰かどうする自分一匹か

出張の息子と飲んで聞く悩み

連れ合いが知つてくれるそれでいい

ああ八十朝の五時には目が覚める

若葉風ふわりと希望が湧いてきた

博

正和

和郎

英秋

勝弘

敏夫

健二

ひとみ

宏造

和子

迪

祐康

雅尚

登志子

俊朗

灯子

おさむ

義徳

喜久子

美和子

三ツ代

宗鉄

美津子

耕治

ヨシエ

病む母にスマホの花火見せてやる

沢山食べ大きくなあれ鯉のぼり

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

叱られておこうそのうち雨は止む

雨男でてるるぼうず吊つている

静寂に雨垂れの音しみわたり

古代史の卑弥呼はきつと雨女

弾丸の雨降る国を思いやる

いささかのべんちゃら混じる披露宴

幸せと豪語する顔影ちらり

マスク取ればいささか老いのある鏡

いささかの不満も言わぬ母強し

いささかの意見の違い深い溝

そのまんまメーク落とした君で良い

化けんでも化粧落せばそれで済む

走ってるのに歩くのが早いねと

どうせなら光げんに化けたいね

出た所勝負私にベースなどはない

ベース配分考えさせる余命表

酸味辛み増して人間らしくなる

育成選手化けて活躍プロ野球

いささかの自惚れ秘める力瘤

あじさいは七変化して咲き誇る

本音までいささか足りぬ酒二合

母の味忘れて今は妻の味

修平

一子

和美

真澄

洋二

香代

世紀子

義泰

あさ子

あかね

節子

規子

恭子

たか子

桃代

英夫

ダン吉

勝彦

まさひろ

敦己

ふさゑ

五十美

寿之

喜代志

薄味に慣れた男に覇気が無い

山坂を越えて夫婦の味になる

脇役の方が良い味出している

本当にいささかだった遺言書

大山滝句座(鳥取) 新家

完司報

持ち切れぬ荷物背負えば医者通い

日本に旨いものあり塩むすび

糸切り歯だんだん威力なくなつた

歳重ね欲の重さも軽くなり

大の字になつてゆつたり腰伸ばす

一呼吸ゆつたりと血は風いでゆく

紅茶葉がポットの中で目を覚ます

タイムセール髪ふり乱しわし掴み

外野席ひとりに一つあるベンチ

糖尿病人食べたい欲をおさえ込む

夢ヤル気不屈の再起願う母

ゆつたりとジンベエザメの青い海

ヤル気あるのかね丸で金魚の糞

ゆつたりがいいねと太鼓腹が言う

恋をして頑張れそうなタイエツト

プライドの周りに欲がこびりつく

食欲があつて嬉しい手術明け

永らえて控え目ですがもう少し

欲張りがガラクタばかり掘っている

食欲はあるからたぶん健康だ

恵子

ひろ子

珠子

航太郎

八千代

幸子

けいこ

由紀子

風露

紫陽

順子

楓花

くにこ

久子

コスモス

芳光

雄大

紀の治

正人

芳山

ゆたか

余光

麦青

富隆

深呼吸五回で眠りつく一日

欲という奴は鬼より恐ろしい

ゆつたりと暮らせる日本有り難い

魚影見てヤル気が湧いた流し網

やり残すこと多すぎてまだ逝けぬ

作業着はヤル気に満ちて物干し場

川柳藤井寺(大阪)

鈴木いさお報

妻の声小さくなった電話口

大衆の声なき声を聴く政治

雑草にも名前をつけて声かける

甲子園声を枯らした甲斐もなく

ガンですわね言われ相手に不足ない

コーラスのおかげ充分声は出る

逃げるより向き合う方がずっと楽

合わないと避けてた人の意外性

意地悪な人だパズルの出題者

パズル解くように人の名思い出す

パズルと同じように思う五七五

向き合って話せば何のことはない

親と子で笑い乍らのパズル解き

新聞のパズルで脳を洗ってる

わたくしの命は神仏の手の中に

気が付けばクロスワードで乗り越して

仏壇に向かっていると悩み失せ

小鹿

石花菜

清明

重忠

規雄

完司

さくら

正義

憲彦

まつお

一步

瑠美子

扶美代

喜代子

比呂志

かずお

勝弘

倅子

シマ子

ひろ子

みつこ

勝久

ちづる

この病とことん腹は決めている
向き合うともう娘ではない女
幸せのピース二人でうめてゆく
反戦の声がロシアへ届かない

ダン吉

亜成

満知子

いさお

新同人紹介

〒69210003

安来市西赤江町342-8

原^{はら}徳^{とく}利^り

—完司・芳山推薦

〒66110014

尼崎市上ノ島町2丁目24-7

宗^{そう}和^{かず}夫^お

—朱夏・勝弘・宏造推薦

残暑お見舞申し上げます

森松まつお

〒580-0026 松原市天美我堂
三—一三〇—二—四〇四

残暑お見舞申し上げます

柳田かおる

〒791-8082 松山市梅津寺町五六

残暑お見舞申し上げます

米澤倅子

〒599-0301 大阪府泉南郡岬町
三〇二六—九七

残暑お見舞申し上げます

山本加お里

〒544-0024 大阪市生野区生野西
一—一五—二〇
電話〇六—七一八三—〇七五二

柳界展望

秀句賞 北山まみどり

口紅を一本買つてマスキとする

順位賞第3位 真島久美子

★川柳としげ吟社創立40周年全国誌上川柳大会。参加者405名。同人・誌友成績。

準大賞 前田 楓花

生き方が私の顔に描いてある

準大賞 高瀬 霜石

讃美歌で締めくくるほくのお祭り

準大賞 古久保和子

生傷の絶えぬ此の世が面白い

準大賞 平井美智子

抜いても抜いても抜いても生える棘

準大賞 安藤 敏彦

僕はまだ生です押すとへこみます

★第33回時の川柳交歓川柳大会。参加者108名。同人・誌友成績。

兵庫県芸術文化協会賞

特選 木本 朱夏

思い切り泣いて火を吐く栢榴の朱

準特選 真島久美子

鬼火にもなれずひとり夜の夜を編む

天位 宇都満知子

顔が見たいのにカーネーション届く

▽出版△ 新家完司さん（鳥取県）が、『ようたんぼうのうた』（B6判、96頁、1200円＋税、新葉館出版）を出版。

▽訂正とお詫び△

○五月号P117「川柳ささやま」2句目作者、恵子↓智恵子。

○六月号P55石橋優明5句目、海抜ゼロメートル↓海抜ゼロメートル。P59宮本千恵子4句目、被害妄想↓被害妄想。P93「川柳ささやま」9句目、

鏡の中老婆と同じ私居る

恵子↓鏡の中老婆と同じ私居る 智恵子。P98「翠洋会」17句目、申し出に

より抹消。

○七月号P54下段齋藤奈津子4句目、夢の続きが見たく↓夢の続きが見たくて。P70下段8行目、

仲筋弘充↓中筋弘充。P81中段後ろから4行目、

両澤行平、衛↓両澤行兵衛。P81中段後ろから3

句目、効果で終う↓校歌で終う。

P82中段7句目、検査履歴↓検査履歴。P83中段

15行目、坂本秀子↓阪本秀子。P84下段「自由吟」

5句目、合わぬ間に↓会わぬ間に。「自由吟」9

句目、居谷真理子↓平松

かずみ。P87佳句地十選

和子選1句目、緑日の↓緑日の。P94中段21行目、

朝子↓萌子。P99上段3行目、「白樺の人」↓「白

樺のひと」。

▽ご芳志お礼△ 八甲田さゆりさん（豊橋市・誌友）より金一封を

頂きました。

▽常任理事会△ 7月6日。出席16名。①

「第29回川柳塔まつり」の具体化②「同人総会」

各部議案作成の依頼③六

賞選考委員の選出④次年

度役員補充推薦について

⑤同人・誌友拡大につい

て⑥定例確認事項。

次回常任理事会8月10日（木）AM10

お詫び

7月号「檸檬抄」投句用紙の兼題を、「サイズ」（正しくは「記号」と誤ってお知らせしました。ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

句会名	日時と題	会場と投句先
西宮北口 川柳会	14日(月) 13時30分締切 席題・毎日・帰る・こわい 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
川柳 ねやがわ	15日(火) 13時締切 裏口・伏線・覚悟・怪談 自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川柳 さんだ	15日(火) 13時30分締切 適当・深い・ラウンジ・刻む 自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1322 三田市すずかけ台3-4-1 E棟804 村田 博
岸和田 川柳会	19日(土) 14時締切 縄・声・ちゃっかり・チャンス	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川柳 たちばな	19日(土) 13時45分締切 印象吟・闇(互選) 「な」で始まる句・自由句	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 みちのく	19日(土) 17時締切 熱波・原因・痛々しい	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 藤井寺	20日(日) 14時締切 帰省・ずれる	会場 パープルホール4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	21日(月) 14時40分締切 証拠・震える・ストレス・雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	21日(月) 14時締切 派手・曲げる・辛い・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳塔 すみよし	26日(土) 14時締切 脇・越す・ブーム	会場 住吉区民ホール集会室4 (図書館棟2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸川柳会	26日(土) 13時15分締切 汗・滝・歩く	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市民会 川柳会	27日(日) 14時締切 黒・祈る・ゆらゆら・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷺」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	27日(日) 13時から 自由吟・働く・外 似合う・席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

8 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 塔 な ら	3 日(木) 13時50分締切 線・なるほど・ふくれる	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅③番出口徒歩 5 分 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
城 北 会 川 柳 会	5 日(土) 開場13時 締切14時 難しい・ほどほど・無茶 自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	5 日(土) 14時締切 発見・すいすい・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200 m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉 吉 川 柳 会	5 日(土) 14時締切 熱・感・ドン・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川 柳 塔 ま つ 吟 社	5 日(土) 13時40分締切 手・流れ・太陽・泣く	会場 雑貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
川 柳 塔 わかやま 吟 社	6 日(日) 14時10分締切 兼 題 = 効果・くるり・チェック 課題吟 = 火	会場 和歌山県JAビル1 1 階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桑原道夫
おりひめ☆ ひこぼし 川 柳 会	7 日(月) 消印有効 気長・雲・お月様	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人
ほ たる 川 柳 同 好 会	8 日(火) 13時30分締切 車、自転車・飾る・ゆっくり	会場 豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川 柳 塔 さ か い	8 日(火) 14 時締切 ハプニング・滝 折句：へ・ち・ま	会場 東洋ビル 2F (堺東駅北西改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら
川 柳 あまがさき	8 日(火) 14時締切 握る・覚悟 (連記)・遠い 自由吟	会場 東園田町総合会館 2F 阪急園田駅北口徒歩 2 分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
あかつき 川 柳 会	11日(金) 八・握手・ダイビング・時事吟	会場 大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2 階 あかつき川柳会
六 甲 川 柳 会	12日(土) 14時締切 席題・凸凹 (デコボコ・おうとつ) 薄い・眠る・自由吟	会場 灘区民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川 柳 塔 打 吹	12日(土) 13時30分締切 刃・干す・ぼとぼと・席題	会場 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局

編集後記

★28日、もろもろの事情により急遽入院（入院は初めてのこと）。

★6月22日（木）朝のこと。我が家の駐車場から

「ギャー」という鳴き声がして、「猫をひいてしまった」という家内の声が聞こえた。

★見ると、子猫の前足の先が左前輪に挟まっている。車を持ち上げようとしたところ、グキッと音がして転んでしまった。文字どおり這々の体で家に戻った。子猫は、近所の方も手伝ってくれて無事逃げ去っていった。

★ぎっくり腰は安静にするしかないといっていたので二日寝ていたが、痛みはひどくなるばかり。24日、救急車（初めて乗せて貰った）で病院に行きレントゲンを撮ったところ、腰椎が2本骨折していた。痛みはずだ。

★26日、装具採寸。

★7月3日、装具装着。床上安静だったのが歩行器歩行（自立）に。

★この号がお手元に届く頃には退院している予定で。

（道夫）

◇小杉健治著の時代小説『栄次郎江戸暦』を26巻まで読んだ。田宮流抜刀術の達人で、三味線の名手でもある文武二刀流の世話焼き次男坊が主人公。

◇例えば「舞踊『汐汲』は、須磨に流された在原業平と海女姉妹との恋物語を扱ったものである。幕が開き、三味線の前弾きが始まり、置唄となる。『松一本変わらぬ色のしるし』とて絵島の浦風に」ここで汐汲姿の松風が花道から登場・・・とか。

◇また「名古屋の宮の遊里で流行ってた都々逸でござる。三味線を抱え

こころと生まれる

ストーリー

日ごろ五・七・五とやっていて、つい七・七とやってみたくなることがあります。遊び心が働いて間延びしたなりにストーリーが生まれたりするわけです。一応は短歌としたものです。気まぐれな余興に過ぎませんが、当人はちよつとした歌ができたと思って、これは

いけるんじゃないかな？と錯覚というか自己満足に浸りたくありません。

ただしよく読み返してみると、川柳と親戚合い？の狂歌になっている始末です。ひいき目に見ても短歌もどきを越えることはありません。要するに凡庸なる浅学のお遊び。こんなこともしながら本命に磨きがかかれば！。

（三谷松太郎）

て『君は吉野の千本ざくら色香よけれど』が多に、漱石山房と子規庵をい『私しや春雨主や野見学した。の花よ濡れるたびごと色を増す』と色つぼく……

◇一方、御徒目付、町奉行とのテンポの良い謎解き剣劇も愉しい。江戸の文化や武士町人の人間模様を叙情豊かに描いた秀作である。川柳に役立つかどうか分かりませんが一読されては如何でしょう。

（憲彦）

ころ、病床の子規が激怒吹いたらしい。

◆カルチャーの柳友に勧

て『君は吉野の千本ざくら色香よけれど』が多に、漱石山房と子規庵をい『私しや春雨主や野見学した。の花よ濡れるたびごと色を増す』と色つぼく……

◆カルチャーの柳友に勧

（国和）

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「

「発表(10月号) 地名

市都
道府 姓雅号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにご利用いたします。

檸檬抄投句用紙

「本気」(8月15日締切)

10月号発表

川本真理子 選 — 共選 — 鈴木いさお 選

B A

--	--

地名

市都
道府
姓雅号

B A

--	--

地名

市都
道府
姓雅号

切らないで下さい

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい

二賞選考

応募用紙

きりとりせん

○印を入れてください。

川柳塔賞（水煙抄欄・誌友）	路郎賞（川柳塔欄・同人）

月	月	月	月	月
頁	頁	頁	頁	頁

締切 8月15日(火) 必着

◎ 下段に掲載月と掲載頁を記載のこと。
◎ 裏ページの要項を読んで応募してください。

地名

姓・雅号

応募要項

① 川柳塔欄・水煙抄欄に六カ月以上、出句した人に応募資格を認める。

② 令和四年9月号から令和五年8月号までの自分の入選句から5句を選ぶ

路郎賞——同人は川柳塔欄から応募

川柳塔賞——誌友は水煙抄欄から応募

③ 5句と掲載月、掲載頁を楷書で書き、8月15日(火)必着のこと
④ P 78・P 79を参照して下さい。

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

氏名	住所	電話	紹介者
	〒 —	— —	— —

○ ○

年 年

月から半年
月から一年

5000円
9800円

—

該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社(電話 06-6779-3490)

振替 00980141298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

作品募集

10月号発表 (8月15日締切)

川柳塔 (8句)	小島蘭幸 選
水煙抄 (8句)	川上大輪 選
愛染帖 (2句)	新家完司 選
檸檬抄 (2句)	鈴木いさお 共選
インスピレーション・ナビ (2句)	川本真理子 選
一路集 (2句)	「やがて」大西泰世 選
「まづい」(3句)	「糸」石村玄也 選
初歩教室「まづい」(3句)	水澤はる子 選
初歩教室「まづい」は11月号発表	黒兎担当 選

11月号
檸檬抄「裂く」
一路集「スクラム」「かりかり」
初歩教室「カレンダー」

本社8月句会

とき 8月10日(木) 13時開場・13時40分締切
ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間
天王寺区石ケ辻町19-12 電06・6772・1441

おはなし 「先達のユーモア句」
兼題 「シヨック」
「戦う(闘う)」
「遠い」
「責任」
「自由吟」

兼席題
鈴木いさお氏
栃尾奏子氏
長谷川崇明氏
森田旅人氏
内藤憲彦氏
古今堂蕉子氏
小島蘭幸氏

会費 1000円
投句料 1000円(切手不可)

(各題2句以内)

本社9月句会
7日(木) 午後1時から
兼題「使う」「ほんやり」
「壊れる」「色色」「自由吟」

本社句会欠席投句のお薦め

*幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚
に一句ずつを書き、裏面に題とお名前
を記入のこと。
*投句料1000円(切手不可)。
*句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

〒543-0052
大阪市天王寺区大道一丁目一四一七
花野ビル201号室
発行所 川柳塔社
電話(06)六七九三・四九〇番
振替〇〇九八〇一四二九八四七番

定価 八百円(送料100円)
半年分 五千円(送料共)
一年分 九千八百円(同)

二〇二三年(令和五年)八月一日発行

発行人 小島和幸
編集人 桑原道夫
印刷所 美研アート

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等
あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
ホームページ <https://www.bikenart.com>

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>

コーキコーポレーションは
川柳塔を応援しています。

句箋

川柳塔本社句会と同じ句箋

サイズ 4.5cm × 25cm

厚み 90kg

一箱 7000 枚入り 代金 5000 円（送料込）

申込先 川柳塔社 電話・FAX 06-6779-3490

※ 到着後、代金を下記の郵便振替口座へお振り込み下さい。

加入者名 川柳塔社

口座番号 00980-4-2948479